腹端に縦皺を具へ、尾端に數本の鈎刺あり、七月上旬羽化す、越年の狀判然せず、其數多からず、從つて大害なし。

分布 北海道本州滿洲印度。

倘夜蛾科に屬するものにして本邦害蟲と稱し得べきもの左の二十八種あれども、何れも主要のものにあらざるが故に爰には其大概を記すべし。

(七二) いたやけんもん Acronicta aceris L.

被害植物 いたや、とちのき。

特徴 成蟲 前翅灰白色、横線は暗色にして何れも波狀翅底に劍狀紋ありて判然せざる二三枝を出す、環狀紋は白色、兩側に黑色の弧線あり、周圍一寸五分。

幼蟲 黄色、黄褐色の長毛を簇生し、背面に稜形の大白紋ありて、其周圍は紫色なり、年一回發生す。

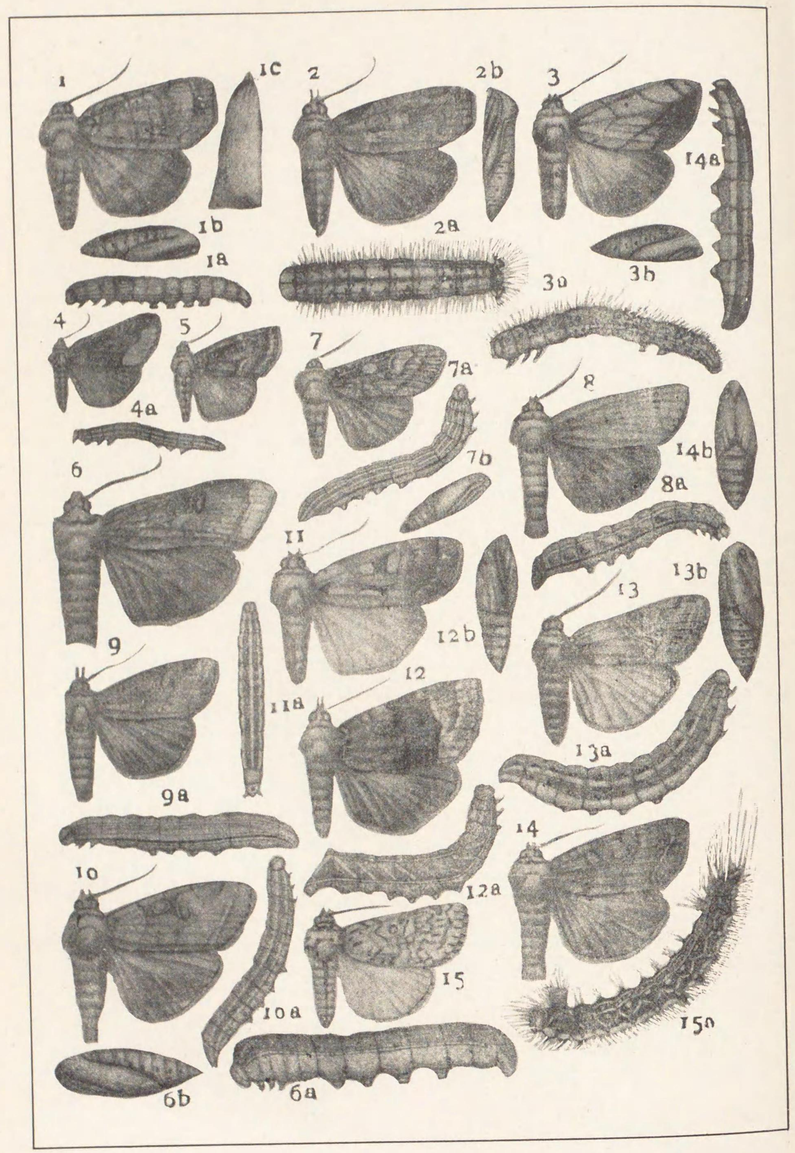
(七三) はんのけんもん Acronicta alni L.

被害植物 赤楊槲。

特徴 成蟲 前翅灰色、少しく赤味を帶び、後緣の半部環狀紋及び腎狀紋の中間は暗色、第五脈の處に劍狀紋あり、開張一寸二三分。

幼蟲 紫黑色、各節に廣き黄色帶を具へ、長形の太き黑毛を粗生し、其末端は頭狀に肥大す、長さ一寸二三分、年一回の發生をなす。

第貳拾四圖



第貳拾四圖

1. Blenina senex Butl. きのかはが……P.577
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹 *1c.* 繭
2. Gadirtha inexa ta Wk. なんきんきりはもどき……P.578
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹
3. Acontia (Xanthodes) transversa Gn. ふたとがり……P.580
   3a. 幼蟲 *3b.* 蛹
4. Lithacodia (Erastria) fasciana L. しろふこやが……P.581
   4a. 幼蟲
5. Lithacodia stygia Butl. うすしろふこやが……P.582
6. Xylina (Calocampa) formosa Butl. きばらもくめ……p.587
   6a. 幼蟲 *6b.* 蛹
7. Panolis griseovariegata Goez. まつきりが……P.588
   7a. 幼蟲 *7b.* 蛹
8. Monima (Taeniocampa) munda Esp. すももきりが……P.589
   8a. 幼蟲
9. Monima (Taeniocampa) incerta Hufn. かばきりが……P.590
   9a. 幼蟲
10. Monima (Taeniocampa) stabilis View. ぶなきりが……P.591
   10a. 幼蟲
11. Monima (Taeniocampa) carnipennis Butl. あかばきりが……P.591
   11a. 幼蟲
12 Amphipyra erebina Butl. こしまがらす……P.593
   12a. 幼蟲 *12b.* 蛹
13. Prodenia litura F. (=littoralis Boisd) はすもんよとう……P.597
   13a. 幼蟲 *13b* 蛹
14. Polia (Mamestra) illoba Butl. くはよとう……P.601
   14a. 幼蟲 *14b.* 蛹
15. Moma chapa Moor. きばらけんもん……P.611
   15a. 幼蟲

(七四) おほほそばけんもん Acronicta cuspis Hb.

被害植物 赤楊榛(シナノキ)。

特徴 成蟲 前翅暗灰色,少しく紫色を帶ぶ,横線は暗色なるも判然せず,波狀線は黑色,內側は灰白色,第二,第五及び中脈の下方に一劍紋あり,開張一寸六分。

幼蟲 暗色,背線は黃色,氣門線は白色,各節に赤紋を具へ,第五節に黑瘤ありて,之より暗色の長毛束を直立せしむ,長さ一寸二分。

(七五) しろけんもん Acronicta leporina L.

被害植物 赤楊樺柳。

特徴 成蟲 前翅灰白色,橫線を缺き,波狀線は黑色,翅底及び第二脈の下方に黑色の劍紋あり,腎狀紋は其外側に黑色の弧線を有す,開張一寸五分。

幼蟲 淡綠若くは黃色,黑紋を裝ひ,長き白毛を簇生し,時に黃色を帶ぶ,第四,第六,第八及び第十一節に黑色の毛束あり,長さ一寸二三分。

(七六) いぼたけんもん Acronicta ligustri F.

被害植物 いぼたとねりこ。

特徴 成蟲 前翅暗褐色,環狀紋及び下方の二紋は鶯色,外緣の三分の一は灰白色,外緣の中央及び後緣角は暗色,全面に黑色の波狀線多し,開張一寸二分。

幼蟲 綠色,背線は白色,氣門線は黃色,亞背線の處に白紋を散在し,氣門は赤色,黑毛を

粗生す、年一回の發生をなす。

(七七) どろけんもん Acronicta jsi L.

被害植物 白楊、赤楊、榛(シナノキブナ)、櫛、薔薇其他果樹。

特徴 成蟲 前翅は灰白色、紋條は黑色、環狀紋及び腎狀紋は判然し、前者は內側、後者は外側にて黑色の弧線を有す、翅底の劍紋は太く、一枝を出す、尙第二及び第五脈の處に劍狀紋を具へ、後翅に暗色帶あり、開張一寸三四分。

幼蟲 「おほほそばけんもん」に酷似す。

(七八) からふとごまけんもん Fanthea cœnobita Esp.

被害植物 とうひ、とどまつ。

特徴 成蟲 前翅は灰白色、犬牙狀の黑紋を散在し、一見「のんねまいまい」に似たり、後翅は暗色、開張一寸五分內外。

幼蟲 暗藍色、長毛を簇生す、接合部は赤色、第四及び第十一節に長毛塊あり。

(七九) むぎやが Agrotis tici L.

被害植物 麥、葡萄、甘菜、牧草。

特徴 成蟲 前翅は暗色、前緣に白鱗を散在し、中脈は白色、中室の下方に黑條あり、腎狀紋の兩側に黑紋を具へ、黑色の前線は波狀をなす、開張一寸二分內外。

幼蟲 暗黃色、背線は淡色、亞背線は暗色、其下方は淡色、氣門上線及び氣門線は少しく

綠色を帶ぶ、稀なり。(附言——之は果して本邦に產するや否やは疑問なり)

(八〇) しろなやが Spodoptera (Hermonassa) formosana Mats.

被害植物 白菜、其他蔬菜類。

特徴 成蟲 前翅細長、暗色、腎狀紋の周圍及び環狀紋は灰白色、前緣に灰白色の點刻を列ね、波狀線は灰白色にして判然す、後翅は白色、半透明、開張一寸內外。

幼蟲 其色に淡綠、暗灰、灰黃等あり、背線及び亞背線は點線より成り、氣門線は暗色、體長一寸內外。(臺灣素木農學博士害蟲報告 P. 909)

(八一) しろみみあかよとう Parastichtis (Hadena) basilinea F.

被害植物 麥、牧草。

特徴 成蟲 前翅黃褐色、環狀紋及び腎狀紋は大にして淡黃褐色、翅底に暗色の一斑紋を具へ、波狀線は淡黃褐色、外緣は暗色、開張一寸四分。

幼蟲 灰褐色、背線及び亞背線は白色、後者は細し、各節に黑疣を散在す、體長一寸二三分。

(八二) しやうぶおほよとう Gortyna (Heterojha) leucostigma Hb.

被害植物 菖蒲。

特徴 成蟲 前翅は暗褐色、腎狀紋は白色、前緣にも一小白點あり「しやうぶやが」に酷似す、開張一寸二分。

幼蟲　黑褐色,背線及び亞背線は淡色,兩端の硬皮板は黑色,頭は褐色,體長一寸內外,年一回の發生,幼蟲は根若くは莖內に蠹入す。

(八三) ふきよとう Hydroecia petasitis Dbl.

被害植物　蕗(フキ)。

特徵　成蟲　褐色,少しく灰色を帶ぶ,橫線は濃色,環狀紋,腎狀紋及び外緣に近き一帶は淡色,後翅は灰褐色,暗褐色の一帶あり,開張一寸六分。

幼蟲　灰白色,暗色の食道を透視し得べし,疣起は黑色,氣門は白色,黑環あり,頭及び兩端の硬皮板は褐色,蕗の根及び莖內に蠹入す。

(八四) かしはきりが Monima (Taenicampa) gothica L.

被害植物　槲,楢(シナノキ)。

特徵　成蟲　前翅淡褐色,前翅の中室にく字形の黑紋を具へ,其下方の一紋及び前緣の三紋は黑色,開張一寸二三分。

幼蟲　綠色,背線及び亞背線は黃色,氣門上線は黑色,氣門線は白色にして太し,體長一寸四分內外。

(八五) にれきりが Calymnia affinis L.

被害植物　楡,榆。

特徵　成蟲　前翅は黃褐色,橫線は白色,中橫線は暗色,後橫線は中脈の處にてく字形に曲る,翅端に黑色の二點あり,開張一寸內外。

幼蟲　黃綠色,五條の白線を具へ,疣起及び氣門は黑色,葉を綴り,其內にありて食害す。

(八六) なしきりが Calymnia pyralina View.

被害植物　梨,李,樹,槲,楡,栒。

特徵　成蟲　前翅は灰褐色,橫線は濃色,後橫線は一双にして,中脈の處にてく字形に曲り,其上方に弦月形の淡色紋あり,開張一寸二分。

幼蟲　淡綠色,白色の縱條を具へ,氣門線は黃色,上方は暗色にて緣取らる,氣門は赤色,體長一寸一分內外。

(八七) やなぎきりが Ipimorpha (Plastenis) retusa L.

被害植物　柳,白楊。

特徵　成蟲　前翅灰褐色,橫線は太く暗色,何れも內側は淡色,環狀紋及び腎狀紋は大にして判然す,波狀線は大にして太し,外緣角の下方は少しく刳らる,開張一寸內外。

幼蟲　淡綠,背線,亞背線及び氣門線は白色,後者は波狀をなす,體長一寸內外,葉を綴り其內にありて食害す。

(八八) したをびきりが Xanholeuca (Hoplrina) croceago F.

被害植物　槲。

特徵　成蟲　前翅黃褐色,橫線暗色,環狀紋は二重にして大,後橫線の處に點線あり,波狀線

は中横線と平行し波狀をなさず、後翅は灰白色、開張一寸一分內外。

幼蟲　灰黃色、暗赤紋を散在す、疣起は白色、背線は淡色、判然せず、第四乃至第十一節にV字形の褐色紋を具へ、第十一節に瘤起を具へ、其下方に二白紋あり、體長一寸二分。

(八九) いちごきりが Orbona (Orrh. dia) fragariae Esp.

被害植物　和蘭苺。

特徵　成蟲　前翅は灰褐色、橫線及び波狀線は灰黃色、環狀紋及び腎狀紋は灰黃色なれども不完全、波狀線及び後橫線は平行す、後翅の後緣は黃色、開張一寸八分。

幼蟲　黃色、背部は赤味を帶び、腹面は淡色、頭は褐色、苺の外種々の雜草をも食す。

(九〇) かしはをびきりが Conistra (Orrhodia) vaccinii L.

被害植物　槲。

特徵　成蟲　前翅は褐色、若くは黃褐色、紋條は淡色、腎狀紋の下方に一黑點あり、開張一寸一分內外。

幼蟲　黃色若くは赤褐色、暗色紋を具へ背線及び亞背線は淡色、氣門上線は少しく綠色を帶ぶ、氣門は黑色、初めは槲に居れども半ば成長すれば種々の灌木を食す。

(九一) はんのきりが Lithophane (Xylina) furcifera Hb.

被害植物　赤楊樺。

特徵　成蟲　前翅は暗灰色、翅底の一斑紋及び中央に近き二斑紋は黑色後緣に近き一斑

紋は分叉す、波狀線は灰黃色、開張一寸五分。

幼蟲　暗褐色若くは赤褐色、黑色の紋條にて斑をなす、縱線は淡色、背線に沿ひ菱狀紋を列ぬ、亞背線に沿ひ黑斜條あり、體長一寸四五分。

(九二) しろくびきりが Lithophane (Xylina) nigrica Hb.

被害植物　赤楊。

特徵　成蟲　前翅は灰色、紋條は暗色、橫線は黑く波狀をなし、前橫線は一双あり、腎狀紋は灰黃色、波狀線は灰色、後翅は暗灰色、暗色の一帶あり、開張一寸四分內外。

幼蟲　灰褐色、背線、亞背線及び氣門線は天鵞絨樣の黑色にして斷續し、赤綠及び黃綠を混ず、長さ一寸三分。

(九三) かしはきぼしきりが Lithophane (Xylina) ornithopus Rott.

被害植物　槲。

特徵　成蟲　前翅は灰色、翅底の一縱紋、前緣の短斜條列、並に腎狀紋の下方にある二三の短縱條は黑色、腎狀紋は灰黃色、其周緣は判然せず、開張一寸三分內外。

幼蟲　青綠色、白斑を散在す、背線及び亞背線は白色、氣門線は黃白色、體長一寸二三分。

(九四) きくせだかもくめ Cucullia asteris Schiff.

被害植物　菊。

特徵　成蟲　前翅は細く、灰色、前緣は廣く暗灰色、後緣は暗色、後緣角に近く暗色の一弦月

形紋あり、前翅端は鋭角をなして尖る環狀紋及び腎狀紋は灰色、開張一寸六分。
幼蟲　黃綠色、背線、亞背線及び氣門線は黃色、黑緣を有す、頭は黃褐色、黑紋あり、體長一寸四五分。

(九五) あふひが Xanthodes malvae Esp.

被害植物　葵(アフヒ)、芙蓉。

特徵　成蟲　黃色、前翅の橫線、後橫線及び波狀線は暗色、雄にては腎狀紋は暗色にして判然す、外緣は暗褐色を帶ぶ、開張一寸內外。
幼蟲　淡黃色、背線及び亞背線は白色にして細けれども判然す、第二及び第三節に暗黃色の斜條を具へ、後節には黑緣ある黃紋を具へ、氣門上線は黑色、黑疣起を散在す、色に諸色あり。

(九六) つめぐさきしたば Gonospileia (Euchlidia) glyphica L.

被害植物　苜蓿(ウマゴヤシ)。

特徵　成蟲　前翅は灰褐色、黑褐色の廣き二帶を裝ひ、翅端に近く紡錘形の黑褐紋あり、環狀紋は小にして黑褐色、腎狀紋は淡色、其外側に三角形の黑褐紋あり、後翅は黃色、翅底及び中央の橫帶は暗色、開張一寸二分。
幼蟲　黃褐若くは赤褐色、背線は暗色、腹脚は退化して二双あり、頭は黃褐色、二暗色條あり、體長一寸四五分。

(九七) きんすぢあつば Madopa salicalis Schiff.

被害植物　柳。

特徵　成蟲　前翅は灰色、黃褐色の側緣ある黑褐色の三橫線あり、外緣の一線は暗色、其內方に黑色の小點刻あり、開張九分。
幼蟲　綠色、若くは灰綠色、各節接合部は黃色、氣門は黑色、體長六分五厘、蛹にて越年、蛹黑褐色、光澤あり、幼蟲は七月より八月に亘りて食害す。

(九八) はなだかあつば Hypena rostralis L.

被害植物　葎草(カナムクラ)。

特徵　成蟲　前翅暗褐色、中室に黑褐色の二鱗塊あり、中央に近く淡色の一斜條ありて、其外側の前緣にある菱狀の一紋は灰白色、前緣角の中央に黑褐色の一斜條を裝ふ、下唇鬚は甚だしく前方に突出す、開張一寸內外。
幼蟲　綠色、氣門及び疣起は黑色、頭は黃褐色、體長一寸內外、幼蟲は葉に孔を穿ち食害す、成蟲にて越年す。

(九九) ふたをびあつば Hypena probosidalis L.

被害植物　葎草。

特徵　成蟲　前翅は暗褐及び黑褐色の二帶を具へ、外緣と橫線との中間に判然せざる暗色の一帶あり、開張一寸三分。

幼蟲　綠色、各部の接合部は黃色、背線は暗色、疣起は淡色、之より一本の短毛を生ず、側線は黃色、頭は黃褐色、體長九分內外、年二回の發生、第一回は五六月、第二回は八九月、成蟲現はる、幼蟲は幼時は葉に潛入すれども後には葉を綴り其內にありて食害す。

鈎蛾科　Drepanidae

(一) ふたつめかぎば Oreta calida Butl. (第二十五圖版(1))

被害植物　がまづみ、ごまき、さんごうじゆ。

特徵　成蟲　體翅暗褐色、翅には多數の黑點を散在し、前翅の前緣角は著しく鈎狀をなす、中央には暗色の橫線を具へ、其線上に褐色の圓紋を裝ふ、翅端の內方に く字形の黑條を斜走し、其外方に平行せる一斜條あり、後翅にも亦二條の黑帶を裝ふ、緣毛は黑褐色、體長五分、開張一寸四分。

幼蟲　頭は暗褐及び黃褐色を混じ、灰黃色の顆粒を散在し、兩側に短角突起を裝ふ、體は綠色、第一及び第二節の背部は暗褐色、第一節の短角突起は黃褐色、第三節の背上にある肉狀突起は暗褐色、小顆粒を密布す、第四乃至第十節の背面の一帶は暗褐色、第三節より第八、九節に亘り不完全なる暗褐色の亞背線あり、第四節の側部に短き暗褐色の一條ありて、前下方より後上方に斜走す、第五節より第六及び第七節に亘りて黑褐若くは紫褐色の斜條あり、之は第七節の各亞背線部に達して再び下方に走る、末端は

尾狀に延長して暗褐色を呈し、淡黃色の二環を具へ、小顆粒を密布す、腹面は稍々灰白色、體長一寸三四分。(長野菊次郎氏に依る)

經過　年一回の發生、卵子にて越年す、幼蟲は四月上旬より現はれ、同下旬若くは五月中旬に至り漸次老熟し、圓錐形の白繭を營み、其內に蛹化し、約二週間を經て羽化す、蛹は捲葉內にありて黑褐色、腹部は黃褐色を帶び、頭胸に白粉若くは黃粉を散布す、長さ一寸、卵は楕圓形にして褐色、平面に產下せらる、大害なし。

分布　北海道、本州。

水蠟蛾科　Brahmaeidae

(一) いぼたが Brahmaea japonica Butl. (第二十五圖版(3))

被害植物　水蠟樹、ねづみもち。

特徵　成蟲　體黑色、灰黃色の橫帶及び縱條あり、前翅三分の一の處に約七條の黑帶あり、此等は多少波狀をなす、其外側の下方に圓形の大紋ありて暗褐色を呈し、其周緣は黑毛、其中央に黑褐色の二三紋を具へ、尙一二の白紋を裝ひ、其直上に暗綠色の大紋あり、其周圍は黑色、黑紋を散在し、各紋の中央は白色、其外側の下方に暗色の波狀線約八條ありて稍々相平行す、其上方に三個の矢筈樣の白紋を具へ、翅端に一黑紋を裝ふ、後翅の二分の一は暗褐色、末端の殘部に約十條の暗色波狀線を橫走し、脈は黑色と白色と

の斑をなす、體長一寸乃至一寸三分、開張三寸乃至四寸。

幼蟲　綠色にして黃色を帶び、頭は淡褐色、數個の藍色條あり、第一節の背面及び第二、第三節の前緣に稍々大なる、以下の各節には小なる紫黑色の斑紋を具へ、尙側面にも大小ある同樣紋を縱列す、第二及び第三節は膨起し、長形の附屬物あり、氣門は楕圓形、藍綠色を帶ぶ、胸脚は褐色、基部及び爪は黑色、腹脚は外側黑く、二個の細き黃條あり、老熟すれば角樣の附屬物は脫離し、黃褐色に變ず、體長三寸餘。

經過　年一回の發生、蛹にて越年す、翌春四月頃に羽化す、蛾は樹幹に產卵し、幼蟲は五月頃より現はれ葉を食害す、六月中旬より老熟し地中に入りて蛹化す、蛹は黑褐色にして光澤あり、尾端に異樣の太き突起を具へ、末端に二個の棘狀突起あり、長さ一寸二分乃至一寸六分、其數少なく、從つて其害大ならず。

分布　北海道・本州。

家蠶蛾科　Bombycidae

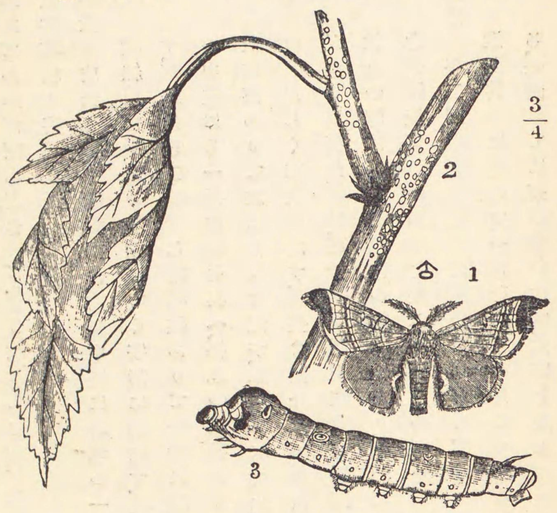
(1) くはご　Bombyx (Theophila) mandarina Moore. (第二百三十六圖)

被害植物　桑。

特徵　成蟲　暗褐色、前翅底に近く弓狀の二橫線を具へ、中央に弦月形の一紋あり、又其外側には斜走せる直線を具へ、外緣には彎曲せる細線を裝ふ、前緣角は黑褐色、其內側は

第二百三十六圖　くはご

(1) 成蟲　(2) 卵子　(3) 幼蟲



灰色、後翅の內緣に白色の二紋あり、體長五分乃至六分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲　暗褐色、家蠶に酷似す、頭は割合に小にして第二及び第三の兩節甚だしく膨大し、恰も頭の如し、第二節の兩側に各一黑紋ありて、其周圍は赤色を呈し眼球の觀をなす、第五節の背上に馬蹄狀の二紋あり、體長二寸內外。

經過　年一回の發生、卵子にて越年す、翌春孵化して、七月下旬乃至八月上旬に至りて結繭す、繭は灰白若くは灰黃色にして淡し、蛾は甚だ活潑にして、夏日室內に飛來し、家蠶と交尾して大害を加ふることあり。

分布　北海道・本州・四國・九州・朝鮮・滿洲。

驅除法　桑樹に附着せる卵子を搜索して殺すべし、幼蟲の一部は打落法により地上に落

つるものなれば之を殺すべし、石油乳劑を用ふる場合は一週間位採葉せざるを可とす、其後に至れば石油分は揮發して毫も其成分を止めざるに至る、不用の家蠶を利用して野蠶の雄を捕殺することを得べし、燈火に飛來するの性あれば誘殺すべし。

(二) ふたてんかぎばもどき Andraca bipunctata Wik (=Oreta theae Mats.) (第二十五圖版(2))

被害植物 茶。(臺灣)

特徴 成蟲 雌、體翅黃褐色、前翅中室に暗色の一點あり、其下方に褐色の前横線を裝ふ、中横線同色、中室の外側にてく字形に屈曲す、其外方には灰白粉を散布したるの觀をなす、翅端角を二分する暗褐線ありて後緣に達する前にて波狀をなす、外緣は褐色、後翅の中室にも一褐色點を具へ、褐色の二帶ありて外方にあるものは波狀をなす、內緣に灰白部ありて之に褐紋を混ず、雄にては褐色、斑紋は濃色なれども餘り判然せず、觸角は櫛だしく羽狀をなす、體長♂四分五厘、♀六分、開張♂一寸內外、♀一寸四分內外。

幼蟲 黑褐色、背線、亞背線、氣門上線及び氣門線は黃色、背線最も太し、氣門上線と氣門線との間は黃色、黑褐色の網狀線あり、氣門は黑色、其下方に黃色の大紋あり、頭は黑褐色、全體淡黃色の細毛を裝ふ、體長八分內外。

經過 年二回の發生、初めは集合すれども四齡よりは離散す、老熟すれば枝間に薄き繭を造り其內に蛹化す、一代を約三ケ月にて終る、第一回の蛾は二月、第二回は八九月現はる、臺灣にては茶の葉を食ひ、大害を加ふることあり。

分布 臺灣。

天蠶蛾科 Saturniidae

(一) くすさん(しらがたらうてぐすが) Dictyoploca (Caligula) japonica Moor. (第二百三十七圖)

被害植物 栗、辛樹、漆、櫨、樟、胡桃、白楊。

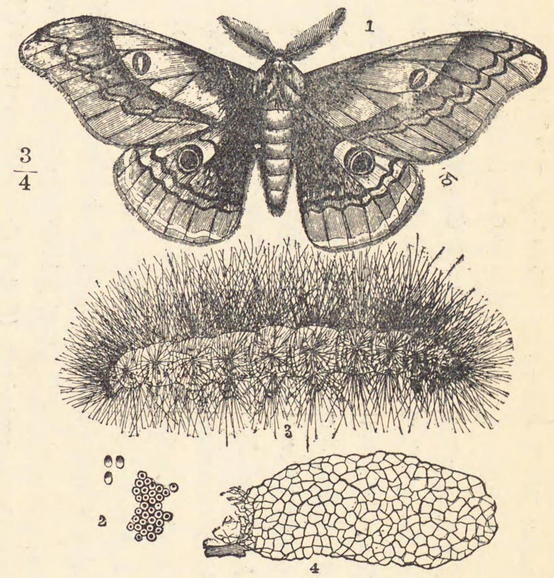
特徴 成蟲 前翅の色に二樣あり、暗黃綠又は赤褐色、共に濃色の二横線を具へ、一横線は翅底に近く、他は中央を斜走す、此の二線間は灰色にして其中央に半月形の一紋を具へ、其中央は透明周圍は少しく赤味を帶ぶ、外緣角に桃色の部分ありて之に白色を混ず、其內側に黑紫紋を具へ、之より波狀をなして紫褐色の二線を後方に斜走す、後翅は前翅より少しく濃色、中央に黑紫色の眼狀紋を具へ、其中に弦月形の透明部あり、雌は黃褐色、紋條の如きは雌と同樣なれども、桃色を呈する部分なし。

幼蟲 體は暗綠色、氣門線は青色にして斷續し、氣門も亦青色にして美麗なり、各節六個の疣狀突起を具へ、之より長き白毛を簇生す、氣門の周圍に黑色の短線ありて、各節其數を異にす、又、腹面にも黑點多し、體長三寸。

經過 年一回の發生、卵にて越年す、卵は淡褐色、黑褐色の小紋を散在し、樹皮に產下せられ楕圓形なり、一雌の產卵數は三百四十內外、翌春五六月頃孵化す、幼蟲は初め黑色なれども二齡より灰白色となる、四十五日內外の日數を經て老熟し食樹を辭して網目狀

第二百三十七圖　うすさん

(1)成蟲　(2)卵子　(3)幼蟲　(4)繭



の巣を營み、其內に蛹化す、之を俗に「すかしだはら」と云ふ

九月下旬蛾化す。

分布　北海道・本州・九州・滿洲。

驅除法　冬期樹幹にある卵子を採集し、幼蟲には打落法を行ひ、蛾は燈火を以て誘引すべし、繭を索めて摘殺すべし。

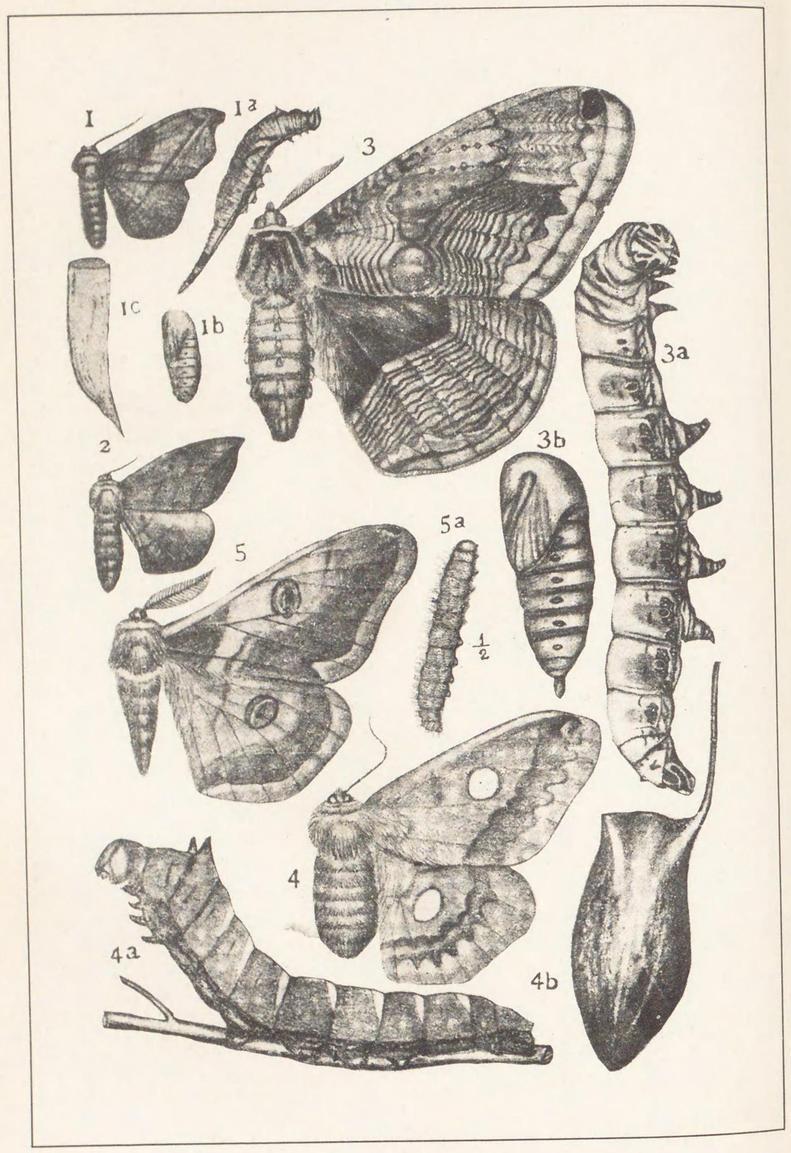
(二)うすたびが(やまかます・つりかます)　Rhodinia fugax Butl.

(第二十五圖版(4))

被害植物　楢・櫟・榊・栗・椎。

特徵　成蟲　體翅橙黃色、前後兩翅の中央に各一個の透明の圓紋あり、前翅にあるものは大、前翅に二暗色帶を具へ、外緣に近く凹凸ある一帶あり、前緣角に近く半圓形の透明紋ありて、其前方は暗褐色、後翅の斑紋は前翅と同樣なれども外緣にある帶を缺く、體は長毛を裝ひ、斑紋を缺く、體長九分乃至一寸、開張三寸二

第貳拾五圖



第貳拾五圖

1. Oreta calida Butl. ふたつめかぎば ……P.622
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹 *1c.* 繭
2. Andraca bipunctata Wk.var. theae Mats. ふたてんかぎばもどき …P.626
3. Brahmaea japonica Butl. いぼたが ……P.623
   3a. 幼蟲 *3b.* 蛹
4. Rhodinia fugax Butl. うすたびが……P. 28
   4a. 幼蟲 *4b.* 繭
5. Caligula boisduvalii Ersch. ひめやままい ……P.629
   5a. 幼蟲

分乃至三寸五分。

幼蟲　黄綠色、腹面は青綠色、氣門下に一條の板狀隆起ありて、其上に更に各一個の青色疣起あり、第三節の背面に稍々長き二突起を具へ、第十一節の背面に短き一突起を裝ひ、何れも青色なり、之より四五本の黑毛を生ず、各節の後緣は淡色、背面には微小の顆粒突起を裝ひ、一種の音聲を發す、體長二寸三分乃至二寸七八分。

經過　年一回の發生、卵子にて越年、翌春四月下旬より孵化し、重に殼斗科植物の葉を食す、六月下旬より老熟し、糸を吐きて綠繭を樹枝に結び付け、其内に蛹化す、繭は其一端にて開口し、一隅に太き長紐ありて枝に固着す、又繭の末端に小圓孔あり、長さ一寸三分、蛹は濃赤褐色、長さ一寸一分、十月乃至十一月蛾化す、蛾は卵子を樹幹の枝に產付す、黑褐色、楕圓形、長さ三厘餘、其數多からず、從て其害も大ならず。

分布　北海道、本州。

(III) **ひめやままい** Caligula (Saturnia) boisduvali Ersch. (第二十五圖版(5))

被害植物　梅、梨、榉(ケヤキ)、胡桃、うつぎ、みづき、がまずみ等。

特徴　成蟲　體翅黄褐乃至赤褐色、前翅中央に一眼狀紋ありて、中央及び周緣は黑褐色、其内方に赤色及び白色の部分あり、褐色の二斜條ありて、一は前緣の三分の一の處より起り、眼狀紋の下を過ぎて内緣角に近く出で、他は翅底に近く稍々弧線狀をなす、前緣角に黑紋及び白紋を具へ、少しく紅色を帶ぶ、後翅は前翅と同樣なれども綠褐色紋の

外側は白色なり體長七分內外開張三寸內外。

幼蟲　體は黃綠色腹面は濃綠色各節の背面に黃綠色の短毛を簇生し氣門上に一個の瘤狀突起ありて之より數本の長黑毛を簇生す體長二寸餘幼時にては頭部は灰褐色體は綠色背線及び腹走線は黑色第二及び第三節に存する灰黑條の中には一個の長き紅色の斑紋ありて第四乃至第九節の黑條中には紅色の圓き二紋あり之に短大の黑色突起を具へ數本の黑き短刺を生ず氣門上下線には各一個の小突起を裝ひ一二本の白毛を生ず。

經過　年一回の發生卵にて越年卵は扁平楕圓灰褐色長さ八厘餘幼蟲は六月頃より現はれ前出種々の植物葉を食害す九月乃至十月に至りて老熟し網狀の粗繭を造り其內に蛹化す蛹は濃褐色長さ八分繭は黃綠色にして紡錘形をなし內部の蛹を透視し得べし其數少なきを以て大害なし。

分布　北海道本州九州。

(四) **ゑぞよつめ**　Aglia tau L. var. japonica Leech. (第二十六圖版(1))

被害植物　樺赤楊栗檜。

特徵　成蟲　體翅黃褐色前翅中室に黑紋を具へ其中央に白色の弦月紋を裝ひ其內側に濃色の一斜條あり更に其內側は灰白色中室紋の外側に濃色の一斜條あれども雌は之を缺く外緣に近く一橫線ありて其外側は灰白色(これは殊に前緣に接して判然せ

り)翅端は三角形に近き灰白紋を具へ外緣の一圓に小褐色點を散在す後翅の眼狀紋は大其中央は雄は紫藍色雌は黑紫色更に其中央に丁字形の白紋をそなへ其外側にある弧狀帶は黑色其外側は灰白色翅端は灰白色小褐色紋を散在す中室紋は單に白色の丁字形を呈し其上方に濃色の一帶を具へ外緣に近く灰白色の弧狀線を裝ふ脚は灰白色にて腿節に濃褐色毛を密生す體長八分乃至一寸開張二寸六分乃至三寸八分。

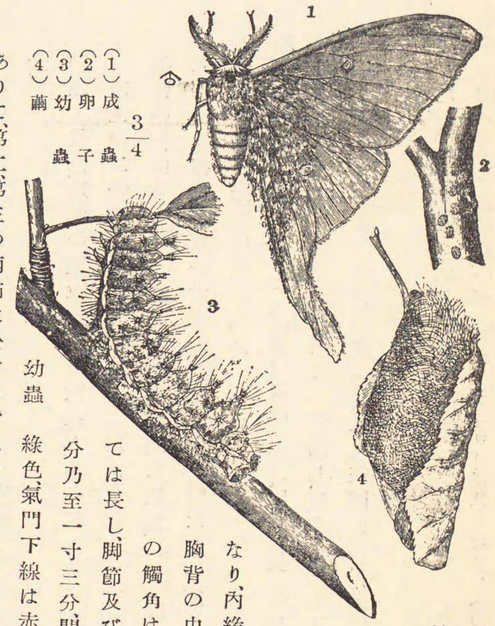
幼蟲　綠色黃色の顆粒突起を散在し第一節には一橫隆起を裝ふ第二節の兩側には黃白色の二斜條を具へ氣門線は黃白色赤褐色にて細く緣取られ第三節の兩側に黑褐色の楕圓紋を裝ふ氣門は赤褐色頭は綠色白毛を粗生す胸脚の末端は褐色腹脚の末端は黑褐色體長一寸五分乃至二寸幼時は第一節及び第四節に各一双第十一節に一本の長き赤色突起を裝ふ。

經過　年一回の發生蛹にて越年翌春四五月頃羽化す卵は球形にして赤褐色幼蟲は四五月頃より現はれ七月下旬頃より老熟し地上に降り蘚苔其他落葉下に入りて粗繭を造り蛹化す蛹は黑褐色其儘越年蛾は晝間活潑に飛翔す札幌地方には稀ならず大害なし。

分布　北海道本州九州滿洲歐洲。

(五) **ゆうがほべうたん**(おほみづあを)　Actias artemis Brem. (第二百三十八圖)

第二百三十八圖　ゆがらほべうたん



被害植物　苹樹梨櫻赤楊。

特徵　成蟲　淡青色翅脈灰黃色、前翅の前緣は桃色中脈の處に弦月形の黃色紋ありて中央は透明內側は黑色後翅にも同樣紋あれども遙に大形なり內緣には白色の棉樣毛を密生し前胸背の中央に太き赤褐色の橫帶あり雌の觸角は羽狀にして其小枝は短く雄にては長し脚節及び跗節は赤褐色なり體長一寸一分乃至一寸三分開張三寸乃至四寸六分。

幼蟲　綠色氣門下線は赤黃色各節に四乃至八個の疣起ありて第二第三の兩節に於ける背上の四疣及び第十一節に於ける一疣は大きく兩側の疣は小なり此等の疣起は何れも橙黃色にして褐色の長毛を粗生し尙背上に白毛を具ふ第一節の硬皮板は淡綠色尾節の硬皮板は紫褐色其上に黃色部あり氣門は赤黃色にして美麗なり頭は淡紫褐色兩側は濃色にして灰色の短毛を裝ひ胸脚は黃褐色なり體長三寸乃至三寸六分。

經過　年一回の發生蛹にて越年蛹は黑褐又は赤褐色にて繭中にあり繭は灰褐色にして厚く葉に蔽はれ樹梢にあり翌年六七月頃蛾化す蛾は斑に卵子を樹枝に產附す卵は球形にして少しく平たく暗褐色にして濃色の縱條あり一雌の產卵數百內外蛾は燈火に飛來す其形大なるを以て食害することも亦大なり。

分布　北海道本州滿洲。

(六) たいわんをながみづあを　Actias sinensis Wk.　(第二十六圖版(2))

被害植物　楓樟。(臺灣)

特徵　成蟲　雄橙黃色頸前翅前緣及び後翅の外緣線は赤褐色前翅底の半部は少しく綠色を帶ぶ前橫線及び波狀線は暗褐色眼狀紋は桃色內側は黑色更に其中央に細き青白色の一縱線あり外側は黃線にして緣取らる外緣に近き一線は赤褐色なれども判然せず後翅は前翅と同色同樣の斑紋を具ふ尾狀突起の基部に赤褐色の大紋ありて其中央は更に灰色を呈す雌の體は白色頸及び前翅の前緣は赤褐色翅は淡綠色一双の波狀線は暗色にして細く其外側にあるものは判然せず眼狀紋には細き弦月形の透明紋を有す體長九分開張三寸二分乃至三寸五分。

幼蟲　體は濃綠色氣門は青色各節の背面に一双の肉狀隆起を具へ其先端は赤色若くは黃色短毛を簇生す尙側面にも同樣の肉狀隆起一双あり體長二寸內外。

經過　年五回の發生第一回は一月第二回は三月第三回は六月第四回は八月第五回は十

月羽化す、卵子は點々枝上に產附せらる、卵は楕圓形にして淡黃色、暗色の稜樣紋あり、長さ六厘、幼蟲は楓其他樟の葉を食害し、老熟すれば葉を捲きて其內に光澤ある黃色繭を結び蛹化す、蛹は黑褐色、此害蟲は臺灣、南淸地方に稀ならず、大害なし。

分布 臺灣、支那、印度。

(七) をながみづあを Actias selene Hb. (第二十七圖版(1))

被害植物 楓樟。

特徵 成蟲 (ゆうがほべうたん(おほみづあを)に酷似するも、異る點は前翅前緣の前半白色、中室紋と外緣の中間に明亮なる灰黃色の一帶を具へ、後翅にあるものは少しく淡色、後翅の尾狀突起は著しく延長し、前翅の裏面には一條の黃帶を具へ、前緣は白色、體長一寸一分乃至一寸四分、開張四寸乃至五寸。

幼蟲 前種に酷似すれども、背面に於ける肉狀突起の先端は黃色にして、第二、第三胸背の隆起は黑色、氣門は赤色、氣門線は赤味を帶ぶ、體長二寸四分。

經過 年四回の發生、前種に酷似す、繭は暗褐色にして小枝と葉との間にあり、其數多からず、隨て大害を加ふることなし。

分布 本州、九州、臺灣、朝鮮、支那、滿洲。

(八) しんじゆさん Samia (Attacus) cynthia Drury. (第二十六圖版(3))

被害植物 しんじゆ、なんきんはぜ、ぬるで、どんずい、きはだ。

特徵 成蟲 綠褐色、前胸に白環あり、腹部に白毛塊を散在す、前翅底に近く く字形の白帶を具へ、其外側は暗黑色、中央に弦月形の白紋あり、其前緣は黑色、後緣は黃色、其外方に少しく桃色を帶びたる白色の廣帶あり、前緣角に近く一黑紋ありて、其內側に白紋を裝ふ、後翅の斑紋は前翅と略々同樣なれども、中央の弦月紋は短くして稍々へ字形をなす、頭、頂、前胸背、輪狀紋、腹部の縱條及び斑紋は白色、體長九分乃至一寸二分、開張四寸乃至四寸五分。

幼蟲 體は黃綠色、白粉を裝ふ、頭尾の兩端及び脚端は黃色、各節に六個棘狀の肉狀突起ありて青色を呈し、後方に傾斜し、之に短毛を具へ、氣門上にある突起の四隅に微小の黑點あり、體長二分五厘。

經過 年一回の發生(臺灣にては年四回の發生)、卵子にて越年、六月中旬より現はれ、七月下旬に至りて老熟し、稍々堅牢なる繭を造り其內に蛹化す、繭は紡錘狀にして灰黃色、少しく桃色を帶ぶ、長さ一寸五分、蛹は長楕圓形、赤褐色、絹絲を以て一葉を捲き、或は數葉を纏めて其內にあるを以て發見すること難し、卵は楕圓形、淡褐色、長さ五厘餘、此の繭は粗惡なりと云へども猶暗褐色の絹絲を繰取ることを得べし、故に之を利用せば一種の有益蟲となるべし、其數多からず。

分布 本州、四國、九州、臺灣、支那。

尙本邦に於て此科に屬するもの左の五種あり、何れも有用の絹絲を吐出するを以て

有益蟲と稱すべきものなれども、植物に有害なるものなれば今其名稱のみを擧げん。

(九) よなくにさん Attacus atlas L.

被害植物　蕃石榴(ばんじやくらう)。

分布　沖繩・臺灣・支那・印度・比利賓島。

(一〇) さくさん Antheraea Pernyi Guén.

被害植物　殼斗科植物。

分布　北海道・本州・四國・九州。

(一一) やままい Antheraea yamamai Guén.

被害植物　殼斗科植物・萃樹。

分布　北海道・本州・四國・九州・支那。

(一二) ふうさん Eriogyna (Saturnia) pyretorum West.

被害植物　楓樟。(臺灣)

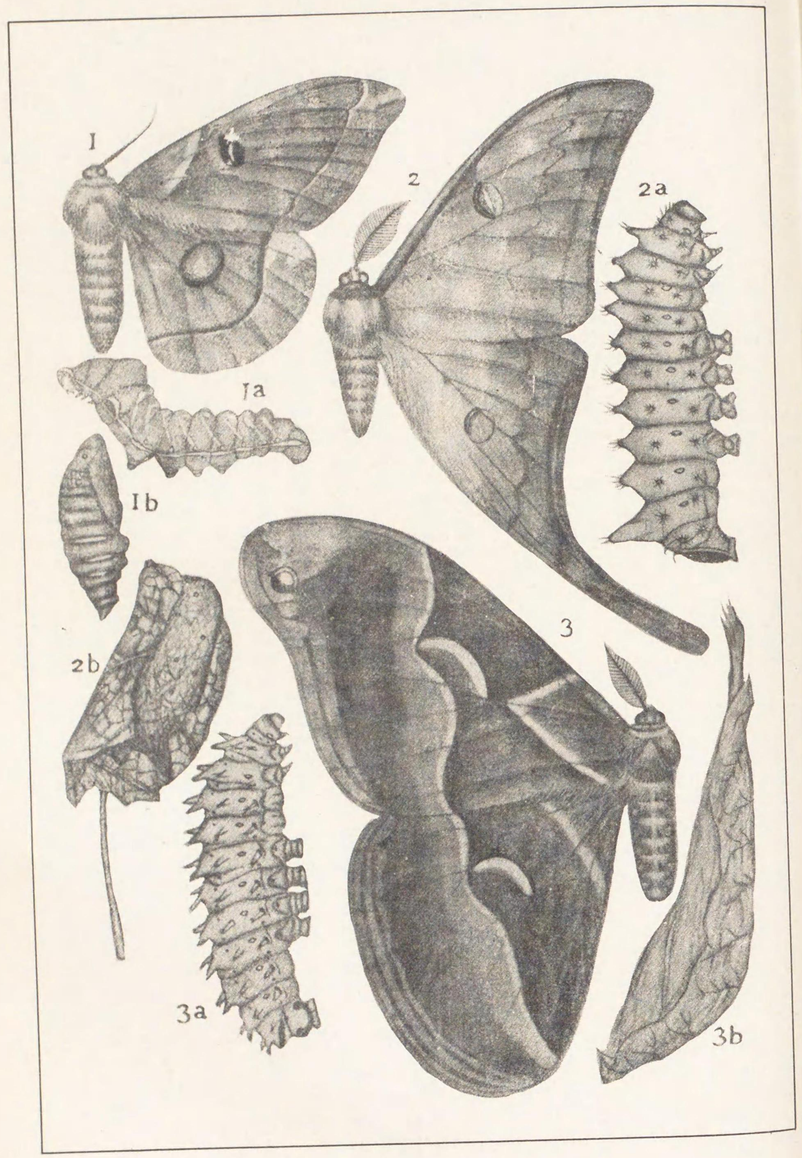
分布　臺灣・支那・印度。

(一三) はぐるまやままい Lcepa katinka West.

被害植物　ぶだうかつら・やぶかつら(臺灣)。

分布　臺灣・支那・印度。

第貳拾六圖



第貳拾六圖

1. Aglia tau L　ゑぞよつめ……P.630
　1a. 幼蟲　*1b.* 蛹
2. Actias sinensis Wk.　たいわんをながみづあを ……P.633
　2a. 幼蟲　*2b.* 繭
3. Samia cynthia Drury.　しんじゆさん ……P.634
　3a. 幼蟲　*3b.* 繭

帶蛾科 Eupterotidae

(1) をびが Apha tychoona Butl. (第二十七圖版(2))

被害植物 忍冬(ニンドウ)・通草(アケビ)・うつぎ。

特徴 成蟲 體翅黄褐色、體下面及び翅の裏面は橙黄色、前翅の前緣に暗綠紋を散在し、中室に同色の一點を具へ、其外側に波狀線あれども判然せず、前緣角より後緣の中央に向ひ黄色の一斜條を送り、内側は褐色にて緣取らる、外側は廣く暗綠色、後翅は前翅と同樣なれども、外緣の暗綠部は少しく淡色にして褐色の齒形紋を具へ、同色の一帶を裝ひ、其外側は黄色、體長五分乃至六分、開張一寸五分乃至一寸九分。

幼蟲 頭は黄褐色、淡黄條あり、體の背面は淡褐色、背線は暗色、各節に濃褐色の毛束を具へ、黑毛又は淡褐色を混ず、長毛には暗色と淡黄色を交へたるものなり、側面より淡褐色の毛を生ず、側線は灰黄色、氣門は黑圈を有す、基線よりは黄褐色の長毛を簇生す、腹面は暗色、淡色の一縱條あり、胸脚は褐色、腹脚は暗色、體長二寸餘。

經過 年二回の發生、第一回は七月上旬、第二回は八月下旬、幼蟲にて越年するものゝ如し、翌春四五月頃より現はれ、六月中旬老熟し、極めて薄き灰褐色の粗繭を造り其内に蛹化す、繭は白毛、黄褐色及び黑色の兩毛を混じ、楕圓形なり、長さ一寸一二分、蛹は褐色、黄褐色の短毛を密生し翅鞘に之を缺く、點刻多し、尾端に黄色の鉤刺十數本あり、幼蟲は

物に驚く時は體を環狀に捲くの性あり、青森地方には普通なり。

分布 北海道・本州。

枯葉蛾科 Lasiocampidae

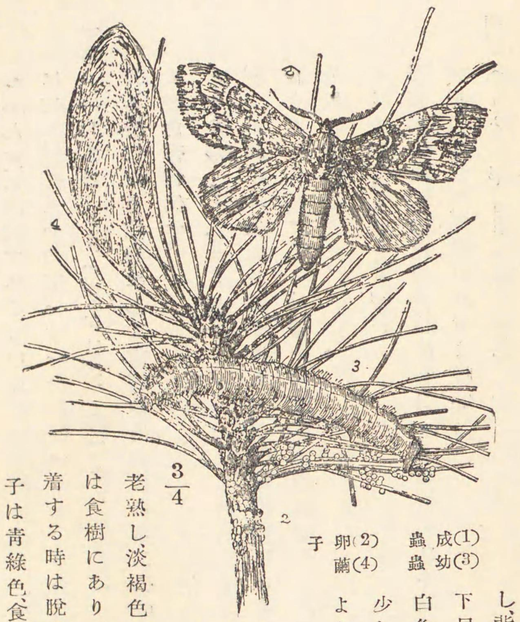
(一) まつかれは(まつけむし) Dendrolimus pini L. (第二百三十九圖)

被害植物 松・椴・蝦夷松。

特徴 成蟲 體翅褐色乃至暗褐色、前翅の中室點は白色、其外側に不明の一濃色斜條を具へ、中央には灰褐色の一斜條を裝ひ、其外側に太き黃褐色の一帶を具へ、其外側に九個の黑褐紋ありて界す、外緣の一圓は灰色にして黑褐色の斑點を群散す、後翅は灰褐色、其裏面の中央に濃色の一帶あれども餘り判然せず、體長九分乃至一寸一分、開張三寸。

幼蟲 第四齡のものは淡褐乃至灰褐色、不規則なる灰色紋を裝ふ、第三乃至第十節後緣に近く二個の黑色條ありて互に鈍角をなす、尙其前方に各二個の同色紋を具へ、氣門線の處に當り各節の前緣に近く黑色の一斜條あり、腹面は灰黃色、褐色點を撒布し、中央に太き黃褐色の一縱條を裝ふ、氣門は灰黃色、銀色及び金色の鱗毛を裝ひ、第二及び第三節には大なる黑毛塊あり、兩側にある毛は長くして灰白色、但し基節線にある瘤狀突起よりは數本の黑毛を生ず、頭及び硬皮板は黃褐色、胸脚は黑褐色、腹部は灰黃色、末端は黑褐色、體長二寸內外、第五齡のものは灰黑背線及び亞背線は黑色、後者は太

第二百三十九圖 まつかれは



(1) 成蟲 (2) 卵 (3) 幼蟲 (4) 繭子

し、背線は第七節迄判然す、第七節以下尾端に至る迄各節の背上は黑色、白色及び黃色の鱗毛を具へ、黃鱗は少なし、第十一節には隆起ありて之より鱗狀毛を生ず、體長二寸六分內外。

經過 年一回の發生、幼蟲の儘松樹の皮若くは蘚苔下に越年、翌年六月上旬乃至七月上旬老熟し淡褐色の長形繭を造り其內に蛹化す、繭は食樹にありて常に幼蟲の毛を附着し、手に附着する時は脫離し難し、三四週の後に蛾化す、卵子は青綠色、食樹の葉上若くは樹枝に附着す、八月中旬乃至下旬に孵化し、十月上旬に食を止め、三齡位に達し越年す、札幌地方に產するものは多く此種なり。

分布 北海道・本州・朝鮮・支那・歐洲。

(二) しろまつかれは Dendrolimus segregatus Butl. (第二十八圖版(9))

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體翅灰褐、暗褐乃至黑褐色、後者の場合にありては後翅は常に淡色、前翅に黑褐色の三波狀帶ありて最も外方にあるものは太く、點紋よりなり、其內側は灰白色、中央にあるものは其外側翅底にあるものは其內側にて灰白色、中室紋は白色、前種の「まつかれは」に酷似すれども中央帶の前緣に接したる部分甚だしく弓狀をなして內方に曲る、體長九分乃至一寸一分、開張一寸九分乃至二寸、此の種に左の四變種あり。

一、びふあしあ形 var. bifascia Seitz. (第二十八圖版(2))
最も普通なる種類にして前翅の內側にある二帶の白緣甚だしく判然するを以て隨て暗色帶判然す。

二、どろーさ形 var. dolosa Butl.
「まつかれは」に似たる種類にして、前翅の內側にある一帶は中室端にて灰色を呈し、黑緣を具へ外側にある二帶の中間は暗赤色を呈す、外側の一帶は白色にして之に沿へる黑紋は判然せず。

三、ぞなーた形 var. zonata Butl.
暗褐、前翅に銀白色の中室紋を具へ、白帶を裝ひ、外側にあるものは甚だしく波狀をなす、中央は黑褐、外帶の外方は暗紫色。

四、ふへんとに形 var. fentoni Butl.

淡き暗褐色、前翅帶及び外緣は濃色、中室點は判然し、外帶の內側は白色、後翅は褐色、前緣は淡色。

幼蟲 頭及び尾端は灰黃褐色、頭の中央線は黃白色、體は暗灰色、背線及び亞背線は黑色、亞背線の兩側に橙黃色の鱗毛を縱列し、背線の兩側には銀白色の鱗毛多し、氣門は灰黃色、其前方に當り接合部の處に稍々圓錐形をなせる黑色の一斜條あり、第二節及び第三節に黑藍色の毛塊を有すること前種に異ならず、第一節及び體の兩側に灰白色の長毛を裝ふ、頭は黃褐、暗褐色の小點を散在し、中央の一斜線及び後頭の一帶は灰黃色、胸脚は黑色、末端は黃褐色、腹脚の外側は暗褐色、內側は黃褐色、腹面は灰黃色にして暗色紋を散在し、中央の縱條は淡色にして第五節の中央に暗褐色の一大紋あるを常とす、尙中央線上に赤色紋を有するものあり、體長二寸七分乃至三寸。

經過 同前。

分布 北海道、本州。

(三) うすぐろまつかれは(つがけむし) Dendrolimus superans Butl. (第二十八圖版(3))

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體翅雌は暗褐色、前翅の中室紋は白色にして大、其內方に黃褐色の一紋あり、中橫線は濃色、波狀線は黑褐色にして此兩線の中間は黃褐色、後翅は灰褐色、雄は黃褐色、前翅には褐色の三帶ありて、第一帶は內側の後緣に接する處にて、第二帶は外側に

て第三帶は內緣にて灰白色、外側にある波狀線は點紋より成り、後緣にある三紋は一直線上に位す。體長♂一寸二分、♀一寸五分、開張♂二寸五分、♀三寸三分。

幼蟲　黃褐色、頭に黑色の縱條及び斑紋を具へ、第一節乃至第四節の前方に白色の鱗毛を裝ふ。第二及び第三節に黑藍色の毛塊を有すること前種に異ならず、第四節乃至第十一節の背上に稍々五角形の暗褐色紋を具へ、前緣に近く二個の白毛塊を裝ふ。體側には暗色の縱線を具へ、稍々綾狀をなす。黑色の短毛と灰褐色の長毛とを裝ひ、第十一節の背上に黑色の二隆起あり、之より長黑毛を生ず。腹面は淡黃褐色、黃褐色の小斑を散在す。體長三分內外。

分布　本州、九州。

(四) えぞまつかれは Dendrolimus jezoensis Mats. (第二十八圖版(4))

被害植物　椴、蝦夷松、唐檜。

特徵　成蟲　體、翅は灰白色若くは黃褐色、前翅に濃色の三帶ありて、第一帶は前緣にて弓狀をなして內方に曲り、其內側に一白紋を裝ふ。中帶は犬牙狀をなし、其外側は白色。第三帶は黑色、點紋よりなり、後緣にある三紋は一直線をなす。「しろまつかれは」の「びふあしや形」に酷似す。其異なる要點は前翅の幅廣きこと及び第三帶の後緣にある三紋一直線上にあるにあり。

幼蟲　頭黃褐色、斑紋なし、皮膚は灰黃色にして黃紋を散在し、綾樣の小黑條を裝ふ。第

一節の前半は黃褐色、第二節及び第三節に黑毛塊を具へ、其後方に少しく黃白色の鱗毛を密生す。第四節乃至第十節の背上に各四個の黃紋を四角形に排列し、各其內側に一暗褐紋ありて同じく四角形に排置せらる。各節の前後緣に銀色の細鱗を生じ、氣門黃白色、其前方に黑色の二斜條ありて相平行す。第十一節の隆起に黑色の長鱗毛を簇生す。胸、脚は黑色、腹、脚は淡黃褐色、外側の一紋は黃褐色、末端は黑色、腹走線は黃褐色なり、體長三寸內外。

經過　前種と同樣なれども主に獨逸唐松に普通なるものにして、札幌地方にありては七月中旬乃至九月上旬に亘りて現はる、時に大害を加ふることあり。

分布　北海道樺太。

(五) くぬぎかれは(おほまつかれは) Dendrolimus undans Wk. (第二十七圖版(3))

被害植物　櫟、楢、槲、栗、榛。

特徵　成蟲　雌雄彩色を異にし、雄は前翅橙黃色にして、外緣は廣く黑褐色、此部分は第四室にて深く刳らる。翅底に近く卵形の環狀紋ありて、其外側に一白點を裝ひ、其外方に太き赤褐色の一帶ありて、其限界は黑褐色、更に其外方に二三の暗色帶あれども餘り判然せず。後翅は暗褐色、中央に濃色の一帶あり。雌にては暗黃色、斑紋も亦淡色なり。約五條の黃褐帶ありて第四條と第五條との間は黃色、其外側に黃紋を橫列す。後翅は淡黃褐色、體長♂♀一寸一分乃至一寸三分、開張二寸二分乃至三寸五分。

幼蟲　體は灰赤褐色、亞背線は波狀をなし、黑色、其外側に四條の細き黑線を縱走す、氣門上下線は黑色、尙各節の亞背線上には一個の小隆起ありて、之れに長き黑毛を簇生し、其側面には灰色毛を散在し、基節部より長き黑毛を簇生す、第一節の前半は淡黃、其前緣に黑斑を具へ、前緣の左右に隆起ありて長黑毛を簇生す、其後半に數個の暗色條あり、第二及び第三節の背面に灰紫色の二毛束を具へ、第十一節の背上には二個の黑毛束あり、頭は灰褐色、額片と顱頂板との境は黑色、額片の中央に黑色の一縱條あり、體長三分內外。

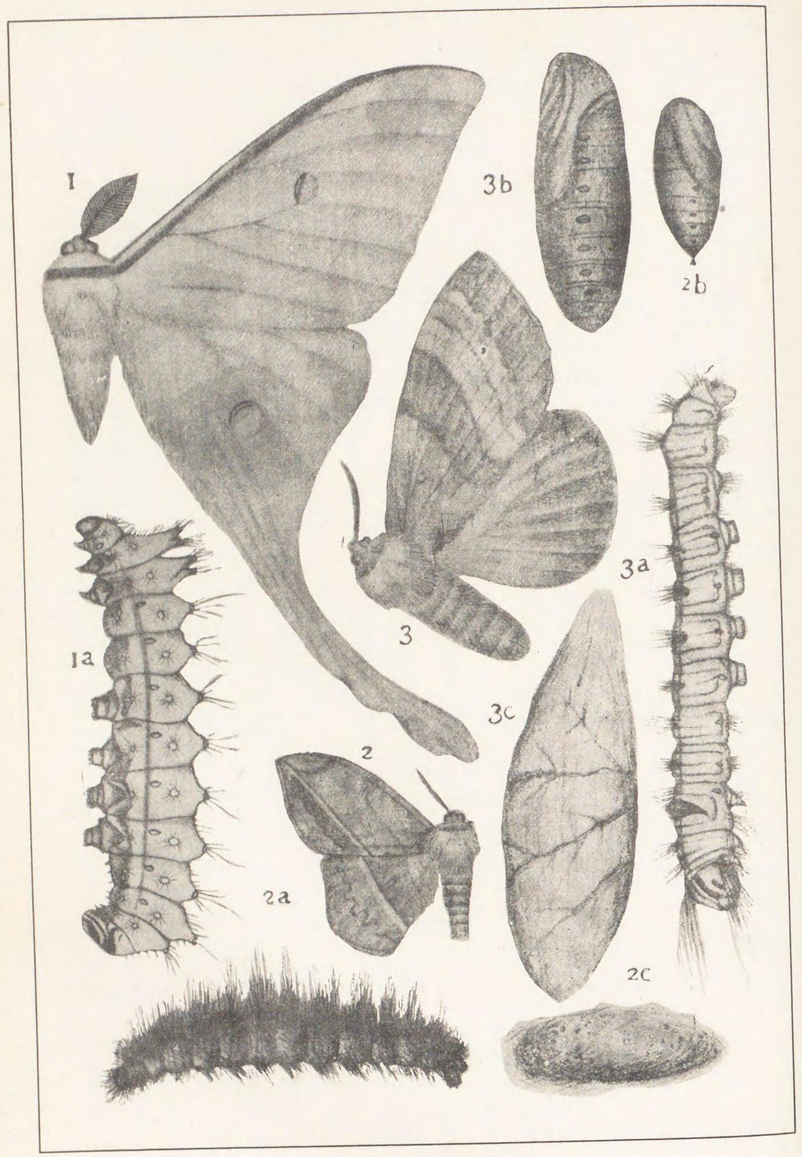
經過　年一回の發生、卵子にて越年、卵子は淡褐色紫褐色の綾樣紋あり、三百內外の卵子を集合して幹枝に產下す、卵子は五月下旬より孵化し、八月下旬乃至九月上旬より老熟し、繭間に灰褐色の繭を造り其內に蛹化す、蛹は暗褐色、氣門は黑褐色圈を有す、背面及び腹部に黃褐色の短毛を列生し、尾端に鈎刺多し、長さ一寸五分、十月下旬乃至十一月上旬羽化す、時に多數發生し大害を加ふることあり。

(六) たけかれは Cosmotriche potatoria L. (第二十八圖版(5))

被害植物　竹、其他禾本科植物、

特徵　成蟲　體翅雌は黃色、前翅の中央に近く銀色の二紋を裝ひ、(銀色紋を缺くものあり)前緣角より後緣角の中央に褐色若くは暗色の一條を斜走し、翅底に近く同色の一帶を裝ふ、外緣に近く褐色の一波狀線あれども餘り判然せず、後翅の外半は暗色、雄にて

第貳拾七圖



第貳拾七圖

1. Actias selene Hb. をながみづあを ……P.634
   1a. 幼蟲
2. Apha tyehoona Butl. をびが ……P.637
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹 *2c.* 繭
3. Dendrolimus undans Wk. くぬぎかれは ……P.643
   3a. 幼蟲 *3b.* 蛹 *3c.* 繭

は雌と同色のものあれども、亦前翅橙黄色にして銀色紋の内側褐色なるものあり、後翅は灰褐色、體長♂♀七分乃至一寸一分、開張一寸八分乃至二寸三分。

幼蟲　體は黄色、灰黄毛多し、大小不同の小黑紋を散在す、亞背線は暗灰色、第六節より第十一節迄判然す、第一節の兩側に疣狀の二突起ありて、筆樣の毛束を生じ、上方にあるものは褐色、第二節の背上に黄褐色の二毛束を直立せしめ、後方にあるものは小なり、第十一節にも褐色の一毛束ありて後方に斜立す、第四乃至第十節に四個乃至六個の褐色の毛塊ありて、二列をなして亞背線上に位す、基節部に沿ひ各一個の瘤狀突起ありて、之より灰黄色の長毛を簇生す、氣門は黑圈を具へ、氣門線に近く白毛塊を縱列す、腹面は淡色、各節に暗褐色の一大紋あり、腹脚の末端は黑褐色、頭は黄褐色、額片の直上にV字形の暗色紋あり、大腮は光澤ある黑色、灰黄色の毛多し、幼蟲の全體暗灰色を呈するものあり、體長三寸内外。

經過　年一回の發生、第三回の脱皮をなしたる幼蟲にて越年、翌春四五月頃より現はれ、竹、蘆、沙草其他禾本科植物の葉を食害す、六月下旬乃至七月上旬に老熟し、灰黄色の繭を造り其内に蛹化す、繭は紡錘形、蛹は光澤ある黑褐色、七月上旬乃至下旬羽化す、卵は淡綠若くは灰綠色、兩側は多少凹陷す、一個づゝ若くは集合して產附せられ、一種の膠質物を以て蔽はる、幼蟲は八月頃より現はれ、十月の終り若くは十一月の初めに三回の脱皮を終へ其儘越年す、此ものは竹を害すること大ならざれども家蠶の寄生蟲たる

蠶蛆の住家なるを以て養蠶家には恐るべき害蟲なりとす。

分布 本州印度。

(七) とびいろたけかれは Cosmotriche albomaculata Brem. (第二十八圖版(6))

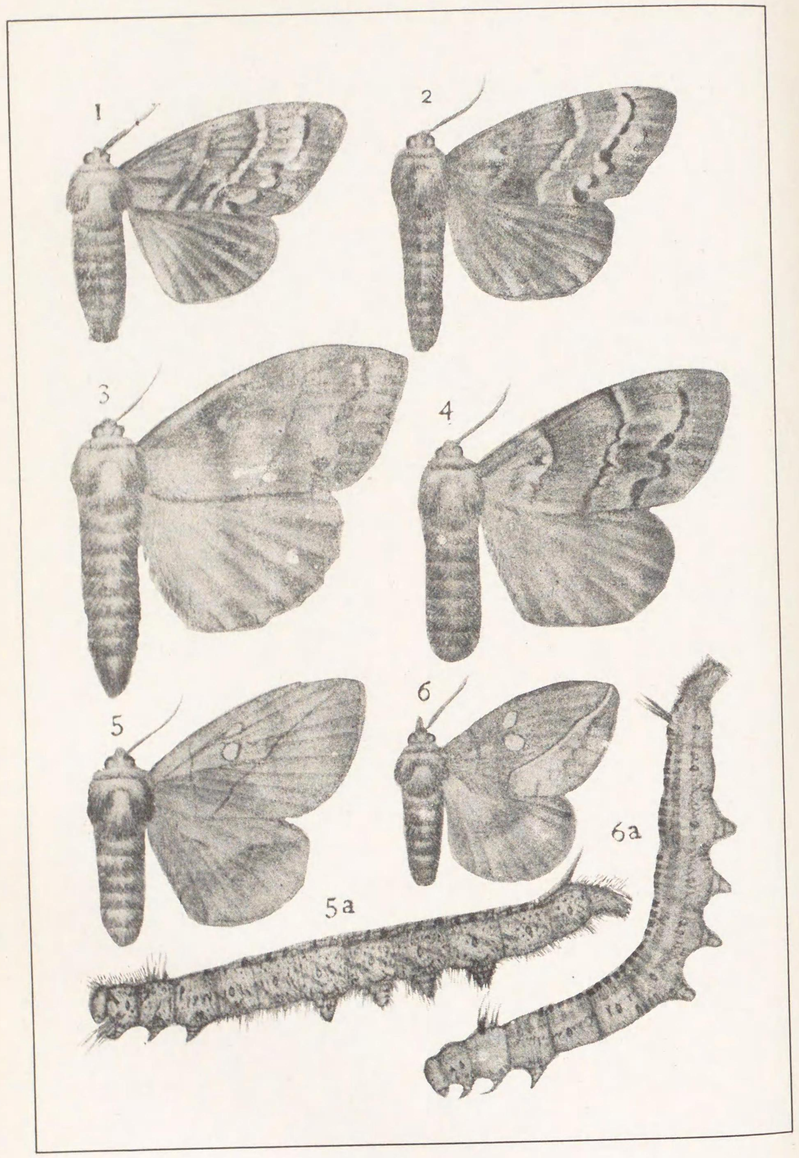
被害植物 竹其他禾本科植物。

特徴 成蟲 雌體翅赤褐色、前翅中室の中央に銀白色の二紋を具へ、下方にあるものは圓く、中央に判然せざる褐色紋を有することあり、上方にあるものは小にして楕圓形、翅端より後緣の中央に向て濃色の一斜條を送り、後緣に達する前にく字形を呈す、外側は黄白線にて緣取らる、其外側に濃色紋を列すれども餘り判然せず、後翅は紫褐色、中央帶は少しく淡色、雄の觸角甚だ長く羽狀を呈し、體翅褐色、翅端より後緣に達する一斜條の外側は黄白色にて緣取られず、其外半は紫褐色、濃色の波狀線は判然す、體長七分乃至九分、開張一寸五分乃至二寸二分。

幼蟲 體は灰黄色、黄毛多し、第二節及び第十一節の背面に黑色の長毛束あり、背線、亞背線及び氣門線は橙黄色、第三及び第十一節に二個、第四節乃至第十二節の背上に各八個の暗褐色の毛塊ありて二列に排置せらる、氣門は灰黄色、黑圈を具へ、氣門線に沿ひ白色の毛塊を縱列す、脚は灰黄色、頭は黄色、上唇の兩側に暗褐色の一紋あり、體長三寸内外。

經過 前種と同樣なれども此種は北海道に産せず。

第貳拾八圖



第貳拾八圖

1. Dendrolimus spectabilis Butl. alb. segregatus Butl. しろまつかれは P.639
2. Do. ad. bifascia Grunb. 同上變形
3. Dendrolimus superans Butl. つがかれは（つがけむし）……P.641
4. Dendrolimus yezoensis Mats. えぞまつかれは ……P.642
5. Cosmotriche potatoria L. たけかれは ……P.644

   5a. 幼蟲
6. Cosmotriche albomaculata Brem. とびいろたけかれは……P.646

   6a. 幼蟲

[附言] 拙著昆蟲總目錄に、此種を前種同種として記載せしも、幼蟲は全く異なるを以て、其別種たるや明なり、爰に訂正す。

分布 本州・朝鮮・臺灣・滿洲。

(八) ひめたけかれは Cosmotriche laeta Wk. (第二十九圖版(2))

被害植物 萩。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども一層濃色、前後翅細く、白紋の下方にあるものは大、褐色鱗を散在し、其上方の一紋は小なり、翅端より後緣に達する暗褐色條は稍々端直にして、其外側は雄は暗褐色紋を並列し、鋸齒狀をなさず、他は前種に同じ、體長八分乃至九分、開張一寸五分乃至二寸五分。

幼蟲 「たけけむし」に酷似すれども側面は灰色、黃色及び黑色を混じ、背線は黑色、稜狀形の點線より成り、第二節に細き白毛を混じたる黑毛束を裝ふ、第十一節には同樣の一毛束を具へ、第三節乃至第十節に短き黑色の毛塊あり、體長二寸五分乃至三寸。

經過 年一回の發生、卵にて越年、幼蟲は五六月頃より現はれ、十匹乃至二十匹相集合して食害するの傾あり、七月中旬老熟し、黃白繭を造り其内に蛹化す、八月上旬羽化す、臺灣に稀ならざれども本邦には少なし。

分布 北海道・本州・臺灣・朝鮮・滿洲・支那・印度。

(九) きいろかれは(あをかれは) Trabala vishnou L.f. (第二十九圖版(5))

被害植物 楓・蕃石榴かんこのき・ふともも・ももたまな。

特徴 成蟲 雌は體翅黄色、前翅の横脈上に暗褐色の一紋を具へ、其下方に同色の一大紋ありて第一室の大半を占む、前横線及び後横線は濃色、外緣の各室に暗褐色の一紋を列ね、後翅の中央に近く暗色の一帶を具ふ、外緣に近く各室に暗褐色の一紋を並列すれども判然せず、觸角は暗黄色、尾端に灰褐色の筆狀毛あり、雄は體翅絲黄色、觸角及び下唇鬚は黄褐色、前翅の前横線及び中横線は濃色、其内側は何れも淡色、各外緣室の中央にある點は濃色なれども餘り判然せず、後翅の斑紋は前翅と同様なれども、中横線の内側は淡色ならず、内緣及び腹部は淡色、裏面の斑紋は判然せず、體長七分、開張一寸六分乃至一寸九分。之に一變種あり、ぐつたた形 var. guttata Mats. と云ふ。原種と異なる所は形遙に大にして一見別種の觀あり、前横線及び中横線は判然し、各室にある暗色紋は翅端に至る迄判然し、各室の終る緣は甚だしく凹陷す、裏面の斑紋は翅表の斑紋と略同様なり、體長一寸、開張二寸六分。

幼蟲 其色は種々あれども普通は灰褐色、同色の長毛を簇生す、各節に四個の黑瘤ありて、之より黑毛を生ず、初めの三節の兩側にある毛は灰色、第一節の兩側には筆様の長毛束ありて、角狀をなし前方に向ふ、頭は黄色、黑紋を散在す、體長二寸五分内外。

經過 臺灣にては年二回の發生、第一回は四五月、第二回は十一月、卵子は二三十粒づゝ紐狀に産附せられ、之に毛を附着す、十二月頃孵化し、翌年四五月頃に老熟し、黄褐色の繭を造り其内に蛹化す、繭は常に黑毛を附着し、之に觸るれば甚だしく痛を感ず、四五月に至り羽化すること前述の如し、其數少なきを以て大害を加ふることなし。

分布 臺灣・支那・印度。

(一〇) おほかれは Lebeda nobilis Wk. (第二十九圖版(4))

被害植物 想思樹・蕃石榴・楓・藤。(臺灣)

特徴 成蟲 體翅灰褐色、前翅に四條の灰色帶ありて、第二及び第三帶の間は暗褐色、中室に一白斑を具へ、第三帶と第四帶との間は淡黄色、翅端に近き一紋及び第四脈の中央よりく字形をなして後緣に達する一條は淡色、後緣角に近く二個の褐色紋を具へ、後翅には二條の灰色帶あり、體長一寸三分乃至一寸七分、開張三寸五分乃至四寸。

幼蟲 灰黄暗色の綾様紋を具へ、灰黄色の長毛多く、特に基節部上の隆起にあるものは長く、刷毛狀をなす、各節に横皺多く、第二及び第三節の背上には褐色の毛塊ありて、物に驚く時は之を現はす、第四節乃至第十一節に一双の暗褐色の毛塊ありて、何れも灰黄毛を混ず、全面に灰白色の鱗毛を散在すれども、殊に兩側に多し、頭は黄褐色、四條の褐色條を具へ、灰黄毛多し、腹面は淡色、太き暗色の一縱條あり、體長三寸五分乃至四寸五分、恐らくは此の科に於ける最大の蛞蝓なるべし。

經過 年一回の發生、卵子にて越年、翌春孵化す、幼蟲期は頗る長く、老熟すれば灰褐色の粗繭を造り其内に蛹化す、蛹は黑褐色、接合部赤褐色、點刻多し、繭の長さ二寸五分、繭は常

に食樹の近邊の草間にあり、卵は淡褐色、不規則なる斑紋を裝ひ、長さ九厘、其數多からず、隨て大害なし。

分布 臺灣・支那・印度。

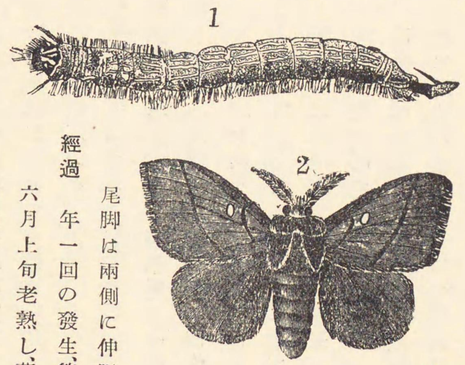
(一一) りんごしらほし Odonestis pruni L. (第二百四十圖)

被害植物 苹樹・梨・櫻。

特徵 成蟲 體・翅濃色、翅底と翅端に近く各一條の黃褐の波狀線を具へ、中央に近く紫褐色の一弓狀線を裝ひ、中室の外緣に一銀色點あり、後翅は黃褐色、雄の觸角は羽狀をなす、體長雄雌九分乃至一寸一分、開張雄一寸九分、雌二寸六分。

幼蟲 頭は暗灰色、體は灰色にして靑味を帶び黃色の背線及び亞背線を具へ、白紋を裝ふ、第三節に赤黃色の橫紋を具へ、第十一節には栓狀突起あり、尾脚は兩側に伸脹す、體長二寸七分。

第二百四十圖 りんごしらほし
(1) 成蟲 (2) 幼蟲



經過 年一回の發生、第一回の脫皮を經たる幼蟲にて越年す、五月下旬乃至六月上旬老熟し、黃白色の繭を造り、其內に蛹化す、繭は長楕圓形にして普通葉を捲き其內にあり、蛹は暗褐、翅鞘の部分黑色、三四週間の後蛹化す、蛾は卵子を樹幹若くは樹枝に二三個宛產下す、卵は球形にして灰白色なり。

分布 北海道・本州滿洲・歐洲。

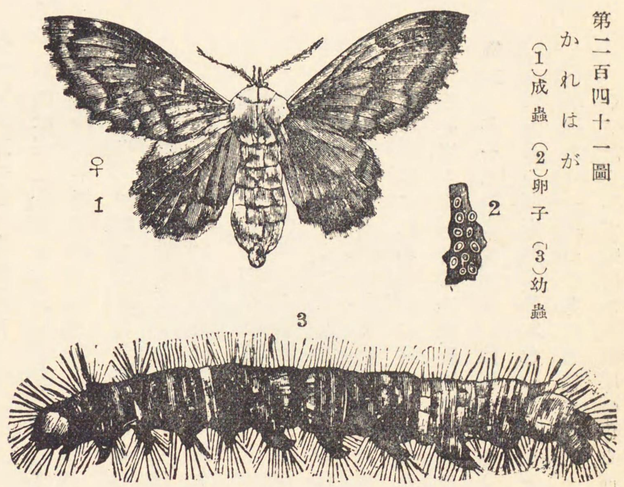
(一二) かれはが Gastropacha quercifolia Esp. (第二百四十一圖)

被害植物 苹樹・梨・櫻。

特徵 成蟲 體・翅赤褐色、翅の外緣に著しき犬牙狀の切目あり、前翅に二條の黑き波狀線ありて、一は外緣に近く位して太く、他は中央にありて細し、外緣角に近く一個の大黑紋あり、後翅の中央に黑色の一橫線を走らし、翅を疊むときは恰も枯葉の觀を呈す、體長一寸二分、開張二寸四分。

幼蟲 暗灰色、少しく紫色を帶ぶ、各節の背上に疣狀突起と二個の赤褐紋あり、尙第二、第三兩節の背上に大なる黑藍色の橫隆起ありて、之に藍色毛を裝ひ、前種同樣平時は之を隱せども、物に驚く時は忽ち現はす、第十一節の背上に短き尾角を裝ふ、腹面は赤褐色、黑紋を裝ふ、兩側に黃白毛を密生し、各節の兩側より長き疣狀突起を出し、之に長毛を簇生す、胸脚は黑色、腹脚及び頭は黑褐色にして黃條あり、體長三寸乃至三寸五分。

經過 年一回の發生、幼蟲の儘樹皮下若くは其他の蓋下に越年し、翌春三回の脫皮を終へ、六七月の頃老熟し、黑灰色の楕圓繭を造り、其內に蛹化す、蛹期は三四週間、卵は灰白色、綠紋あり、一雌の產卵數百四五十、二三個宛樹皮若くは樹幹に產附せらる、幼蟲は少しく平たく、其皮膚は恰も樹皮の色と同樣なれば發見すること難し、甚だしき害をなさ



第二百四十一圖　かれはが
(1)成蟲 (2)卵子 (3)幼蟲

ず。

分布　北海道・本州・朝鮮・滿洲・歐洲。

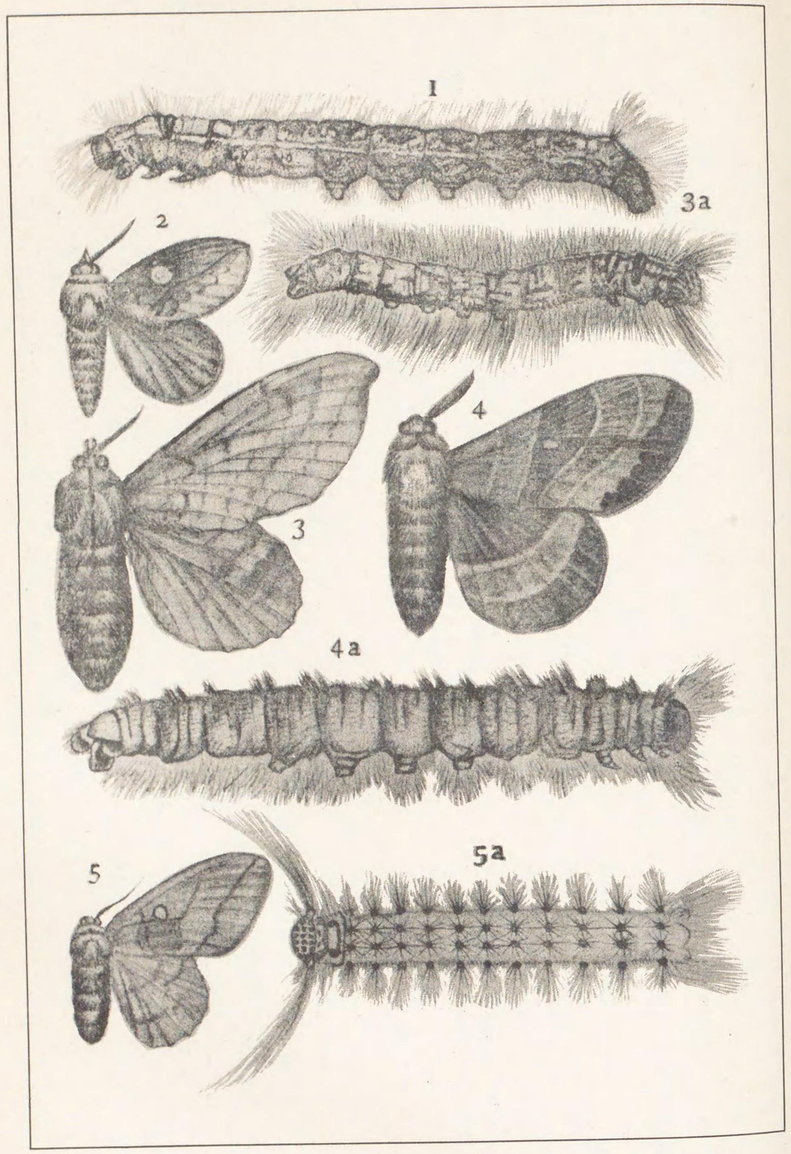
驅除法　冬季樹皮其他潛伏所となるべき個所を撥きて幼蟲を殺し、又石油乳劑に二十倍の水を混じて幼蟲に灌注すべし、蛾は燈火に集來するの性あるを以て誘殺すべし。

(二三) **ほしかれは** Gastropacha (Epicnaptera) populifolia Esp. (第二十九圖版(3))

被害植物　白楊柳。

特徴　成蟲　體翅黃褐色、前翅に約六條の波狀線ありて、何れも暗色を呈し、相斷續せるを以て暗色の紋列を有するが如し、外緣は少しく弓狀に刳らる、後翅は稍々卵形、中央に三條の暗色帶を具へ、前緣より中央に至りて判然す、何れも點紋となり斷續す、外緣は弓狀に刳らる、胸背に黑褐色の一背線を具へ、腹背に暗色を有する處あり、體長七分乃至一寸二分、開張二寸乃至二寸八分。

第貳拾九圖



第貳拾九圖

1. Dendrolimus yozoens's Mats. えぞまつかれは 幼蟲 ……P.642
2. Cosmotri..he laeta Wk. ひめけかれは ……P.647
3. Gastropach populifolia Esp. ほしかれは ……P.652
   3a. 幼蟲
4. Lebeda nobilis Wk. おほかれは ……P.649
   4a 幼蟲
5. Trabala vishnou Lef. きいろかれは ……P.647
   5a. 幼蟲

幼蟲　灰色若くは灰白色、暗色紋を散在し、第二節の毛塊は黑藍色、第三節のものは赤黄色、其前後に黑藍色の毛塊あり、背面の毛は黑色、側面の毛は灰白色、但し疣起には黑毛を混ず、第十一節の突起は圓く、末端に二疣起あり、體長二寸四五分。

經過　年一回の發生、二三齡の幼蟲にて越年、翌春四五月頃より現はれ、主に梢上にありて食害す、老熟すれば草間に入りて灰黄若くは灰白色の繭を造り、其内に蛹化す、繭は常に黑色の幼蟲毛を附着す、蛹は黑褐色、淡色毛を具へ、白粉を裝ふ、五月中旬乃至六月下旬羽化す、其數少なく、隨て大害あるを聞かず。

分布　北海道、本州、朝鮮、支那、滿洲、歐洲。

（一四）ひめかれは　Epicnaptera ilicifolia L.（第二百四十二圖）

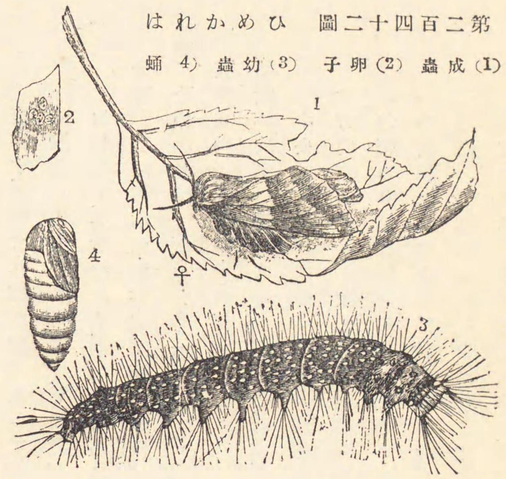
被害植物　苹樹、梨、櫻、白楊、樺。

特徴　成蟲　體翅赤褐色、灰色を帶ぶ、前翅は二條の暗黑線ありて、一は波狀をなして翅の中央を走り、一は短くして其内側に位す、此の二線間に灰白紋あり、後緣より前緣角の方向に斜走せる灰白色の廣帶を裝ひ、外緣は少しく灰色を呈し、後翅の中央には一暗色帶あり、前後兩翅には凹凸ありて、緣毛は白色、靜止のときは翅を屋斜狀に疊み、後翅の前緣を出すを以て枯葉の觀をなす、體長八分、開張一寸七分。

幼蟲　淡褐色、藍色を帶ぶ、頭灰褐色、亦褐毛を具へ、第二及び第三節の背上に大なる黄赤紋を裝ひ、其兩側に黑紋あり、第二節乃至第十一節に各二個の白紋を具へ、背線は黑

第二百四十二圖　ひめかれはの

(1)成蟲 (2)卵子 (3)幼蟲 (4)蛹



色、各節の中央にて廣がり居れども、餘り判然せず、又時に體は灰色、黄赤の紋を具へ背線の黑色なるものあり、毛塊を裝ふ、體長二寸五分。

經過　年一回の發生、蛹にて越年す、卵は灰色にして白紋を具へ、中央に黑點あり、二三個宛樹幹に產下せらる、翌年五六月羽化す、幼蟲は八月頃に至りて老熟し、黄白繭を造りて其内に蛹化す、蛹は黄褐にして白粉を裝ふ。

分布　北海道・滿洲・歐洲。

(一五) をびかれは(てんまくけむし) Malacosoma (Clisiocampa) neustria L. var. testacea Motsch.

(第二百四十三圖)

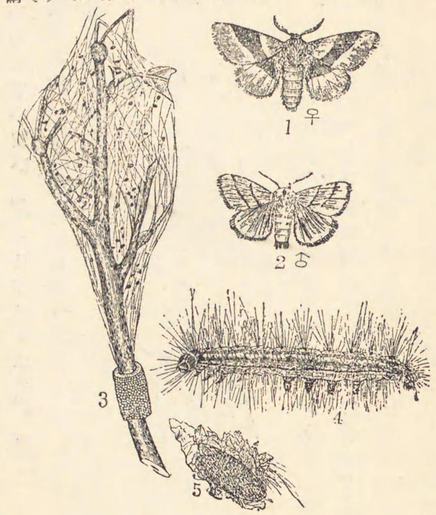
被害植物　苹樹・梨・桃・李・梅・杏・柳。

特徴　成蟲　雌は體・翅赤褐色、前翅の中央に暗褐色の一横帶を具へ、其兩側は黄色、雄は體・翅黄色、赤褐色の二斜條を裝ひ、緣毛は赤褐色、前翅に黄色の部分あり、體長五分乃至八分、開張一寸乃至一寸四分。

幼蟲　背部は青藍色、腹部は暗色、兩側は赤褐若くは暗褐色、黄赤色の二背線あり、各節に黑色の疣起ありて、之より暗色の軟毛を簇生す、第一節及び第十一節の背上に稍々大なる黑紋ありて、多數の黑毛を生ず、頭は黑藍色、二個の黑紋あり、體長一寸六分。

第二百四十三圖　をびかれはの

(1)成蟲 (2)同雄 (3)卵子 (4)幼蟲 (5)繭



經過　年一回の發生、卵子にて越年す、卵は指環狀をなして樹枝にあり、其數約二百五十、灰色を呈し、一種の膠質物を以て堅く相連結す、早春孵化當時にありては幼蟲は黑色にして黄褐毛を裝へども、二齡に至れば稍々固有の體色を表はす、初めは糸を吐き、直徑一寸位の天幕樣の巢を造り、小形の出入口を有す、寒冷の時若くは朝夕には此の内に集り、成長するに從ひ散在するに至る、六月上旬乃至中旬に至りて老熟し、或は葉を纏めて白繭を造り、其内に蛹化するものあり、或は食樹を辭して軒下、壁隅に入りて蛹化するものあり、皆多量の黄粉を裝ふ、是れ幼蟲のまるぴきー氏管に有せる結晶體と同一なるものなり、三週間乃至四週間を經て蛹化す。

分布　北海道・本州・四國・九州・朝鮮・支那・滿洲・歐洲。

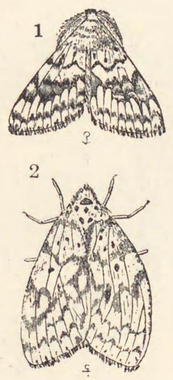
驅除法 冬季梢上にある指環狀の卵塊を採集すべし、幼蟲の巢を造りて其内に群居する場合には、柄付鋏を以て枝と共に切り落すべし、又鐵砲洗矢の如きものを以て巢と共に卷き採るも可なり、幼蟲老熟して相離散するに至れば石油乳劑を用ひ蛾は燈火を以て誘殺すべし。

毒蛾科 Lymantriidae

(一) のんねまいまい Lymantria monacha L. (第二百四十四圖)

被害植物 松、落葉松、とゞまつ。

第二百四十四圖 のんねまいまい
(1) 成蟲 (雄)
(2) 同雌



特徴 成蟲 前翅白色、黑色の紋條あり、犬牙狀の凹凸ある四帶ありて、第二帶最も太し、後翅は灰色、外緣は暗色、前後兩翅の緣毛は白色と黑色との斑をなす、體は白色、黑紋を裝ひ、雌の腹部には赤色の紋條あり、體長六分乃至七分、開張一寸一分乃至一寸八分。

幼蟲 灰色乃至暗灰色にして少しく綠色を帶び、第二節には天鵞絨樣の黑横紋ありて、之より褐色の一線を縱走し、第十一節に達す、第七及び第八節の後緣並に第九節の前緣に鞍狀の灰白紋ありて、前述の縱線を遮斷す、各節に數個の疣起ありて、之より長

毛を出す、體長一寸七八分。

經過 年一回の發生、卵子にて越年す、卵子は普通二十乃至五十個宛一塊をなして樹皮下、蘚苔下其他空隙にあり、初めは赤色、次第に灰褐色となり、孵化前には眞珠樣の光澤を放つ、五月中旬乃至下旬に孵化し、七月中旬老熟し、次で蛹化し、八月上旬乃至中旬に至りて蛾化す。

分布 本邦にありては其害未だ甚だしからずと雖も獨逸地方にては群をなして大害を加ふることあり、近來落葉松の造林に多少の害を認むるに至れり。

樺太、北海道、本州、滿洲、歐洲。

驅除法 卵子は蘚苔、樹皮下其他樹幹の空隙にあるを以て搜索して殺すべし、七月下旬乃至八月下旬、松林を巡視し、網羅を以て蛾を捕獲すべし、遲鈍にして樹幹に靜止し居れば、手を以て容易に殺すことを得べし。

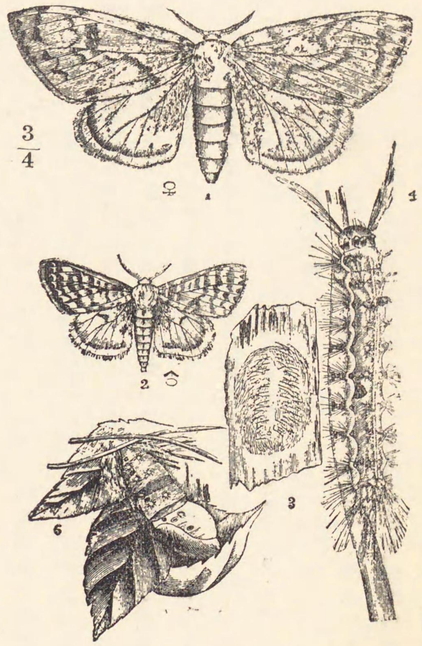
(二) かしはまいまい(かしはけむし) Lymantria mathura Moor. (第二百四十五圖)

被害植物 苹樹、梨、榊、檜、櫟、樫。

特徴 成蟲 雌の前翅は灰白色、中央及び外緣に近く暗色部あり、翅底、前緣及び外緣は淡紅色を帶ぶ、後翅は淡紅色、外緣に近く暗色帶あり、體は白色、第一腹節より第四腹節並に脚、觸角の基部及び下唇鬚は淡紅色、雄前翅は暗灰色、暗黑の紋條を裝ふ、後翅は暗黃色、中央に暗色の一紋を具へ、外緣に接して暗色帶を裝ふ、腹部は濃黃色、背上に一條の

第二百四十五圖　かしはまいまい

(1)(2)成蟲　(3)卵子　(4)幼蟲　(5)蛹



黑紋列あり脚は黃色、觸角は羽狀にして暗色なり、體長六分乃至一寸一分、開張九分乃至二寸。

幼蟲　黑褐色、二條の背線及び波狀をなせる氣門線は黑色、第一及び第二節の背上に黃色紋を具へ、尾節の背上に灰黃紋あり、各節に六個乃至八個の疣起ありて、之より灰色若くは黑毛を簇生す、第四節の背上にある二個の疣起は著大にして短毛を粗生す、尙第一節の兩側より長黑毛を生じ、角樣に突起す、脚は割合に長く、腹脚の外基部は黑色、體長一寸八分。

經過　年一回の發生、卵子にて越年す、卵は灰黃色、常に母蟲の體毛を以て掩はれ、其數二百餘あり、相集合して樹間にあるを常とす、翌春孵化し、數日間は其卵殼の近邊に相集合し、後食葉を索めて離散す、七月中旬乃至下旬に至りて食樹を辭し、場所を選ばず、雜草

の間に褐色の絹絲を吐きて蛹を結着す、蛹は黃褐色、灰毛を裝ふ、二週間內外に蛾化す、雌は常に樹幹に靜止すれども、雄は活潑にして空中を旋轉すること次の「まいまいが」に同じ。

分布　北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那、滿洲、印度。

驅除法　同前。

(三)まいまいが(ぶらんこけむし、はんのけむし) Lymantria dispar L. var. japonica Motsch.

(第二百四十六圖)

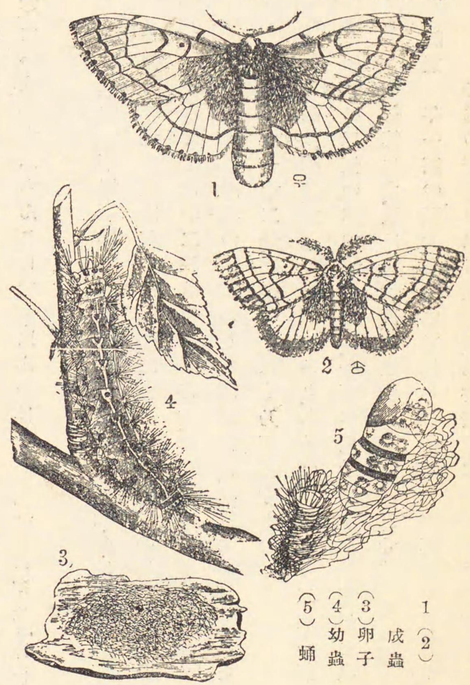
被害植物　苹樹、梨、櫻、梅、杏、李、桑、柳、白楊、赤楊、楓、楡、葵、桂等。

特徵　成蟲　雌は灰黃色、前翅に各一個く字形の黑褐紋を具へ、其內方に同色の小圓紋を裝ふ、尙暗色の二波狀線あれども、其外側のものは判然せず、外緣に八個の黑色紋を列ね後翅に同樣の九紋あり、雄は暗褐色、斑紋は同樣なれども濃色にして判然す、體長六分乃至一寸二分、開張一寸八分乃至三寸七分。

幼蟲　褐色、黃色の綾樣紋あり、初めの五節に各二個の藍色紋を具へ、之より以下の各節に二個の赤色紋を裝ふ、各節六個乃至十個の疣起を具へ、之より灰色及び黑色の長毛を簇生す、頭は灰黃色、二黑條あり、體長二寸。

經過　年一回の發生、卵子にて越年す、一雌の產卵數二百乃至四百、卵は灰黃色にして常に母蟲の體毛を以て被はれ、樹幹若くは其割目に產下せらる、翌春孵化當時は相集合す

第二百四十六圖　まいまいが



(1)(2) 成蟲
(3) 卵子
(4) 幼蟲
(5) 蛹

ため飛翔遲鈍なれども、雄は甚だ活潑にして、白晝旋轉しつゝ飛翔するの性あるを以て「まいまい」の名あり、時に森林に大害を加ふることあり。

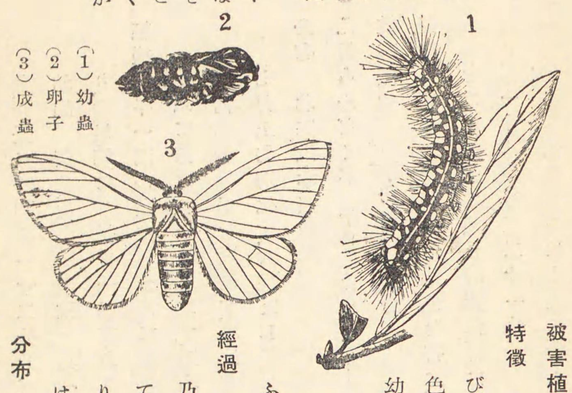
分布　北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那、滿洲、歐洲、北米。

驅除法　同前。

(四) やなぎどくが Stilpnotia salicis L. var. candida Stgr. (第二百四十七圖)

れども、成長するに從ひ互に離散す、初めは暗黑色なれども、次第に固有色を現はし、七月下旬に至り老熟す、時々絹絲を吐き樹枝より垂下し、風の助を得て他樹に轉ず、故に「ぶらんこけむし」の名あり、蛹は暗褐色にして赤褐色の叢毛を斑に簇生し、極めて薄き繭を被り樹枝より垂下す、八月中旬蛾化す、雌は肥大せる

第二百四十七圖　やなぎどくが



(1) 幼蟲
(2) 卵子
(3) 成蟲

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　體翅白色、綠色の光澤あり、腹部は多少黑味を帶び、脛節及び跗節に黑環あり、雌の觸角は黑褐色、雄は灰褐色、體長五分五厘乃至七分、開張一寸四分乃至一寸七分。

幼蟲　灰色、白色及び暗色の綾樣紋を具へ、背線は黑褐色、其の兩側に黃白色の細線あり、各節に赤色の疣狀紋ありて、之に黃白毛を簇生す、第一節にある毛は前方に向ふ、頭は黑色、前後の兩緣は灰色、體長一寸五六分。

經過　年一回の發生、卵子にて越年す、卵は白色、一塊に百五十乃至二百粒あり、眞珠樣の光澤ある泡沫樣の分泌物を以て掩はる、樹幹若くは樹枝に產付せらる、溫暖なる年にありては秋期卵子の孵化することあり、幼蟲は群集せず、蛾は燈火に飛來するの性あり。

分布　北海道、本州、朝鮮、支那、滿洲、歐洲。

驅除法　冬季は卵子を搜索し、翌春孵化したる幼蟲に對しては石油乳劑を用ふべし、蛾は遲鈍なるを以て捕獲すること容易なり。

(五) きあしどくが Leucoma auripes Butl. (第三十圖版(1))

被害植物 みづき・白雲木・齋墩(エゴノキ)果。

特徴 成蟲 體翅は淡き灰色、前翅の翅端は灰白色、天鵞絨様の光澤を有す、後翅外緣の一部は灰色を帶ぶ、觸角白色、羽狀枝は暗黑色、胸部は白色、前肢の脛部及び全跗節は橙黃色、體長五分開張一寸二分乃至一寸六分。

幼蟲 黃色黑色の斑紋を具へ、黑色の長毛を裝ひ、第一節の兩側に各一本の筆様毛あり、尙尾端にも長き一毛束あり、腹面は淡色、體長一寸二三分。

經過 年一回の發生、卵子にて越年、卵子は樹幹に產附せられ、黃色なるも暗灰色の膠質物を以て蔽はれ一塊をなす、翌春孵化し、六月頃より老熟し、粗繭を造り其內に蛹化す、繭は楕圓形、黑毛を附着す、蛹は黃色、黑紋を具へ、頭部に長毛あり、長さ六分、六月下旬乃至七月上旬羽化す、大害なし。

分布 北海道・本州・朝鮮。

(六) えるもんどくが Arctornis L-nigrum Müll. (第三十圖版 (2))

被害植物 田麻(シナ)・楡・柳・白楊・楡。

特徴 成蟲 體翅白色黃色を帶ぶ、天鵞絨様の光澤あり、前翅の横脈は黑色にして く字形をなし、觸角は淡き暗黃色、脚に黑輪と白輪との交互斑あり、體長♂♀六分乃至七分、開張一寸八分乃至二寸一分。

幼蟲 黑色、側面は赤黃色、背上にある八個の毛塊は赤褐第一節及び尾節にあるものは甚だしく延長す、第四、第五、第九及び第十一節にあるものは白色、兩側にある毛は黃色、頭黑色、體長一寸三分乃至一寸五分。

經過 年一回の發生、第一回の脫皮を終へたる幼蟲にて越年、翌春四五月頃より現はれ、六月下旬老熟し、粗繭を造り蛹化す、蛹は光澤ある淡綠色、三條の黃背線を具へ、翅鞘は黑圈を裝ひ、小齒狀突起多し、七月上旬羽化す、大害なし、札幌地方には普通なり。

分布 北海道・本州・朝鮮・滿洲・歐洲。

(七) すげどくが Laelia coenosa Hb. var. paucipuncta Strand. (第三十圖版 (3))

被害植物 牧草。

特徴 成蟲 雄は體翅灰褐色、前翅の外緣に近く三四の黑紋を横列す、後翅は灰白色、腹部に灰白毛を裝ふ、脚は黃色、觸角は羽狀を呈し、各枝に灰色の微毛を密生し、其末端に黃色の三毛あり、雌は體翅灰白色、光澤を缺き、觸角は白色、羽狀枝は黑色、體長五分、開張一寸一分乃至一寸三分。

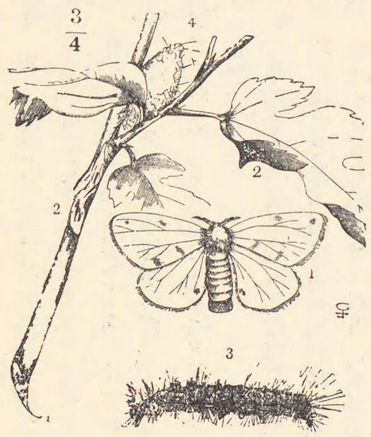
幼蟲 體は灰黃色、長き黃毛を具へ、背線は太き黑色、之は白粉を裝ふ、亞背線及び氣門上下の兩線上に瘤狀の隆起ありて、之より灰白色の長毛を簇生す、兩側に黑色の二縱條あれども長毛の爲め餘り判然せず、第一節の兩側に黑色の長き筆様毛を具へ第三、第四、第五及び第六節の背上に灰白色の毛塊を裝ひ、第十一節の背上に黑色の長毛束あり、頭は黃褐色、兩側は廣く暗色、腹部及び脚は淡色、體長一寸二分內外。

經過 年一回の發生、卵子にて越年するもの〻如し、幼蟲は北海道にては六月頃より現はれ、七月上旬老熟し、黄色の楕圓繭を造り、其内に蛹化す、繭は常に幼蟲の黄毛を附着し、粗なり、蛹は赤褐色、黄白色の長毛多く、尾端には黄色の鈎刺ありて其數多し、大正三年釧路にて牧草に大害を加へたることあり然れども平時は其發生多からず。

分布 北海道・本州・朝鮮・支那・滿洲・歐洲。

(八) もんしろどくが(きんけむし) Porthesia similis Fuess. var. xanthocampa Dyar. (第二百四十八圖)

第二百四十八圖 もんしろどくが
(1) 成蟲 (2) 卵子 (3) 幼蟲 (4) 蟲



被害植物 苹樹・梨・櫻・桑・李・梅・薔薇等。

特徴 成蟲 體翅は白色、往々前翅と後翅と相接する處に相隔離せる二個の暗色紋を裝ふ、前緣の裏面も暗色、尾端に黄色の毛塊ありて特に雌に多し、體長五分乃至七分、開張一寸一分乃至一寸六分。

幼蟲 黑褐色、背線及び氣門線は黄赤色、第四及び第五節の背上に光澤ある毛を裝ひ、背線の兩側にある毛塊には白毛を混ず、體の兩側に疣狀突起ありて、之より灰黑相混ぜる多數の粗毛を簇生す、氣門上にある疣起は紅色、頭は光澤ある黑色、胸脚端は黄色、

體長一寸四分。

經過 年一回の發生、幼蟲にて越年す、幼蟲は多く二回の脫皮を經て、樹皮下若くは空隙に入り、灰白色の小粗繭を被りて冬期間は其内に籠居す、翌春此繭を破りて出で、各種植物の新芽、嫩莖及び稚果を食害す、更に二回の脫皮を終るの後老熟し、適當の隱處を索めて暗灰色の粗繭を造り、其内に蛹化す、繭は常に幼蟲の黑毛を混ず、二週乃至三週間を經て蛾化す、一雌の產卵は二百乃至四百五十、葉下にありて常に母蟲の體毛を以て被はる、卵は割合に小にして黄色、蠶卵に酷似す、七月下旬孵化す、時に大害を加ふることあり。

分布 北海道・本州・九州・朝鮮・支那・滿洲・歐洲。

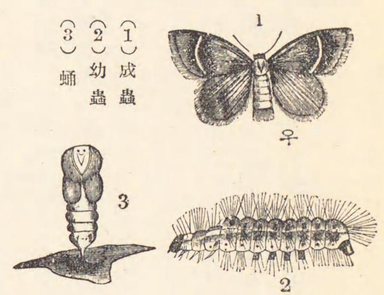
驅除法 冬期樹幹の粗皮下若くは空隙にある幼蟲の繭を搜索すべし、早春新芽の綻ぶる頃を見計ひ、石油乳劑に三十倍の水を混じ灌注すべし、七八月の頃注意して卵子を搜索すべし。

(九) ちやどくが(ちやのけむし) Euproctis (Artaxa) conspersa Butl. (第二百四十九圖)

被害植物 茶・山茶・椿・茶梅。

特徴 成蟲 雄の前翅は黑褐色、黄色なる不明の二横紋ありて、其中央部は何れも少しく外方に屈折す、前緣及び外緣は黄色、外緣角に近く二個の褐色紋を有するものあり、後翅黑色、緣毛は多少黄色、前胸背には黄毛を具へ、中後の兩胸背及び腹背には黑毛を密

第二百四十九圖　ちやどくがが



(1)成蟲
(2)幼蟲
(3)蛹

生す、腹面及び脚は黃色雄の前翅は黃色、中央部には多數の黑褐點を撒布し、外緣に二個の褐紋を有するものあり、後翅黃色、中央は多く濃色、體長三分乃至三分三厘、開張七分五厘乃至一寸一分。

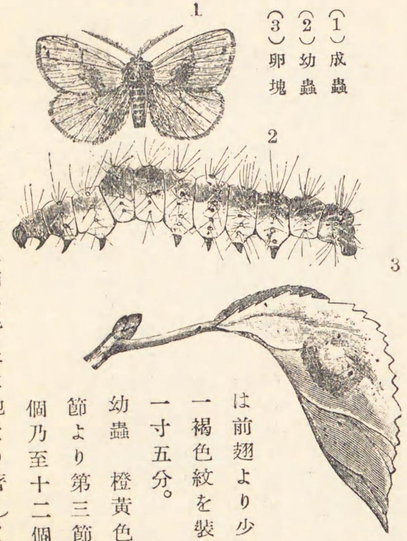
幼蟲　淡黃綠色、頭は黃色、背線は暗褐色、亞背線は白色、氣門上線は暗褐色、第一節並に第四節乃至第十一節に一双の瘤起ありて、之より長短の灰白色を簇生し、各節の兩側に體と同色の疣起ありて、之に長白毛を生ず、第四及び第五節の背上は他より著しく膨起す、尙第一節の兩側に黑色の一疣起あり、腹脚端は褐色、體長八分內外。

經過　年二回の發生第一回の蛾は七月下旬第二回は九月中旬現はる、卵子にて越年す、卵は普通樹幹にありて母蟲の體毛を以て蔽はる、一雌の產卵數約百粒、翌春孵化す、一二回の脫皮後迄は其性集合を好み、數十疋頭部を揃へ後方に退きつゝ食害す、老熟すれば根際若くは樹幹の適當なる場所を索め、褐色繭を造り其內に蛹化す、成蟲及び幼蟲の裝へる體毛は有害なり。

分布　本州。

驅除法　冬季葉裏若くは樹幹にある卵塊を搜索すべし、幼蟲の發生せる場合には灰白色の葉皮を殘留するを以て容易に其存在を認め得べし、群居するを以て驅除すること容易なり、多數に發生する場合には石油乳劑に二十倍の水を混じて灌注すべし。

第二百五十圖　どくがが



(1)成蟲
(2)幼蟲
(3)卵塊

(一〇) どくがが(りんごのどくけむし) Euproctis (Artuxa) flava Brem. =(subflava Brem.) (第二百五十圖)

被害植物　苹樹櫻。

特徵　成蟲　濃黃色、雄は前翅の中央に弓狀の白帶を裝ひ、其內側に褐色の小點より成れる太き一帶あり、後翅は前翅より少しく淡色、雌は白色帶を缺き、外緣に近く一褐色紋を裝ふ、體長四分乃至五分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲　橙黃色、頭黑色、割合に小、腹面腹脚尾脚及び第一節より第三節の兩側を縱走せる紋條は黑色、各節に十個乃至十二個の疣起ありて之より各數本の黃毛を簇生す、第四及び第五節の背上は他より著しく膨起し、其疣起は大にして黑色、第八節より第十節に至る迄の背上突起も亦黑色なり、氣門は黑く、其中央の縱線は白色、體長一寸。

經過　年二回の發生、第一回の蛾は七月上旬乃至下旬、第二回の蛾は九月下旬乃至十月現

はる卵子にて越年す卵は暗褐色常に母蟲の體毛を以て蔽はる一塊の卵數は約二百粒其加害の狀況及び結繭の狀に至りては前種に等し蛾は夏日燈火を慕ひ家屋に飛來す婦女子の皮膚に接觸するときは多少漚衝を生ず。

分布　本州四國朝鮮支那滿洲。

驅除法　同前。

(一一)りんごどくが(あかをのおーぎや) Dasychira pudibunda L. (第二百五十一圖)

被害植物　苹樹梨楡櫸柳白楊胡桃等。

特徴　成蟲　雌の前翅は灰白色黑色の二横線を具へ外緣に小黑紋を列ね全面に無數の小黑點を散布す後翅は白色時に暗色紋を有するものあり雄の前翅は灰白色中央に太き暗色帶ありて其兩側は濃色其前緣に近き部分に更に弦月形の一紋あり翅底に黑色の横線を具へ外緣に黑紋を裝ふ後翅暗色體長六分乃至七分開張一寸五分乃至二寸。

幼蟲　黄色若くは黄褐色第八第九及び第十節に黑色の亞背線を具へ各節に八個乃至十個の疣起ありて之より綠黄色の長毛を生ず第四第五第六及び第七節の背上に長き白毛塊ありて其中間は黑色尚第十節の背上に淡紅の長毛塊あり腹面は暗黑色頭部は灰黄色時に赤褐色の體毛及び毛塊を有するものあり體長一寸八分。

經過　年一回の發生蛹にて越年す蛹は黑褐色黄色若くは暗褐色の繭中にありて葉に蔽はる常に幼蟲の裝へる體毛を附着す六月上旬蛾化し約五十粒の卵子を一塊となして樹幹に產下す一雌の產卵數約四百粒卵は淡褐中央に一個の暗色點あり孵化當時の幼蟲は黑色なれども脫皮後は固有色を呈す蛾は燈火に飛來す。

分布　北海道本州朝鮮支那滿洲歐洲。

驅除法　冬期梢上にある繭を搜索すべし幼蟲は長毛を裝へるを以て發見すること難からず群生する場合には石油乳劑を用ふ。

第二百五十一圖　りんごどくが

(1)成蟲(雌)　(2)(雄)　(3)幼蟲　(4)繭

(一二)すぎどくが Dasychira pseudoabietis Butl. (第三十圖版(4))

被害植物　杉。

特徴　成蟲　雌は體翅灰白色前翅に暗褐色の鱗毛を散在し前緣には暗色紋を列ね中室の外側は暗褐色其上方に短き暗色の一斜條あり前横線後横線は暗色なれども餘り

判然せず、波狀線は淡色、餘り判然せず、後翅は灰色、緣毛は灰白色と暗色の斑をなす、雄にては前翅は灰褐若くは黑褐色、翅底は灰白色、暗色紋を散在す、外緣に近く灰白色の波狀線ありて判然す、尙外緣に沿ひ暗色紋を横列す、體長五分乃至七分、開張一寸六分乃至二寸。

幼蟲　頭綠黃體は綠色、黑毛を裝ひ、第一節の兩側に各一本の長き黑毛束を具へ、第四乃至第七節には黃褐毛と白毛にて成れる短毛束を裝ふ、背線は暗色、亞背線は白色、氣門線は白色、氣門下線は白色、第七節乃至第十節の兩側に黑斜條あり、尙氣門の下方に當り黑毛の横線及び斜條あり、各節の疣起は體と同色、之れより黑色の剛毛を生じ、少しく黃色毛を混ず、尙第十一節に黃色の筆狀毛束あり、體長一寸三分內外。

經過　年一回の發生、幼蟲にて越年、幼蟲は四五月頃より現はれ、七八月の頃に老熟し、枝上に灰黃色の粗繭を造り其內に蛹化す、繭は楕圓形にして幼蟲の體毛を附着す、長さ七分內外、八月下旬乃至九月上旬蛾化す、卵は灰白色、葉部に二三十粒づゝ產附せらる、一二週間にて孵化し、第一回の脫皮を終へたる幼蟲にて越年す、此の蟲は時々大群をなして杉林に大害を加ふることあり。

分布　本州。

(一三) かんしよどくが Dasychira securis Hb. (=Laelia costalis Mats.) (第三十圖版(5))

被害植物　甘蔗・稻・玉蜀黍(臺灣)。

特徵　成蟲　雄前翅緣に前の太き灰黃色の一線を縱走し、中央は暗褐色、外緣に近づくに從ひ濃色を增し、後緣は少しく灰黃色を帶ぶ、後翅は白色、緣毛は暗色、頭及び胸背は暗褐色、腹部に灰色の短毛を密生す、雌前翅の斑紋は雄と同樣なれど翅端は細く三角形をなして突出し、後緣に近く第一室に暗色の一二紋あり、體長五分、開張一寸一分乃至一寸四分。

幼蟲　黑色、黃色の長毛を裝ひ、各節の背上にある四個の横紋及び氣門線は黃色、第一節及び尾節には各二本の長黑毛あり、第四乃至第七節の背上には褐色の一毛塊を裝ふ、口部及び脚は黃褐色、體長一寸內外。

經過　未だ充分の調査を了せず、幼蟲は甘蔗其他禾本科植物の葉を食害すれども、大害を加ふるものにあらず、少くも年二回の發生にして、余は四月及び七月、並に八月に之れを捕獲したり。

分布　臺灣・支那・印度。

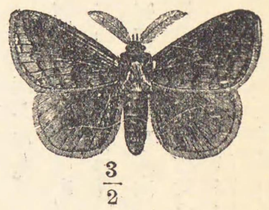
(一四) まめどくが Cifuna locuples Wk. (第二百五十二圖) (第三十圖版(6))

被害植物　大豆・藤・海棠・うつぎ。

特徵　成蟲　體・翅黃色、前翅底、外緣に近き一横帶及び中室にある判然せざる腎狀紋は黃褐色、後翅には斑紋なし、體長五分乃至六分、開張一寸三分乃至一寸七分。

幼蟲　頭黑褐色、體黑色、第一節及び尾節の兩側に筆毛狀の黑長毛を具へ、第四、第五、第

第二百五十二圖
まめどくがが



六及び第七節の背面に各二個の黃褐毛塊あり、第四及び第五節の兩側に黑褐色の長毛を簇生し、第八及び第十節の背線上には各一個の赤紋を具へ、亞背線上には一双の疣起ありて、之より白色毛を簇生す、氣門上下の兩線上には黃色、白色及び黑色の長毛を裝ふ體長一寸。

經過 年二回の發生、第一回の蛾は七月上旬、第二回は九月上旬に出で、幼蟲にて越年す、幼蟲は翌春六月下旬に至り老熟し、葉を捲きて粗繭を造り其內に蛹化す、餘り大害を加へず、蛾は燈火に飛來す。

分布 北海道、本州。

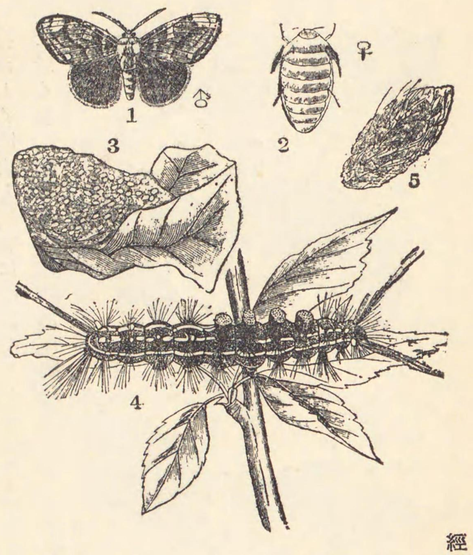
(一五) あかもんどくが(つのけむし) Orgyia gonostigma F. (第二百五十三圖)

被害植物 苹樹、梨、櫻、須具利、總須具利。

特徵 成蟲 雌は體暗黑色、翅は退化し、腹部大なり、雄の前翅は赤褐色、前緣角に黃色及び白色紋を裝ひ、後緣角に黃色の部分ありて、之に一個の白紋を裝ふ、後翅黑褐色、體長四分乃至七分、開張一寸二分。

幼蟲 黑色、二條の背線及び氣門線は赤黃色、第一節よりは二個、尾節よりは一個、筆毛樣の長黑毛束を簇生す、第四、第五、第六及び第七節の背上には黃褐色の毛塊を具へ、各節に於ける疣起よりは白毛若くは黑毛を叢生す、體長一寸三分。

第二百五十三圖 あかもんどくがが
(1)成蟲 (2)蛹 (3)卵子 (4)幼蟲 (5)繭



幼蟲の裝へる暗黃毛を混ず、蛹は黑褐色、尾端に長突起を具へ、腹部は黃褐色、背上に金色毛を裝ふ、蛹期は二週乃至三週間、雌は繭上に交尾し、其上に產卵す、雄は甚だ活潑にして晝間旋轉して飛翔す。

分布 北海道、本州、朝鮮、滿洲、歐洲。

驅除法 卵塊を搜索すべし、幼蟲には石油乳劑を用ひ、冬期樹皮下に越年するものを殺す

經過 年二回の發生、第一回の蛾は七月、第二回は九月現はる、一二回の脫皮を經たる幼蟲にて樹皮下其他の被蓋下に越年し、翌春新芽の開綻と共に出でて嫩葉を食害す、卵は球形にして中央に凹陷部を具へ、灰色なり、一卵塊中の卵子は三百內外、常に暗色なる繭上に產附せられ、母蟲の體毛を以て被はる、幼蟲孵化の當時は黑色にして長黑毛を裝ひ、七月中旬乃至下旬老熟し、葉を纏めて暗褐色の薄繭を營み其內に蛹化す、繭は

べし。

(一六) しろもんどくが(ひめつのけむし) Orgyia thyellina Butl. (第二百五十四圖)

被害植物 苹樹梨櫻須具利總須具利。

特徴 成蟲 雌は體翅灰黃色、前翅の前緣に近く長楕圓の一黑褐色紋を具へ、翅底及び後緣角に少しく藍色を混じたる小褐色紋を散在す、翅の退化せるものにありては腹部甚だしく膨大し、胸背に暗黑毛多し、雄は暗褐色、前翅の後緣及び翅底は黃褐色、前緣角に近く黑褐紋を具へ、後緣角に眼狀紋ありて、其中央は黑褐色、周圍は白色、外緣に黑褐色の波狀線ありて、其內側及び緣毛は黃褐色、體長二分五厘乃至四分、開張一寸三分乃至一寸五分。

幼蟲 前種に酷似すれども、體は細長にして、暗黑色、氣門線は灰黃色にして判然せず、第五節の兩側より一個の長き黑色の毛塊を出だせるは、其最も異なる所なり、體長九分乃至一寸二分。

第二百五十四圖 しろもんどくが

(1)(2)成蟲 (3)子卵 (4)幼蟲 (5)蛹

經過 年二回の發生、卵子にて越年す、第一回の蛾は七八月、第二回は九、十月に現はる、蛾は前種同樣に繭上に產卵するものなれども、母蟲の體毛を以て被はれず、繭は暗灰色、蛹は光澤ある黑色、體の前半は圓形の點刻を散在し、腹部の中央に一條の黃褐帶あり、尙腹面にも灰黃の部分を具へ、尾端に長突起あり、雄は前種同樣に晝間旋轉して飛翔す。

分布 北海道、本州。

驅除法 冬季、梢上に枯葉を見るときは採り去るべし、多くは越年せる卵塊なり、卵塊は灰白にして一見既に脫殼後の卵子の如きが故に注意を要す。

(一七) こしろもんどくが Orgyia postica Wk. (第三十圖版(7))

被害植物 茶、果樹、苗木各種の花卉(臺灣)

特徴 成蟲 雄は體翅褐色、前翅の前橫線は暗色、餘り判然せず、中室の外側に暗色の一短線ありて、其兩側は白色(但し臺灣產のものは內側は灰白、外側は黃色)、中室紋の外側の一圓は暗色、後橫線は黑色にして判然し、第七脈の處にてく字形をなす、外緣に淡色の二帶あれども判然せず、翅端に暗色の短斜條あり、後翅は暗色、雌にては翅は退化す、全體灰黃色、尾端少しく暗色を帶ぶ、頭胸は小、腹部は大部を占め、之に四五百の卵子を透視し得べし、體長(♂)三分、開張八分、(♀)體長五分內外。

幼蟲 體黃色、褐色の毛を裝ふ、背線及び亞背線は褐色、第一節の兩側に褐色の長毛束あり、第四節より第七節の背面に各一個黃色の毛塊を具へ、第四節及び第五節の兩側

に灰黄色の長毛塊あり、第十一節及び尾節には長き暗褐色の長毛束を裝ひ第九及び第十節の背線上に紅褐色の疣起あり、第二節乃至第十一節に各八個の疣起ありて、之より數本の灰黄毛を生ず、頭は黑色、體長一寸二三分。

經過 臺灣にては年六回の發生、幼蟲にて越年、雌は雄の來るを待ちて交尾し、卵子を繭上に不規則に產附す、七日乃至十二日にて孵化し、幼蟲は三週間乃至四週間にて老熟し結繭す、繭は楕圓形にして粗なり、黑毛を附着す、蛹は黄褐色、淡色の刺毛を粗生す、長さ六分内外、大凡四十四日間を經て一世代を終る、第一回は三月下旬、第二回は五月上旬、第三回は六月中旬、第四回は八月上旬、第五回は九月中旬、第六回は十一月上旬蛾化す、幼蟲は初めは集合すれども後離散す、何れの植物をも食害すれども大害なし。

分布 臺灣、支那、印度、

尙此科に屬する害蟲にして餘り重要ならざるものは左の如し。

(一八) かばもんどくが Orgyia antiqua L.

被害植物 果樹、柳、楮、其他種々の濶葉樹。

分布 樺太、歐洲。

(一九) こうすぐろどくが Cifuna jankowskii Oberth.

被害植物 葡萄。

分布 臺灣、支那。

(二〇) ぶだうどくが Cifuna eurydice Butl.

被害植物 葡萄。

分布 本州。

(二一) しろふどくが (?) Dasychira albodentata Brem.

被害植物 椴。

分布 本州。

(二二) みかんどくが Dasychira mendosa Hb.

被害植物 柑橘、桑、想思樹、竹、菜豆等

分布 臺灣、印度。

(二三) ももどくが Dasychira dudgeoni Swinh.

被害植物 桃、柑橘、桑。

分布 臺灣。

(二四) しろをびどくが Numenes disparilis Stgr.

被害植物 椚。

分布 本州。

(二五) くろもんどくが Euproctis niphonis Butl.

被害植物 椚。

分布　本州。

(二六) ほしきどくが　Euproctis flavinata Wk.

被害植物　柑橘類。

分布　臺灣。

(二七) ふたほしどくが　Euproctis staudingeri Leech.

被害植物　茶枇杷(臺灣)。

分布　本州·臺灣。

(二八) だんだらきどくが　Euproctis unipunctapex Shirak.

被害植物　茄子·柑橘(臺灣)。

分布　臺灣。

(二九) たいわんきどくが　Porthesia taiwana Shirak.

被害植物　柑橘·蔬菜·刀豆·茶·小楯。

分布　臺灣。

(三〇) すきばどくが　Perina nuda F.

被害植物　榕樹。

分布　臺灣·印度。

天社蛾科　Notodontidae

(一) もくめが　Dicranura vinula L. (第三十圖版(8))

被害植物　柳·白楊。var. felina Butl.

特徴　成蟲　體翅灰白色,胸腹背に黒紋を具へ,前翅に黒き木目様の斑紋を裝ひ,殊に外緣の大紋あり,後翅に木目様の斑紋を缺き,横脈上にく字形の暗色紋を具へ,外緣に沿ひ七八個の黒紋を並列す,體長七分乃至一寸,開張一寸八分乃至二寸五分。

室にあるものは判然す,翅脈は黄色,第一脈の基部に近く四黒紋ありて,中央には灰色

幼蟲　初めは黒色,成長するに從ひ綠色となり,頭大にして赤褐色,硬皮板及び背線は灰褐色若くは赤褐色,後者は中央にて甚だしく增幅す,二個の長き尾毛を具へ,其末端は赤色,之は意によりて伸縮し得べし,口部の下方よりは臭液を滲出す,體長二寸乃至二寸四分。

經過　年一回の發生,蛹にて越年し,翌年五六月に羽化す,卵子は褐色,黄環ある一黒紋を具へ,主に幹枝に產附せらる,幼蟲は七月より九月に亘りて食害し,老熟すれば木屑を集め粗繭を造り其内に蛹化す,繭は灰褐色,常に樹枝に附着し楕圓形をなす,長さ一寸二三分,蛹は赤褐色,尾端に顆粒突起なし,大害をなさゞれども其異形を呈せる爲割合に人の注意を惹くものなり。

分布　北海道・本州・朝鮮・滿洲・歐洲。

(二) おほもくめ Dicranura erminea Esp.（第三十一圖版(1)）

被害植物　柳・白楊。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、第一脈の基部に近く灰色の大紋を缺き、二黑紋あり、腹背は黑色、背線及び尾端は白色、尾端には六個の黑條あり、體長前種より大なるものあり。

幼蟲　前種に似たれども其異る所は體太く、暗色の背線は中央にて遙に狹く、外側を緣取る白線は太く、第七節と第八節の中間は白色にして、背線よりは暗色の突起紋を出す、氣門は白色、黑圈あり、尾狀突起は長くして太し、體長二寸乃至二寸四分。

經過　同前、前種よりも遙に少なく、隨て其害も亦少なし。

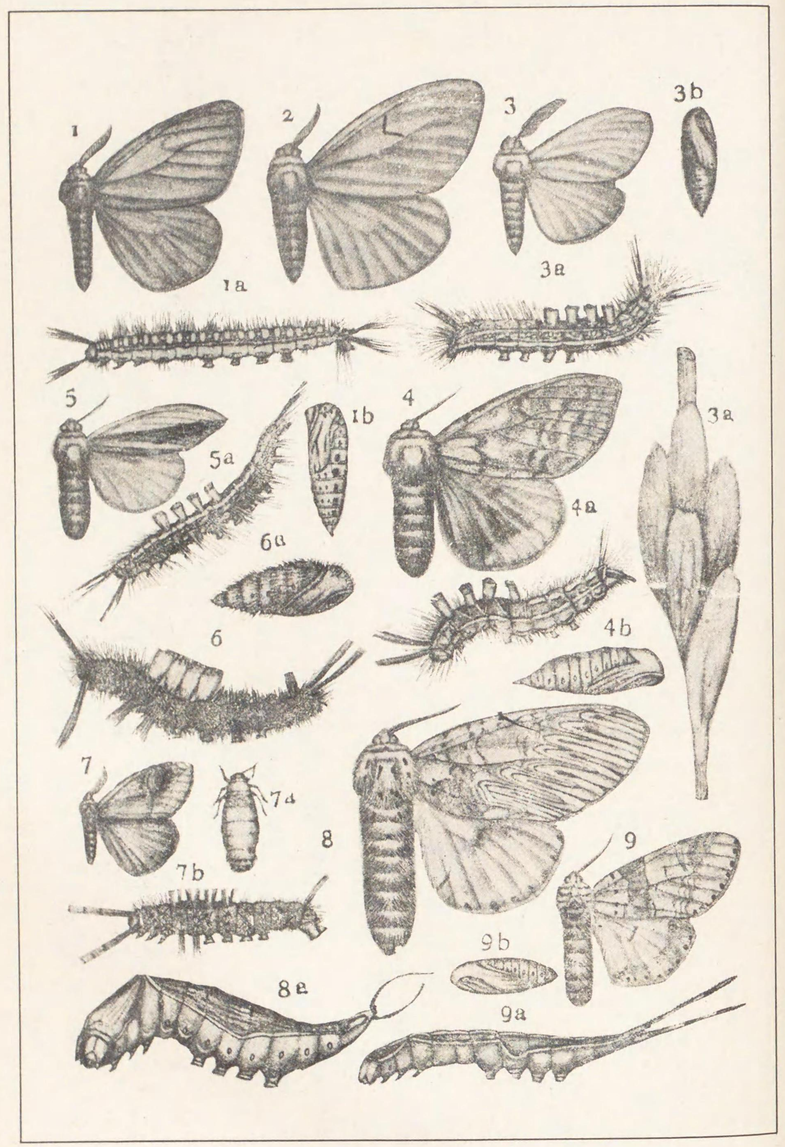
分布　北海道・滿洲・歐洲。

(三) なかぐろもくめ Cerura lanigera Butl.（第三十圖版(9)）

被害植物　柳・白楊。

特徴　成蟲　前翅は灰色、三分の一の處に太き黑帶ありて、中央は少しく縊れ、灰白鱗を散在す、後緣の兩側には黃色紋を具へ、翅底には六個の黑點を裝ひ、中室點は黑色、三分の二の處に三條の細き波狀線ありて、外側にあるものは黃線にして緣取らる、其外側に當り前緣に接して黑色の一大紋を具へ、之に灰白色及び黃色鱗を散在す、外緣には圓

第參拾圖



第參拾圖

1. Ivela auripes Butl. きあしどくが……P.661
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Arctonis l-nigrum Müll. えるもんどくが……P.662
3. Laelia coenosa Hb. すげどくが……P.663
   3a. 幼蟲 *3b.* 蛹 *3c.* 繭
4. Dasychira abitis L. var. pseado bietis Butl. すぎどくが……P.669
   4a. 幼蟲 *4b.* 蛹
5. Psalis (Dasychira) securis Hb. かんしよどくが……P.670
   5a. 幼蟲
6. Cifuna locuples Autl まめどくが (幼蟲)……P.671
   6a. 蛹
7. Orgyia posticaWk. こしろもんどくが……P.675
   7a. 雌成蟲幼蟲 *7b.* 幼蟲
8. Dicraneura vinula L. もくめが……P.679
   8a. 幼蟲
9. Cerura lanigera Butl. なかぐろもくめ……P.630
   9a. 幼蟲 *9b.* 蛹

き八黑紋を列ね、後翅は白色、中室點、前緣及び內緣の兩角は暗色、外緣に沿ひ七個の黑點あり、體は灰色、中胸背は黑色、七個の黃紋あり、腹部の第三、第四及び第五節の基部は暗色、體長五分內外、開張一寸三四分。

幼蟲　頭黃褐色、兩側に黑條あり、體は綠色、側面の下方には紅褐色の小點及び小顆粒を散在し、第一節の背部兩側には各一突起を具へ、第三節の背部は少しく隆起す、第一及び第二節の背面に三角形の紫紅紋あり、硬皮板は灰白色、背面に全長を通じて不規則の紅紫帶を具へ、其兩側は黃綠にして緣取らる、氣門は黃色、褐色圈を裝ふ、二本の尾狀突起は黃綠色と紅褐色と交互し、基部には黑色の小突起あり、胸脚の末端は飴色、褐色輪あり、腹部には紅紋を裝ふ、體長一寸五六分。

經過　年二回の發生、第一回は五月、第二回は七月、蛹にて越年、翌春羽化し、葉上に產卵す、卵は黑色、幼蟲は六月に至り老熟し、暗褐色の繭を造り其內に蛹化す、長さ八九分、蛹は赤褐色、長さ六分、其の數餘り多からず、隨て其害少なし。

分布　北海道、本州。

(四) もんくろしやちほこ(しりあげけむし) Phalera flavescens Bren. (第二百五十五圖)

被害植物　苹樹、梨、櫻、楡、櫟。

特徵　成蟲　體黃白色、前翅の翅底に一個圓形の大紋あり、其內側は灰藍色、外側は黑褐色、其中央に黃線あり、又後緣より外緣角の方向に太き紋ありて殆んど外緣に相接す、此

第二百五十五圖　もんくろしやちほこ

て絲狀をなし、雄は櫛齒狀なり、胸背は球形に膨起し、腹背は黃褐色、體下は淡色なり、靜止の時は翅を以て體を捲き圓柱形をなす、體長七分五厘乃至八分。

幼蟲　黑褐色、氣門上線及び氣門下線は紫色、全體に黃白色の長軟毛を裝ひ、之は殊に體側に多し、腹面の中央に紫色線を縱走す、頭は割合に大にして黑く、黃白毛あり、體長一寸四五分、開張一寸四分乃至二寸。

經過　年一回發生し、蛹にて越年す、蛹は黑紫色、尾端に短き六刺あり、其中二刺は他より長の紋の外側は灰藍色、內側は黑褐色を呈し、此の兩者は波狀の黃褐線にて界せらる、尙此の紋の外側に白色部あり、翅の中央に三個乃至四個の波狀線あれども種類により判然せず、裏面の外緣には五個の黑紋あり、後翅は灰白色にして斑紋なし、頭は下方に向きて背面より見えず、眼は黑色にして顆粒狀の突起多し、雌の觸角は淡褐色にし

し、腹部は粗糙にして、各節の縫皺は深し、翌年七月乃至八月蛾化す、蛾は黃白色の卵子を葉裏に產下す、一蛾の產卵數二百內外、一葉にあるもの約三十にして點々附着せらる、其初めて卵子より孵化したるものは黃褐色にして殆んど裸體なり、幼時より成熟するに迄集合するを以て一方の葉のみを食ひ去り、時に枯木の觀を呈せしむることあり、常に尾端を擧ぐるを以て「しりあげけむし」の名あり、物に驚く時は糸を引きて地上に落つ、老熟すれば地中に入りて蛹化し其儘越年す、此の害蟲は時に大害を加ふることあり、札幌地方に於て九月頃加害する蛞蝓は多く之なり。

分布　北海道、本州、朝鮮、支那、滿洲。

驅除法　幼蟲は集合する性あるを以て驅除し易く、其存在は一方の葉の薄らぎあるを以て知るを得べし、冬季前樹根の近邊を攪拌し、蛹を寒暖の變遷に逢はしむべし、七八月頃葉上に靜止せる蛾を搜索して殺すべし。

(五) つまきしやちほこ　Phalera assimilis Brem. et Grey. (第三十一圖版(2))

被害植物　槲、櫟、楢、其他槲斗植物。

特徵　成蟲　體、翅、灰白色、前翅の前緣角は淡黃白色、其內側は少しく下方に突出す、半橫線及び前橫線は判然す、其外方にある細線は判然せず、但し黃白紋下にあるものは多少判然す、緣毛は黃褐色、頭は黃褐色、後頭及び前胸背は黃色、胸背は灰色、其の兩側及び後緣は褐色、腹部は黃褐色、尾端は灰白色、體長六分乃至七分、開張一寸四分乃至一寸三分。

幼蟲　黑色、八個の赤縱條を並走す、頭は大、光澤ある黑褐色、腹面に赤黃色の一條を縱走す、腹脚の內方は赤色、體長二寸五分乃至二寸七分。

經過　年二回の發生、蛹にて土中に越年、第一回の蛾は六七月、第二回は八九月頃現はる、其性前種に酷似し、常に頭尾兩端を擧げ、頭を揃へ後方に退却しつゝ葉を食害す、常に集合するの性あり。

分布　本州、朝鮮、支那、滿洲。

[附言]　此の種に酷似するもの二三種あれども、幼蟲の區別判然せざれば他日を期して記載することゝせん。

(六) くろしたしやちほこ　Phalera sigmata Butl. (第三十一圖版(3))

被害植物　楢、櫟、

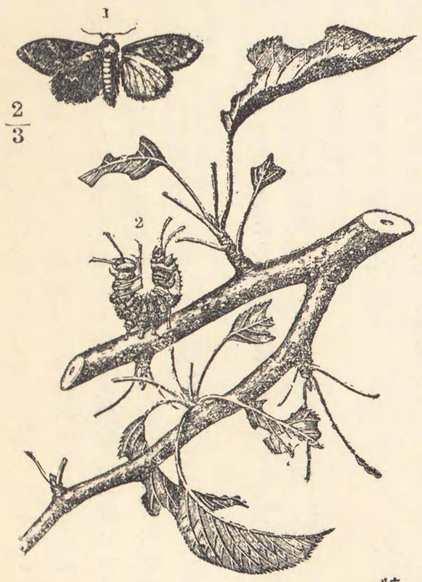
特徵　成蟲　前翅灰白色、斑紋は黑色、前緣に六大紋を具へ、前橫線及び中橫紋は餘り判然せず、但し中橫線の屈折せる處より上方は濃色、橫脈は黑色にして判然す、波狀線は三條ありて、中央の一條のみ判然せり、各外緣室にM字形の一紋ありて、外緣と相平行す、後翅は暗褐色、頭及び胸背は灰白色、腹部は暗黃色、尾端は灰白色、體下は暗黃色、體長八分乃至九分、開張一寸八分乃至二寸一分。

幼蟲　體は黑褐色、第二、第三並に尾端の二三節には暗色點ある長毛を簇生し、中央には茶褐色の短毛を叢生す、第一節の兩側より黑褐色の長毛束を出す、體長二寸內外。

經過　年二回の發生、第一回の蛾は四五月、第二回は七八月現はる、蛾にて越年、幼蟲は四五月頃より現はれ、殼斗科植物の葉を食害す、其着色は櫟の樹皮に似たるを以て見出すこと難し、九月上旬より老熟し、樹幹に粗繭を造り其內に蛹化し、其儘越年す、蛹は黑褐色、各節の接合部には赤褐色の短毛を裝ふ、長さ九分、大害なし。

分布　北海道、本州。

(七) しやちほこが　Stauropus fagi L. var. persimilis Butl. (第二百五十六圖)



第二百五十六圖　しやちほこが
(1)成蟲　(2)幼蟲

被害植物　苹、樹、梨、櫻、柳、白楊。

特徵　成蟲　前翅は暗褐色、翅底灰色、雄は中央に二條の波狀線を裝ひ、外緣に二列の褐色紋ありて、各紋の內側は白色、後翅は灰色、前緣は暗褐色、其中央に灰白紋を具へ、體は灰色、腹背に暗褐色の毛あり、體長♂六分五厘、♀八分。

幼蟲　暗色と黃色との兩種あり、頭稍々卵形、黑褐の二縱條あ

り、初めの三節は細く、之に各一双の長脚を裝ふ、但し第一節にあるものは短し、第四、第五及び第六節の背上に各二個の棘狀突起ありて後方に向ふ、第七、第八及び第九の背上には突起あれども棘狀をなさず、第十及び第十一節は甚だしく膨大し、稍々三菱形をなす、兩側に小齒を列ね、第十一節の背上に瘤狀の一突起あり、第十二節は小にして之に二個の細長き尾樣突起を出だす、常に頭尾の兩端を擧げ奇形を呈す、體長一寸八分。

經過 年一回の發生をなし、蛹にて越年す、蛹は極めて薄き白繭を被る、蛹は光澤ある黑褐色、尾端に四個の鈎狀刺あり、翌春五月乃至七月蛾化す、蛾は卵子を樹幹に一二個宛產附す、加害大ならず。

分布 北海道、本州、支那、滿洲、歐洲。

驅除法 幼蟲を捕殺すべし、其形顯著なれば發見すること容易なり、多數に發生したる場合には石油乳劑を用ふべし。

(八) ほそばしやちほこ Fentonia ocypete Brem. var. japonica Grünb. (第三十一圖版(4))

被害植物 櫟、其他槲、斗科植物。

特徵 成蟲 前翅は灰褐色、少しく紫色を帶ぶ、中脈の下方に當り翅底より第二脈の中央に向て黑色の一縱線を出す、中室及び第四室の內半は黃褐色、外緣に近く暗褐色の一弧狀線ありて、第四、第五兩室の處にて廣く彎曲す、弧狀線の外側は灰白色、外緣も亦廣く灰白色、緣毛と界する處に暗色線あり、後翅は灰黃色、中央に近く淡色の一橫線あれども判然せず、內緣角に近く暗色線を裝ふ、頭及び胸背は灰白色、腹部は灰黃色、第一節の二紋及び尾節の一縱條は暗褐色、體長七分、開張一寸五分。

幼蟲 頭は淡赤褐色、初めの三節は綠色、以下は淡褐色、第七及び第八節の兩節は甚だしく隆起し、尾端は細し、初めの三節、第六乃至第八節並に第十節乃至第十二節の背面に暗褐色の一縱條あり、體長二寸內外。

經過 年一回の發生、蛹にて越年、翌年六七月の頃羽化す、幼蟲は八九月頃より現はれ、穀斗科植物、殊に櫟の葉を嗜て食害す、九月下旬より老熟し、地中に入りて蛹化す、其數多からず、隨て大害なし。

分布 本州、滿洲、印度。

(九) ぎんしやちほこ Hoplitis milhauseri F. var. umbrosa Stgr. (第三十一圖版(5))

被害植物 栗、櫟、槲、楡、樺、白楊。

特徵 成蟲 前翅銀白色、中室外の一圓は金光ある灰黃色、外緣脈黑色、緣毛は白色と黑色の斑をなす、後緣黑色、其中央の大半は光澤ある灰黃、其外側に判然せざる白斜條あり、後翅は暗色、內緣角は黑色、其前後に白色の一紋を具へ、緣毛は白色、其基部は黑褐色、頭及び胸背は暗褐色、胸背の兩側は灰白色、腹部は灰黃色、體長六分乃至七分、開張一寸五分乃至一寸八分。

幼蟲　頭部は淡褐色、暗褐色の斑紋あり、體綠色、淡黃色、白色若くは暗色の小點を撒布す、背線は初めの三節にて黃色、第四乃至第九節並に第十一節に叉狀の一突起を出し、第四節にあるもの大、後方に至るに隨ひ其大さを減ず、其末端は黑色にして三刺あり、第四節以下の背線上に不定の淡黃色紋を具へ、之に濃色の斑紋を交ゆ、體長一寸三分內外。

經過　年二回の發生、第一回は六月、第二回は八月、蛹の有樣にて越年、翌春羽化す、蛹は暗褐色、頭部に直立せる一刺を有す、長さ七分、繭は褐色にして平たく、楕圓形を呈し、多くは樹皮の隙間にあり、其數少なきを以て大害なし。

分布　北海道、本州、支那滿洲、歐洲。

(一〇) おほとびもんしやちほこ Semidonta manleyi Leech. (第三十一圖版(6))

被害植物　櫟、楢、枹、椎、槭、あべまき。

特徵　成蟲　體翅灰褐色、前翅は灰色、中橫線暗色、後緣にて終る處に一黑紋あり、外側は灰白色線にて緣取らる、內方は翅底に至る迄褐色、第一室に二個の長楕圓輪ありて、內部は灰黃色、翅底にて判然せず、環狀紋及び腎狀紋の處は濃色、外橫線は黑色の點紋より成る、波狀線は暗色、外緣の縱脈は黑色、後翅は暗灰色、裏面には前後翅を通じて淡色の一帶あり、後胸背には暗褐色の毛塊を裝ふ、體長五分、開張一寸四分。

幼蟲　頭黑色、黃白毛を粗生す、體は黃綠色、側面及び各節の後緣は赤味を帶ぶ、背線は

太く黑色、其兩側に楕圓形の黑斑ありて、其黑斑の中には更に黃綠色の三縱紋あり、之に一二黑色の疣起ありて、之より一本の黃白毛を生す、此の楕圓紋の下方にはへ字形の黑縱條あり、氣門上に斷續せる一黑線を具へ、氣門下線には黑點を包める黃綠色の斑紋あり、氣門は黑色、其下方に小黑點を散在す、脚は黑色、基線上には七八個の黃綠色紋ありて、之れより單毛を生す、體長一寸五六分(向川勇作氏に依る)

經過　年一回の發生、卵子にて越年、翌春四月頃孵化す、五月下旬より七月上旬に亘り老熟し、地中に入りて結繭、次で蛹化す、繭は暗灰色にして薄く、相群集す、十月乃至十一月上旬羽化す、幼蟲は群生すること「つまきしやちほこ」に異ならず、蛹は赤褐色、長さ四分、卵は灰白色、半球狀、黑褐毛を以て蔽はれ、七八十粒一個處に產附せらる、多くは樹皮若くは枯葉上にあり、北海道、本州地方に稀ならず、札幌地方にありては時に槭に大害を加ふることあり、天社蛾科中最も晚く現るゝものは此種類なり。

分布　北海道、本州、朝鮮。

(一一) せぐろしやちほこ Melalopha (Pygaera) anastomosis L. (第三十一圖版(7))

被害植物　柳、白楊、やまならし。

特徵　成蟲　體翅黃褐色、前翅に灰白色の三帶ありて、內方にあるものは短く、中脈より後緣に達し、第二帶は其外側に弓狀をなし、前緣にて餘り判然せず、第三帶は中室の外方にありて稍々端直、環狀紋及び腎狀紋は暗褐色、其下方に三角形の暗褐色紋あり、外緣

の中央に赤褐色の部分ありて、其内方に暗褐色の四紋を具ふ、各紋の中央に灰色部あるを以て二紋列を有するに似たり、後翅の中央に淡色帶あり、頭前胸背及び中胸背の前緣は暗褐色、體長六分、開張一寸三分。

幼蟲　頭は褐色、中央は淡色、體と共に灰黃毛多し、體は淡褐色、背線は暗色にして太く、各節の接合部にて判然せず、第二及び第三節の兩側に各一個の疣起ありて、其中間に白色の二紋を横列す、第四節の中央に一瘤起ありて、其末端及び兩側に各二個の黑色疣起あり、第五節以下各節の背上に肉狀の二突起及び二個の白紋あれども、第二及び第三節の如く判然せず、第十一節の背上に黑色の四疣起あり、黑毛を生ず、氣門は黑色、脚は體と同色、體長一寸乃至一寸三分。

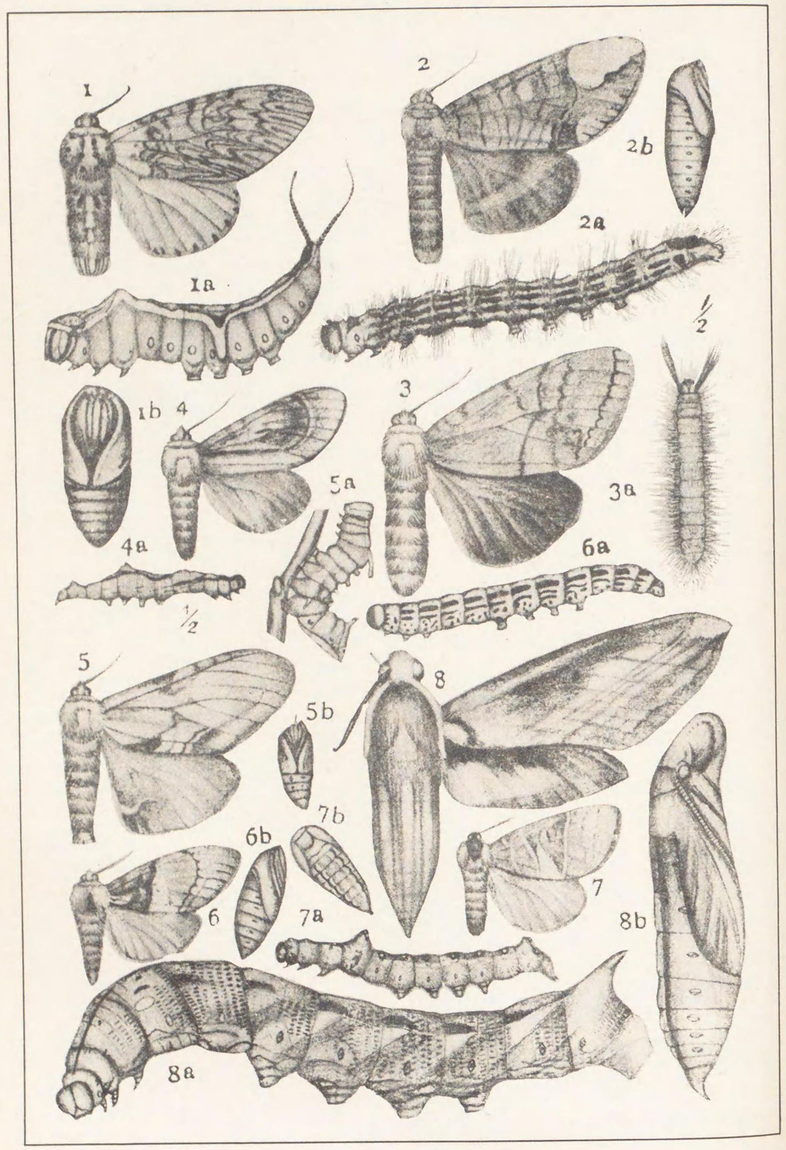
經過　年二回の發生、第一回の蛾は四月乃至六月、第二回は七月乃至八月現はる、蛹にて越年、翌春羽化し、樹幹に産卵す、幼蟲は初めは集合し、糸を以て葉を綴り其内に住すれども、後離散するに至る、老熟すれば黃白色の粗繭を造り其内に蛹化す、蛹は光澤ある暗褐色、翅鞘及び腹部は赤褐色、腹端は延長して尖る、長さ六七分、其數多からず、隨て大害なし。

分布　北海道、本州、朝鮮、支那滿洲。

(二二) つまあかしやちほこ Melalopha (Pygaera) anachoreta F. (第三十二圖版(1))

被害植物　柳、白楊、やまならし。

第參拾壹圖



第參拾壹圖

1. Dicraneura erminea Esp. おほもくめ ……P.680
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Phalera assimilis Br.m. et Grey. つまきしやちほこ……P.683
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹
3. Phalera signata Butl. くろしたしやちほこ ……P.684
   3a. 幼蟲
4. Fentonia ocypeta Brem. var. japonica Gräub ほそばしやちほこ…P.686
   4a. 幼蟲
5. Hoplitis milhauseri F. ぎんしやちほこ ……P 687
   5a. 幼蟲 *5b.* 蛹
6. Naganoea (Semidonta) manleyi Leech. おほとびもんしやちほこ…P.688
7. Melalopha (Pygaera) an stomosis L. せぐろしやちほこ ……P.689
   7a. 幼蟲 *7b.* 蛹
8. Theretra nessus Drury. きいろすゞめ……P.709
   8a. 幼蟲 *8.* 蛹

特徴 成蟲 體翅灰色、前翅に灰白色の四條を斜走し、何れも其外側は濃色、第三條は短小にして甚だしく傾斜し、第四條は翅底に向て斜走す、翅端は灰褐色、大なる三角紋をなし、其中央は赤黄色、其下方に暗褐色の一紋あり、後翅は灰色、中央に判然せざる濃色の一帶あり、頭並に胸背の縱條は黑褐色、體長五分、開張一寸二分内外。

幼蟲 體は灰褐色、灰黄毛多し、背線及び斷續せる亞背線は灰黑、第四節の背面は全部黑色、濃褐色の瘤起を具へ、同色毛を簇生す、第十一節の背部に黑紋を具へ、其紋中に濃褐色の二疣起あり、亞背線上に淡黄褐色の疣起を具へ、氣門上下にも疣起を裝ひ、氣門は黑圈を有す、疣起より灰黄毛を簇生し、第四節の兩側に白斑あり、腹面は灰綠色、胸脚は暗褐色、體長九分乃至一寸。

經過 同前、前種同樣に東京地方にては二回の發生なるが、北海道にては一回、九州にては三回の發生なるが如し、大害なし。

分布 北海道、本州、支那、滿洲、歐洲。

尙此科に屬し本邦に產すれども重要ならざるものは左の十四種なり。

(一三) うすなかぐろもくめ Cerura bicuspis Bkh var. japonica Grünb.

被害植物 樺、白楊、赤楊。

分布 本州。

(一四) ねぐろしやちほこ Aropyia meticulodina Oberth.

被害植物　胡桃。
分布　北海道·本州·滿洲。

(一五) くろすぢしやちほこ Locophocosma atriplaga Stgr.
被害植物　白楊榛。
分布　北海道·本州·滿洲。

(一六) みつぼししやちほこ Drymonia trimacula Esp.
被害植物　槲。
分布　本州·滿洲。

(一七) とびもんしやちほこ Drymonia chaonia Hb.
被害植物　槲。
分布　本州·歐洲。

(一八) とびまだらしやちほこ Notodonta tritophus Esp.
被害植物　樺·白楊。

(一九) もくめしやちほこ Spatala plusiotis Oberth.
被害植物　槲。
分布　本州·朝鮮·滿洲。

(二〇) ねぼしぎんしやちほこ Spatala dives Oberth.

被害植物　槲。
分布　本州。

(二一) もんきしろしやちほこ Leucodonta bicoloria Schiff.
被害植物　樺。
分布　本州·朝鮮·滿洲·

(二二) えぐりしやちほこ Lophopteryx cameina L.
被害植物　樺·田麻。
分布　北海道·本州·滿洲·歐洲。

(二三) くはごもどき Gonoclostera timonides Brem.
被害植物　白楊·柳。
分布　北海道·本州·滿洲·支那。

(二四) おほえぐりしやちほこ Pterostoma sinicum Moor.
被害植物　白楊
分布　北海道·本州·支那·滿洲。

(二五) つまあかしやちほこもどき Melalopha curtuloides Ersch.
被害植物　白楊
分布　北海道·本州·西比利亞。

(二六) **せだかしやちほこ** Nadata cristata Butl.

被害植物 楡。

分布 北海道本州支那滿洲。

天蛾科 Sphingidae

一、めんがたすゞめ亞科 Acherontiinae

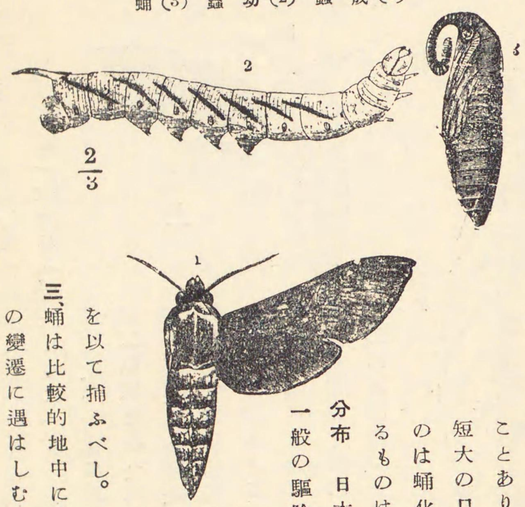
(一) えびがらすゞめ Herse (Proctoparce) convolvuli L. (第二百五十七圖)

被害植物 甘藷朝顔旋花。

特徴 成蟲 前翅は灰褐色黑色及び灰色の紋條を裝ふ中央に灰色の腎狀紋を具へ其中央は暗色少しく外緣に近く犬牙狀をなせる黑色の波狀線を裝ひ其內側は灰色後翅は暗灰色黑色の四橫線あり翅底に近きものは短く第二線と鋭角をなす他の三線は略々相平行す腹背に黑白赤毛の三縱列あり體長一寸七分開張三寸三分。

幼蟲 二形ありて第一形は綠色背線は濃色時に判然せざるものあり第四乃至第十一節の兩側に黃白の斜條を具へ其上方は藍色にて緣取らる氣門は黑色尾角は黃褐色末端黑色第二形は褐色黑點を散在す背線は黑褐色第四乃至第十一節の兩側に黑褐色の斜條を具へ氣門下線は淡紅色體長三寸。

第二百五十七圖 えびがらすゞめ
(1)成蟲 (2)幼蟲 (3)蛹



經過 年一回の發生蛹にて越年卵子にて越年することあり蛹は光澤ある褐色腹部は暗褐色頭端に短大の口吻鞘ありて二重に彎曲す秋季出づるものは蛹化後大凡四週間にて蛾化す蛹にて越年するものは翌年五六月頃蛾化す大害なし。

分布 日本全土臺灣朝鮮支那印度歐洲亞弗利加。

一般の驅除豫防法

一、蛾の發生する時期を見計らひ燈火を以て誘殺すべし殊にアーク燈に來るもの多し。

二、花圃を作り其花に集來するものを網を以て捕ふべし。

三、蛹は比較的地中に淺く存するものなれば淺く鋤起して寒暖の變遷に遇はしむべし又落葉の多き場合には地中に入らずして其下に蛹化するものなれば落葉も可成集めて燒棄すべし。

四、幼蟲は少しく動搖すれば落下するを以て捕ふべし大形なれば注意すれば發見すること難からず大木にありては豫め其下の雜草を取り除き若くは筵を敷き置き、

後落下せしむべし。

(二) めんがたすゞめ Acherontia styx West. (第二百五十八圖)

被害植物 胡麻,馬鈴薯,茄子。

特徴 成蟲 前翅は天鵞絨樣の黑色若くは褐色,白色及び黄色の鱗毛を散在す,翅の中央に灰色の一紋を具へ,其上に更に小紋を有するものあり,濃色の横線あれども餘り判然せず,只外緣に近く波狀線を認め得べし,後翅は濃黄色,黑色の二縱線を具へ,胸背に骸骨に似たる斑紋あるを以て「がいこつすゞめ」とも云ふ,腹部は灰色,各節に黑帶を具へ,背線は黑毛,體長一寸六分,開張三寸乃至三寸五分。

幼蟲 二形ありて,第一形は綠色若くは黄綠色,第四乃至第一節の兩側に黄色の斜條ありて,上方は藍色にて緣取らるゝ藍色點を散在す,氣門は黑色,黄色圈あり,尾角は黄色,綠點あり,第二形は暗褐色,少しく紫色を混じ,灰色紋を散在す,第二及び第三節の背上に多數の黑條を具へ,第一節に黑點あり側線は灰色,灰黄色の細點を撒布す,體長三寸五分乃至四寸。

第二百五十八圖 めんがたすゞめ
(1) 成蟲 (2) 幼蟲

經過 年一回の發生,蛹にて越年するものと,卵子にて越年するものとあり,蛹は黑褐色,口吻鞘は大なり,氣門は黑色,地中に土窩を造り其内にあり,蛾は普通九,十月頃出づれども又五,六月頃出づるものあり,卵子は一粒づゝ葉裏に產下せらる,幼蟲は六月下旬より九月迄食害す,幼蟲,蛹,成蟲の何れを問はず一種固有の音を發するものにして,成蟲は口吻を觸角に摩擦して鼠の如き音を發し,幼蟲は大腮の摩擦によりて電花の如き音を出すものならん,又蛹は其被鞘を破るとき發音するものゝ如し。

分布 本州,四國,九州,沖繩,支那,臺灣,朝鮮,比利賓,島印度。

(三) しもふりすゞめ Psilogramma menophron Cram. var. increta Wk. (第三十二圖版(4))

被害植物 桐,水蠟樹,ひゝらぎ,くさぎ。

特徴 成蟲 體,翅灰色,白毛を混じ,胸背の兩側に黑條を縱走す,前翅の中央に黑色の二線を縱走し,其外側に判然せざる黑色の波狀線を具へ,前緣角に大なる稍々半月形に近き黑紋を裝ふ,後翅は暗黑褐色の三條を縱走し,兩側にあるものは基部にて判然せず,體下は灰白色,體長一寸三分乃至一寸七分,開張三寸二分乃至四寸。

幼蟲 二形ありて,第一形は淡綠色,第一乃至第三節に白紋を散在し,第四乃至第十一節の兩側に白色の斜條ありて,上方は紫色にて緣取らる,第十一節の兩側に褐色紋を具へ,氣門は黑色,灰白色紋を有す,尾角は淡褐色,白紋あり,第二形は濃綠色,褐色の小線多し,白色の斜條は上方にて褐色を以て緣取らる,體長三寸。

經過 年二回の發生をなす、第一回の蛾は五、六月、第二回は七、八月現はる、幼蟲は葉裏にありて食害すれども、其數少なきを以て大害を加へず。

分布 北海道、四國、九州、沖繩、支那、印度。

(四) くろすゞめ Sphinx (Hyloicus) caligineus Butl. (第三十二圖版(2))

被害植物 松、椴、蝦夷松。

特徴 成蟲 體翅灰褐色、前翅の中室、第二及び第三室の縱紋は黑色、前緣に暗色の二紋を裝ひ、翅端に黑條ありて前緣角を二分す、緣毛は黑色と白色との斑をなす、後翅は黑褐色、腹背に一濃色條あり、體長一寸乃至一寸三分、開張二寸乃至二寸七分。

幼蟲 初めは黃綠色、頭、脚及び尾角は褐色、成長するに從ひ後頭は淡褐色となり、兩側に白色の縱條を具へ、體は綠色、白色の縱線を裝ひ、背線は赤色を帶ぶ、體長二寸乃至二寸三分。

經過 年二回の發生、蛹にて越年、蛹は落葉下若くは地中にあり、第一回は六月、第二回は七月、幼蟲は六月下旬より現はれ、九月頃迄葉を食害す、本邦にありては未だ大害を加へたることなし、蛹は黑褐色、尾端に細尖なる一突起あり、長さ一寸三分、卵は綠色にして光澤を帶び葉上に產附せらる。

分布 北海道、本州。

(五) ささなみすゞめ Dolbina tancrei Stgr. (第三十三圖版(1))

被害植物 水蠟樹、柊、ねづみもち。

特徴 成蟲 體翅灰色、綠色を帶ぶ、前翅底の三分の一の處に黑色の四波狀線あれども、內側にあるものは判然せず、中室にある白紋の周圍は黑褐色、其外側に犬牙狀をなせる四黑帶ありて、其外側にあるものは淡色、更に其外側にあるものは灰白にして判然す、外緣の脈上に各褐色の一紋を具へ、其中間の緣毛は白色、後翅は黑褐色、內緣角は少しく淡色、胸背に暗色の四條を縱走す、腹背に暗色の三縱條ありて、兩側にあるものは點線より成る、體長八分乃至一寸、開張一寸八分乃至二寸二分。

幼蟲 綠色、白斑を散在す、下方は少しく紫色を帶ぶ、第三乃至第十一節の兩側に白色の斜條ありて、第五乃至第十一節に紫褐色紋あり、氣門は白色、其兩側は黑色、尾角は淡綠、末端は紅色、黑點を散在す、體長二寸三分。

經過 年二回の發生、第一回は四、五月、第二回は七、八月、葉裏にありて食害すれども其數少なく、大害を加へたるを聞かず。

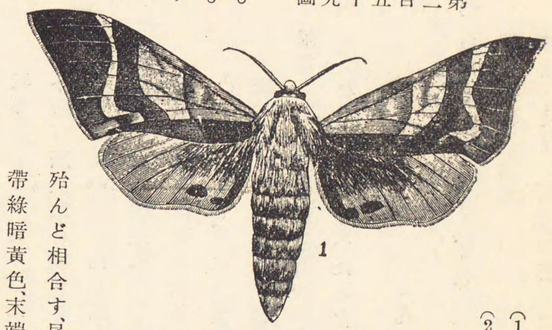
二、うんもんすゞめ亞科 Ambulicinae

(六) ももすゞめ Marumba (Smerinthus) gaschkewitschii Brem. et Grey. (第二百五十九圖)

被害植物 桃、櫻。

特徴 成蟲 前翅暗褐又は赤褐色、黑褐色の斑紋及び橫線あり、翅底に短き半橫線を具へ、

第二百五十九圖　ももすゞめ



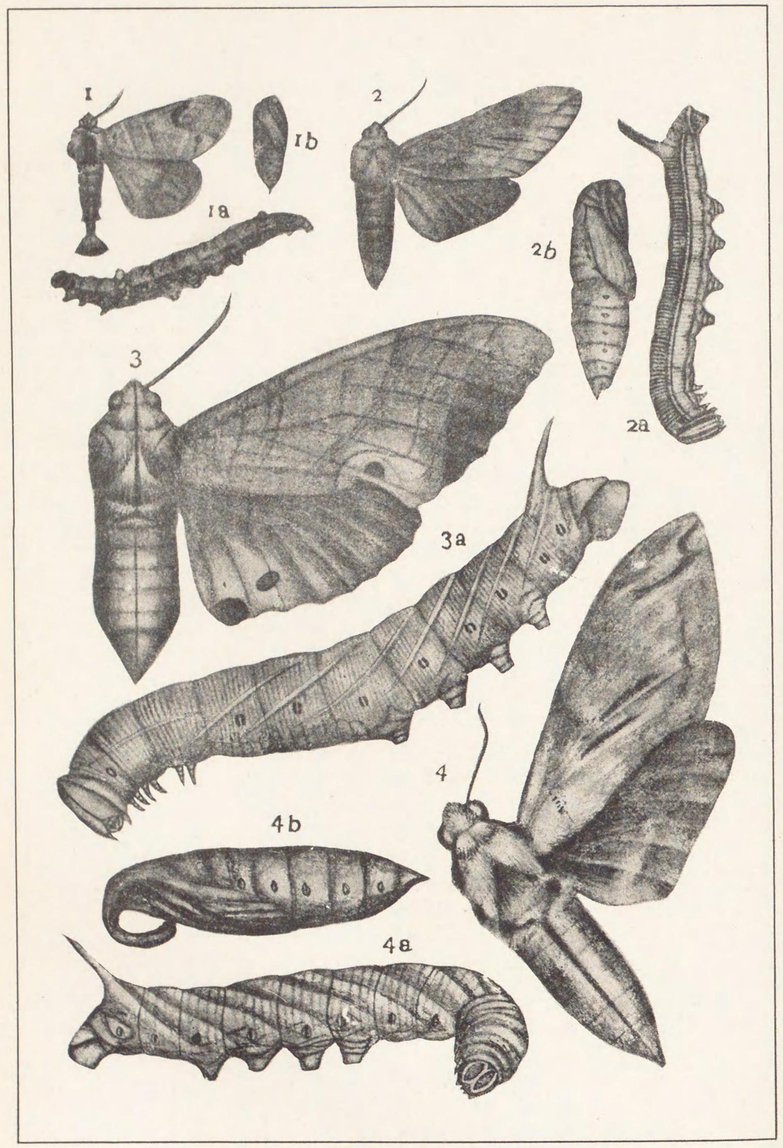
(1)成蟲
(2)幼蟲

其次に三條の横線ありて、各内緣に於て殆んど相合し、其合する處は濃色なり、翅の中央に弦月形の一紋を具へ、其外側に太き横線を裝ひ、其外側は鋭角をなし突出す、外緣及び中央の大半は黑褐色、其内側に横線を有するものあり、内緣は黑褐色なれども少しく藍色を帶び、後緣角に近く楕圓紋あり、後翅桃赤色、外緣は暗褐色、内緣角に二個若くは相合せる暗褐紋あり、頭及び體は前翅と同色、胸部の兩側毛は少しく藍色を帶ぶ、體長一寸乃至一寸二分、開張二寸五分乃至三寸。

幼蟲　綠色、前種同樣に白色の顆粒を散在し、兩側に七個の斜走せる疣紋列を具へ、各節の背上にて殆んど相合す、尾角は長くして約三分五厘あり、氣門白色、黑緣を具へ、胸脚は帶綠暗黃色、末端は褐色、腹部及び尾脚の兩側は赤褐色を帶ぶ、頭綠色、白條を裝ふ、體長二寸七八分。

經過　年一回の發生をなし、蛹にて越年す、翌春五、六月頃蛾化す、蛹は黑褐色、初めの三腹節に小孔を散在し、他節には縮紋多し、尾節には粗糙面を有する突起を具へ第八腹節に

第參拾貳圖



第參拾貳圖

1. Melalopha (Pygaera) anachoreta F. つまあかしやちほこ……P.690
   1a. 幼蟲 *1d.* 蛹
2. Sphinx caligineus Butl. くろすゞめ……P. 98
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹
3. Melapha Marumba sperchius Men. くちばすゞめ……P.701
   3a 幼蟲
4. Psilogramma menephron Cram. しもふりすゞめ……P.697
   4a 幼蟲 *4b,* 蛹

尾角樣の短突起を有す、夜間燈火を慕ひて家屋に飛來し、又糖液に集來す。

(七) くちばすゞめ Marumba sperchius Men. (第三十二圖版(3))

被害植物 櫧椎・栗。

特徴 成蟲 淡褐色、頭及び胸腹背に褐色の一縱條あり、後翅に九條の褐色帶ありて、第四及び第五帶並に第六及び第七帶は相近接す、第一脈の末端に近く褐色の一圓紋を具へ、外方の一圓は灰色、後翅は褐色、內緣は淡色にして、之に褐色の二紋あり、體長一寸二分乃至一寸六分、開張三寸二分乃至四寸二分。

幼蟲 黃綠色、微小の白點を密布し、腹面には赤褐色の細點を散布す、第四節より第十一節に亘り側面に七個の黃色條を斜走し、此斜面には一列に赤點を並列し、第一節より第三節の側部に淡黃色の縱線を裝ふ、頭は三角形にして青綠色、白斑を散在す、氣門は赤色、白圈を裝ふ、胸脚は赤色、尾角は淡綠色、白色の顆粒を密布す、體長三寸內外。

經過 年二回の發生、蛹にて越年、第一回の蛾は六月、第二回は八月頃現はる、幼蟲は六月より十月に亘りて食害す、老熟すれば地中に入りて蛹化す、蛹は暗褐色、尾端に一短刺あり、長さ一寸八分、大害なし。

分布 北海道・本州・四國・九州・沖繩・印度。

(八) おほしもふりすゞめ Langia zenzeroides Moor. var. nawai Rothsch. (第三十三圖版(2))

被害植物 梅・杏。

特徴 成蟲 前翅灰白色、前緣は廣く灰色、稍々藍色を帶ぶ、中室の部分少しく暗黑色、其外側に一黑紋を具へ、黑色の四斜條ありて、一は翅の中央を斜走し、次線は淡色、外緣にある二條は下方にて判然す、此等は前緣角にて合して一線となる、後緣の中央に灰色の大紋を具へ、全面に黑鱗毛を散在す、外緣は外緣角に近付に隨ひ深き弦月形の凹所を具へ、其部分黑色、後翅は灰黑色、外緣は白色、之に沿ひ弦月形の五黑紋あり、內緣角に近く黑横紋を裝ひ、其下方に二條の白横線あり、頭及び胸背は灰藍色、後者の兩側に各一條の太き黑線を縱走し、其周圍は灰白色、中央に黃白色の四縱條を具へ、中央に暗黑色の太き一條を縱走す、尾節は灰藍色、三條の白線を縱走す、體長一寸五分、開張五寸五分。

幼蟲 綠色、黃白色の斑紋を散在す、亞背線は黃白色、顆粒を並列し、尾角に達す、頭は割合に小、三角形に近く、尾角は短小、黃褐色にして顆粒を裝ふ、體長四寸五分。

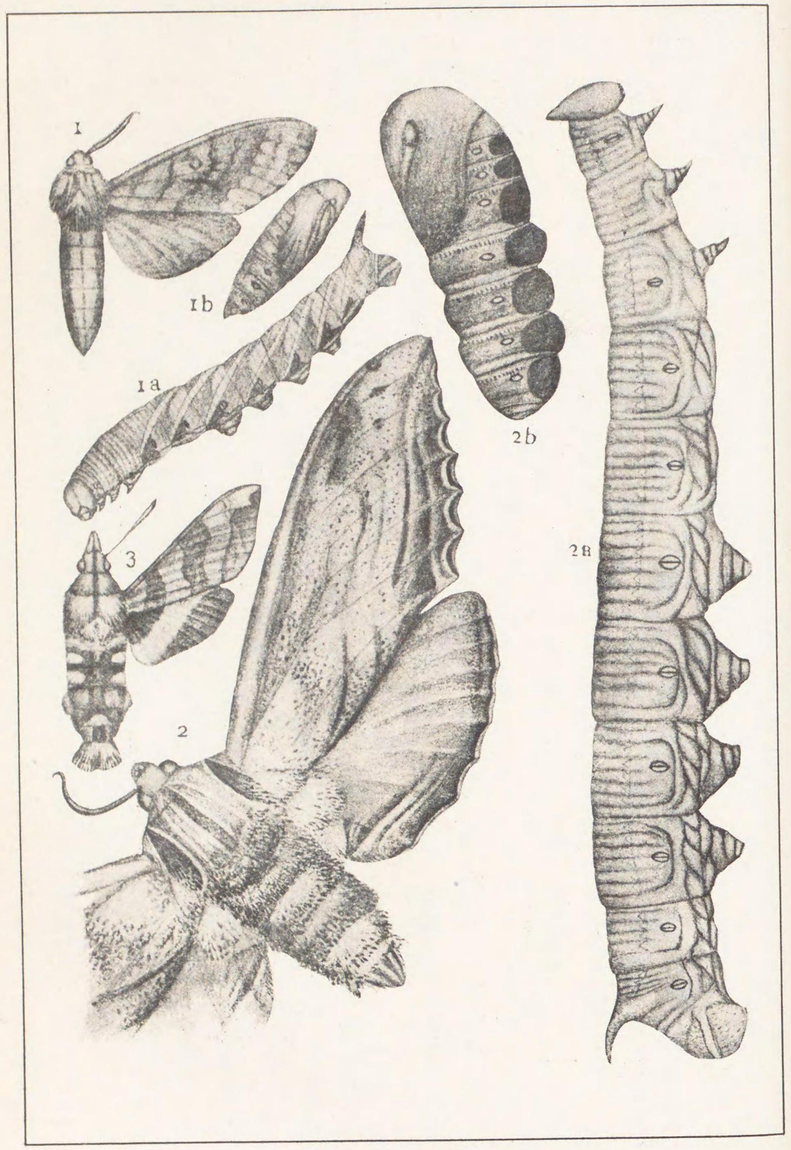
經過 年二回の發生、蛹にて越年、翌春四五月頃より現はれ、梅及び杏の葉を食害す、其體の大なる丈大害を加ふることあり、蛹は黑褐色、腹の環節間は甚だしく膨脹し、背部は黑色を呈す、長さ一寸七八分、第二回の蛾は八、九月頃現はる、本邦最大の天蛾にして幼蟲は「めんがたすゞめ」の如く一種の音を發す。

分布 本州、九州、印度。

(九) ぎんぼしすゞめ Parum colligata Wk. (第三十四圖版(1))

被害植物 楮、構。

第參拾參圖



第參拾參圖

1. Dolbina tancr.i Stgr. さゝなみすゞめ……P.698
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2 Langia zenzeroides Moor. おほしちふりすゞめ……P.701
   var. nawae R.et J.
   2a. 幼蟲 *2b.* 蛹
3. Macroglossa saga Butl. くろほうじやく……P.716

特徴 成蟲 翅は綠褐色、前翅底に三角形の灰白色紋ありて廣底を前緣に有す、略々三分の一の處に灰白色の一横帶ありて、其中央に判然せざる淡褐色の一線を並走す、又其外緣には灰白色の判然せる一横帶ありて、帶の境界を顯著ならしむ、中脈上に褐色の縱條ありて、其中央に銀色の一紋を裝ふ、外緣に略々半月形の灰白色紋ありて、其内緣は白色、第六及び第七室に黑紋ありて、第七室にあるものは弦月形をなし、其内側は白色、尙前緣の三分の二の處に褐色の一紋ありて、其兩側は淡色、後翅の内緣角に近く黑褐色の太き横紋ありて其前後の兩側は白色、體は灰色、胸背の兩側にある毛塊は褐色、體長一寸、開張一寸三分乃至一寸七分。

幼蟲 綠色、各節の横皺に黃色の小顆粒を並列す、背線は紫褐色、後方にて判然す、第四乃至第十一節に七個の黃斜條あり、頭は淡青綠色、兩側に各二白條あり、氣門は淡青色、腹面に黑褐色の細點を散在し、尾角は綠色、黃色の顆粒を裝ふ、體長二寸餘。

經過 本州にては年一回の發生、臺灣にては兩三回の發生、蛹にて越年、蛹は黑褐色、頭部に顆粒を裝ひ、尾端の突起にも顆粒を散在す、六月乃至七月に至りて羽化す、幼蟲期は八月より九月に亘る、其數少なく、從て大害なし。

分布 北海道、本州、九州、臺灣、支那、印度。

(一〇) うんもんすゞめ Callambulyx tatarinovii Brem. et Grey. (第三十四圖版②)

被害植物 櫟。

特徴 成蟲 體翅灰色、頭、胸背の三角紋、後胸背の圓紋並に腹背線は暗綠色、前翅の中央に大なる暗綠色の雲紋を裝ひ、其中央は淡色、翅底に近く濃色の一帶を具へ、翅端に同色の三角紋あり、尙其直下に一紋、其內側に一橫線あれども判然せざることあり、後緣は黑藍色、其直上に暗綠色の一縱紋あり、後翅は紅色、外緣は灰白色、內緣角は暗色、之より灰白色の橫紋を並列す、體長一寸、開張二寸二分乃至二寸九分。

幼蟲 鮮綠色、頭部に小白紋を散在し、各節の橫皺にも亦白點を並列す、第三節より第十一節に亘りて七個の白斜條を具へ、其兩側には白線を具へ、尾角は赤褐色、白色の顆粒多し、體長二寸五分。

經過 年一回の發生、蛹にて越年、蛹は濃褐色、尾端尖り、長さ一寸二三分、五月乃至七月に亘りて成蟲現はる、幼蟲は五月より八月に亘りて櫸の葉を食害す、大害なし。

分布 北海道、本州、支那、滿洲。

(一一) うちすゞめ Smerinthus planus Wlk. (第二百六十圖)

被害植物 苹樹、櫻、柳、白楊。

特徴 成蟲 體翅は暗色、綠色を帶ぶるものと褐色を帶ぶるものとの二樣あり、翅底及び前緣は灰色、內緣に濃色の二大紋を具へ、翅の中央は濃色、之に弦月形の灰色紋を具へ、其外側に濃色の二黃帶を裝ひ、外緣に同色の雲狀紋あり、後翅の中央は桃赤色、黑輪を有する大形の眼狀紋ありて藍色を呈し、其中央は暗黑色、觸角は黃色、頭及び前胸は灰

第二百六十圖 うちすゞめ

(1) 成蟲
(2) 幼蟲

褐色、中後の兩胸背及び腹背は綠褐色、體長一寸二分乃至一寸五分、開張三寸乃至三寸五分。

幼蟲 綠色、全面に白色の小顆粒突起を散在し、兩側にあるものは他のものより大なり、第四節より第十一節に至る迄氣門上に斜條ありて白色若くは黃色を呈す、尾角は綠色、體同樣に顆粒突起多し、頭青綠色、顏に二個の黃線あり、氣門は白色、赤色の周緣を具へ、胸脚及び體に赤紋を有す、體長二寸五分。

經過 年一回の發生をなし、蛹にて越年す、蛾は翌春六七月の頃に發生し、食樹の葉裏に一個宛產卵す、綠色にして光澤あり、一雌の產數約六百餘、幼蟲は九月上旬より九月下旬迄加害す、老熟すれば地上に下り地中に入りて蛹化す、蛹は黑褐色、蛾は夏日室內に入り來るもの多きを以て俗に「うちすゞめ」と云ふ、其性好んで燈火に飛來し又糖液に集まる。

三、おほすかしば亞科 Sesiinae

(一二) おほすかしば Cephonodes hylas L. (第三十四圖版(4))

被害植物 梔子。

特徵 成蟲 體は綠黃色、腹部の中央に黑色の太き一帶を具へ、更に其中央に赤褐色の一帶あり、尾端の掃狀毛は黑色、基部は綠黃色、翅は透明、前緣及び外緣は細く黑色、翅底に綠黃毛を密生す、體長一寸、開張一寸八分。

幼蟲 綠色、背線は綠白色にして廣く、綠青色の線によりて分たる、亞背線は白色、氣門は赤橙色、其上下に白紋を具へ、第一節及び第十一節の後部には黃色の顆粒多し、第十二節は褐色、黃白の顆粒多し、各節の亞背線下には一黑點を具へ、第一節のもの最も大なり、尾角に黑色の顆粒多く、末端は黑色、胸脚は暗赤色、基部は黑色、腹脚は灰紫色、體長二寸二三分。

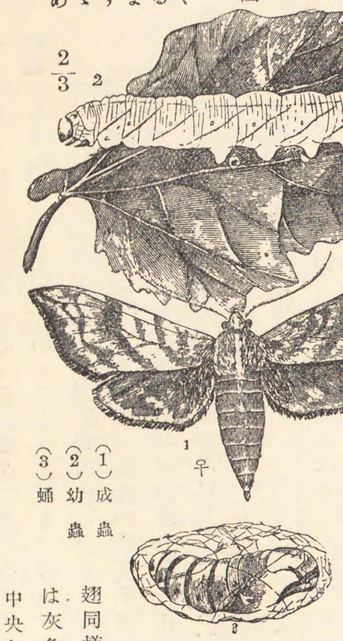
經過 本州にては年二回の發生、蛹にて越年、蛹は暗褐色、紡錘狀、尾端に短刺あり、長さ一寸二三分、幼蟲は蛹化前に至れば褐色を帶ぶ、卵は綠黃色にして一個づゝ葉端に產附せらる、第一回の蛾は六月頃、第二回は八九月、臺灣にては三回以上の發生なるべし、幼蟲は六月より九月に亘りて梔子の葉を食害す、大害なし。

分布 本州、四國、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

四、くるますずめ亞科 Philampelinae

(一三) くるますずめ Ampelophaga rubiginosa Brem. et Grey. (第二百六十一圖)

第二百六十一圖 くるますずめ



(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 蛹

被害植物 葡萄。

特徵 成蟲 前翅褐色、少しく紫色を混じ、濃色の四帶あり、其中、半横線は甚だしく判然せず、第三の横帶は廣く、雄にては第二帶と相近接す、前緣角に近く大なる濃色紋を裝ひ、雌にては此紋第四の横帶と相近接す、尙外緣の中央に長楕圓形の一濃色紋あり、後翅暗黑色、外緣は紫褐色、前翅同樣に緣毛は光澤ある黃褐色、觸角は灰色、前胸の兩線及び胸腹兩背上の中央を通じて灰色の一縱線あり、頭及び胸部は濃褐色、體長一寸三分、開張二寸三分乃至三寸。

幼蟲 綠色、腹面に綾樣の赤褐紋を具へ、背線、亞背線及び氣門間の斜線は赤褐色、頭及

び第一節の硬皮板は割合に小にして黃綠色を帶び、各節に七個の橫皺を裝ひ、第三及び第四節の兩側は著しく膨大し、尾角は少しく弓狀をなし、其末端は赤褐色、胸脚は灰褐色、基部の外側は光澤ある黑色、體長二寸七分。

經過 年一回の發生をなし、蛹にて越年す、翌春七月頃蛾化し、卵子を一二個宛葉裏に產下す、卵は黃綠色にして稍々卵形、孵化前には少しく赤味を帶ぶ、孵化したる當時は長き黑色の尾角を有すれども、成長するに從ひ其長さ體に準じ、且固有色を呈するに至る老熟すれば地上に落ち落葉を纏めて薄繭を造り、其內に蛹化す、蛹は灰褐色、黑色の氣門を具へ、翅鞘に黑點の縱列あり、幼蟲は葡萄の新芽を喰ひ、時に花梗を切りて大害を加ふることあり。

分布 北海道・本州・滿洲・印度。

(一四) ぶだうすゞめ Acosmeryx castanea Rothsch.

被害植物 葡萄。

特徵 成蟲 體翅は灰色にして紫色を帶ぶ、前翅に黑褐色の九線を橫走し、中央に近く黑褐色の大斜線ありて、之れより後緣に向ひ三條の波狀線を出す、第七室に細き三角形の黑紋を具へ、中室の外側に黑褐色の環紋ありて、其中央は灰色、外緣は暗褐色、其內側に判然せる灰色の橫線を裝ふ、後翅は暗褐色、濃色の二帶を具へ、外緣は濃色、前、中、後の三胸背に暗色の橫線を裝ふ、尙腹節にも各一個同色の斜線を有し、體下及び翅下に黃

褐色の部分あり、體長雌雄一寸四分乃至一寸六分、開張二寸二分乃至二寸四分。

幼蟲 綠色、淡黃色の小斑を密布す、亞背線及び側斜線は淡黃、第三節より第四節に亘り新月形の隆起を裝ふ、氣門は紫褐色、尾角は淡黃褐色、體長二寸七八分。

經過 年二回の發生をなす、第一回の蛾は五月、第二回の蛾は八月頃現はる、蛾の有樣にて地中に越年す、其性前種に酷似す。

分布 本州・四國・九州。

五、こすゞめ亞科 Chaerocampinae

(一五) きいろすゞめ Theretra nessus Drury (第三十一圖版(8))

被害植物 やまのいも・里芋。

特徵 成蟲 體翅黃褐色、胸側は灰白色、前翅底の前方は暗綠色、後方に黑色及び白色部あり、中室に一黑點を具へ、外緣には五條の斜帶を裝ひ、最も外方にあるものは波狀をなす、前緣角は尖り、灰黃色、後翅は黑色、內緣角に廣き黃色部あり、體長一寸五分、開張三寸五分。

幼蟲 初めは頭綠色、體は綠白色、背線(二條)及び亞背線は白色にして、後者は尾角に達す、第四節より第十一節に亘り兩側に綠色と白色とを相半せる七斜條あり、第四及び第五節の兩側に白紋を具へ、尾角は黃褐色、弓狀に曲る、氣門は赤褐色、胸脚は黃褐色、老

熟すれば褐色となり、背線は黑色となり、亞背線は黑色の點線と成り、第四及び第五節の白紋は赤褐色となり、側斜條は暗褐色となる。體長三寸餘、尙褐色にして背線及び亞背線の黑褐色なるものあり。

經過 年三回の發生、蛹にて地中に越年す、第一回の蛾は六月、第二回の蛾は九月頃現はる、幼蟲は七月乃至十月に亘りて食害す、卵は暗灰色、食草に一個宛產附せらる。

分布 本州・四國・九州・沖繩・臺灣・支那・印度。

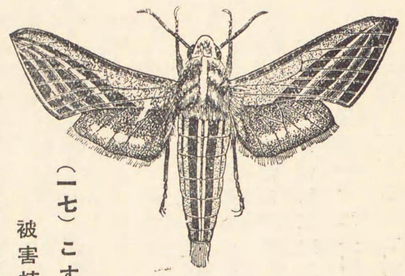
(一六) せすぢすゞめ Theretra (Chaerocompa) oldenlandiae F. (第二百六十二圖)

被害植物 青芋からすびしやく。

特徵 成蟲 前翅灰褐色、少しく綠色を帶び、後緣の中央より前緣角に達する灰白條を斜走す、其內側に太き黑褐條を具へ、其線の中央に更に濃色の細線あり、又外側に黑色の稍々細き線ありて、更に其外側に灰白色の斑紋あり、翅の中央に黑色の圓紋を具へ、內緣には銀白色の緣毛あり、後翅は小にして暗色、中央に灰黃色の部分あり、腹背に二條の銀白紋を縱走す、體長一寸三分、開張二寸五分。

幼蟲 綠褐色、稀に紫色を混ずるものあり、第六節より尾角に達する暗色の亞背線を縱走し、第三及び第四節に至る暗色の背線は判然す、體側は淡色、氣門の下方に暗色の七斜條を裝ひ、亞背線に沿ひ黃色及び白色紋を列ぬ、其中初めの三節に跨り兩側にある紋は小にして九個內外あり、第四節より第十節迄は各兩側に一個を裝ひ、第四及び

第二百六十二圖 せすぢすゞめ



第五節にある眼狀紋は黃色と青色とを混じ、第六節以下第十節に至る迄の眼狀紋は赤色、青色及び黃色を混じ、各節の接合部に黃色の橫帶あり、氣門下線は白色、觸角及び額片は黃色、尾角は黑色、末端は白色、顆粒狀の小突起多し、體長二寸八分。

經過 年一回の發生、蛹にて越年す、蛹は黑褐色、灰黃色を混ず、形小にして弓狀に曲る、翌春六七月の頃蛾化す、蛾は葉裏に一粒宛產卵す、九月下旬乃至十月上旬地中に入りて蛹化す。

分布 北海道・本州・四國・九州・朝鮮・支那・滿洲・印度。

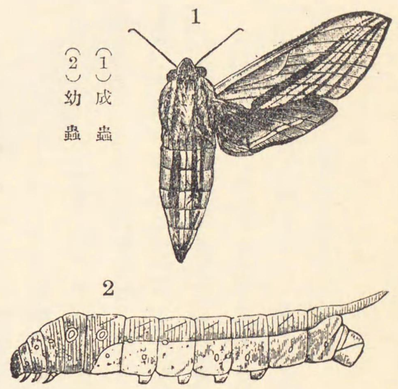
(一七) こすゞめ Theretra japonica Boisd. (第二百六十三圖)

被害植物 葡萄。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども、腹背に銀色の縱線なきを以て容易に區別することを得べし、前翅は灰褐色、綠色を混ず、翅の中央には一個の黑紋を具へ、內緣よりは一個の太き綠褐色條を前緣角の方向に斜走し、其內側に數列相平行せる灰色及び綠褐色の斜條を裝ふ、內緣は少しく紫色を混じ白毛あり、後翅は黑色、內緣角及び中央部は灰黃色、腹背の中央に四個の灰黃色線を縱走し、兩側に金色毛あり、體長一寸二分開張二寸二分。

幼蟲 綠褐色若くは暗褐色、時に赤褐色を呈することあり、斑紋は前種に酷似すれど

第二百六十三圖　こすゞめ



(1)成蟲
(2)幼蟲

太き縱條を具へ、之は兩端にて細まる、其外緣に灰白色の一線を具へ、中室に黑褐色の一點あれども、雄にては其判然せざるものあり、外緣に近く三條の判然せざる濃色線を出だし、之は翅端にて相合す、後翅は灰黑色、前緣及び中央の太き橫帶は淡色、頭及び胸背の兩側は灰白色、中胸の背上に二黃條を縱走し、背線は白色にして一本なり、體長一寸乃至一寸二分、開張一寸七分乃至二寸一分。

幼蟲　二形ありて第一形は暗褐色、淡褐色紋を散在す、背線及び亞背線は黑褐色、第四も初めの三節に於ける亞背線の小紋は其數少なく、僅かに二三個に過ぎず、又第七節に於ける兩側の黃色紋は二個にして互に相接す、體長二寸五分。

經過　前種と同樣にして、蛹にて越年するものと卵子にて越年するものとあり、九月乃至十月に蛾化したるものは卵子にて越年す。

分布　北海道・本州・四國・九州・支那・印度・比利賓島。

(一八) いっぽんせすぢすゞめ　Thieretra sihetensis Wk.

被害植物　里芋。

特徵　成蟲　體翅灰褐色、前翅の中央に黑褐色の

乃至第十一節の兩側に黃色の眼狀紋ありて、中點及び周圍は黑色、氣門上下線は灰白、氣門線は暗色、尾角は黃色、末端は黑色、體長二寸八分內外、第二形は綠色にして斑紋は第一形に異ならず。

經過　年一、二回の發生、九州にては一回の發生ならんか、七月より八月に亘りて成蟲現はる、蛹にて越年、蛹は灰褐色、黑褐色の短線及び小點を散在す、前頭部は楔狀をなし、尾端に鈎刺あり、卵は短卵形、食草の葉裏に一個宛產下せらる、老熟したる幼蟲は根部或は他所に轉じ、稀に葉上に粗繭を造り蛹化することあり、大害なし。

分布　九州・臺灣・支那・印度。

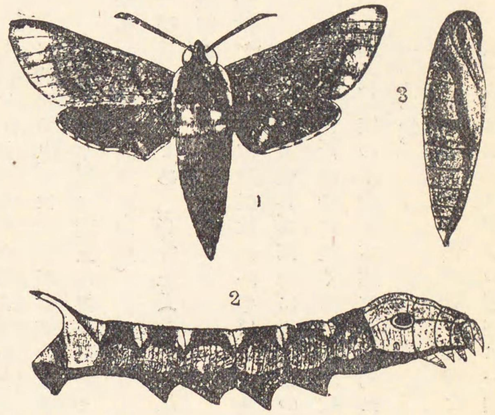
(一九) びろうどすゞめ　Rhagastis (Metopsilus) mongolianus Butl.　(第二百六十四圖)

被害植物　葡萄。

特徵　成蟲　前翅黑褐色、外半は灰白色、翅底に近く濃褐色の三橫線を具へ、外半に灰褐色の廣帶を橫走し、其兩側に黑褐色の點線を裝ひ、後緣角に近く三個の濃褐紋あり、後翅は暗褐色、內緣角に近く黃色の斑紋を裝ふ、體は暗褐色、後胸の左右に黃赤色の斑紋を具へ、複眼の上緣及び胸部の兩側に白條を裝ふ、腹部灰褐色、橙色を帶ぶ、體長九分、開張一寸九分。

幼蟲　背面は黑褐色、網狀の黑線を縱橫に走らす、側部は暗黃色、同じく網狀紋を具へ、氣門線は白色、第四節の兩側に一個褐色の眼狀紋ありて其中央は黑色、尾角割合に長

第二百六十四圖　びろうどすゞめ
(1)成蟲　(2)幼蟲　(3)蛹



し、體長二寸八九分。

經過　年一回の發生をなす、蛹にて越年、翌年六、七月の頃蛾化し、卵子を一個宛葡萄の葉裏に產下す、八月中旬頃より老熟し、地上に落ちて地下に土窩を造り其內に蛹化す、蛾は燈火に飛來す。

分布　本州・四國・九州。

尙此科に屬して有害なるもの左の八種あり、然れども大害なきものなり。

(二〇) こえびがらすゞめ Sphinx ligustri L.

被害植物　水蠟樹・榛・とねりこ・がまずみ・こゞめはしどい。

特徵　成蟲　體翅褐色、前翅に黑褐の太き縱條ありて、中央に五六の黑線を平行す、後翅淡紅色、黑色の三帶ありて、基部の一帶は短かし、腹部は蝦殼狀の紅色を裝ひ、黑色と斑をなす、開張二寸七分乃至三寸五分。

幼蟲　綠色、尾角は暗色、紫色と白色とを混ぜる七斜條を裝ふ。

分布　北海道・本州・歐洲。

(二一) けんもんすゞめ Kentrochrysalis streckeri Stgr.

被害植物　とねりこ・水蠟樹。

特徵　成蟲　灰色、翅端及び中央に黑色の縱線を具へ、中室に一環紋ありて、其中央は白色、胸背に黑縱條あり、後翅は暗色、開張二寸內外。

幼蟲　うちすゞめに酷似す、水蠟樹に寄生すれども其數少なし。

分布　本州・滿洲。

(二二) とびいろすゞめ Clanis bilineata Wk. (第三十四圖版(5))

被害植物　大豆。

特徵　成蟲　灰黃褐色、前翅の中央を斜走する二波狀線、翅端の一紋及び後翅の大部は暗褐色、開張三寸六分內外。

幼蟲　綠色にして顆粒を散在し、淡色の斜條を裝ふ。

分布　本州・朝鮮・支那・印度。

(二三) ひさごすゞめ Minas tiliae L. var. christophi Stgr. (第三十四圖版(3))

被害植物　田麻・赤楊・榊・楡。

特徵　成蟲　體翅褐色、前翅の中央に近き二大紋及び外緣は暗褐色、中央紋の合して瓢簞形を呈するものあり、開張二寸四分內外。

幼蟲　綠色、背上は黃色若くは褐色、七個の紫色斜條を裝ひ、其前方は赤色にて緣取ら

る、顆粒を散在す。

分布 北海道・本州・滿洲。

(二四) くろほうじやく Macroglossum saga Butl. (第三十三圖版③)

被害植物 ゆづりは。

特徴 暗褐色、前翅三分の一の處に黑色の太き一帶を具へ、中央に細き黑色の四帶を裝ひ、翅端に二黑紋あり、後翅の中帶は橙黃色、開張二寸內外。

幼蟲 黃綠色、頭、尾端及び背線は淡色、氣門は赤色、尾角は長し。

分布 本州・四國・九州・朝鮮・支那・臺灣・印度。

(二五) したべにせすぢすゞめ Hippotion celerio L.

被害植物 里芋。

特徴 成蟲 體翅黃褐色、前翅の中央に灰白色の縱條を具へ、後翅の基部は紅色なり、開張二寸二三分。

幼蟲 綠色又は褐色、第四節に大なる、第五節に小なる眼狀紋あり。

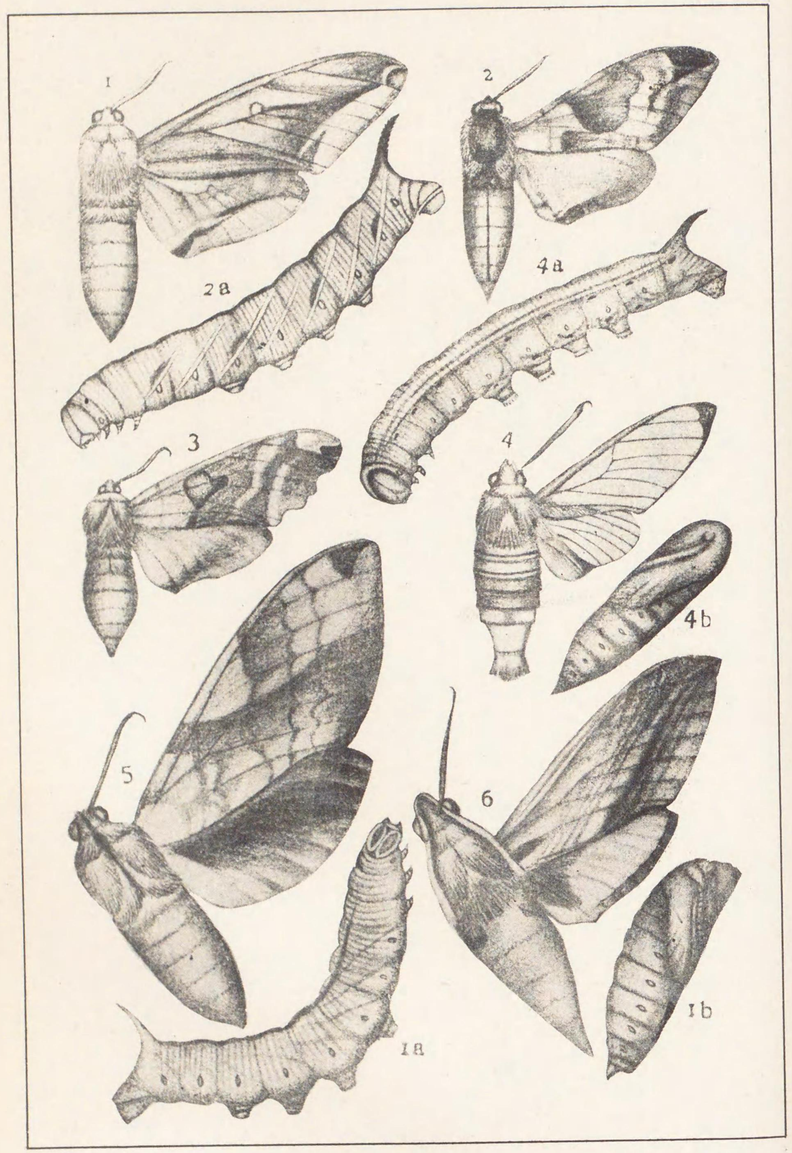
分布 臺灣・支那・印度。

(二六) したべにすゞめ Theretra alecto L. (第三十四圖版⑥)

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體翅栗色、前翅の翅端より後緣の中央に黃色の一條を斜走す、後翅紅色、基部

第參拾四圖



第參拾四圖

1. Parum colligata Wk. ぎんぼしすゞめ……P.702
   1a. 幼蟲 *1b.* 蛹
2. Calambulyx tartarinovii Br m. et Grey. うんもんすゞめ……P.703
   2a. 幼蟲
3. Minas tiliae L. ひさごすゞめ……P.715
4. Cephonodes hylas L. おほすかしば……P.706
   4a. 幼蟲 *4b.* 蛹
5. Canis bilineata Wk. とびいろすゞめ……P.715
6. Theretra alecto L. したべにすゞめ……P.716

は黑色、開張二寸四分内外。

幼蟲　綠色又は褐色、七個の眼狀紋を具へ、其内後方にある五個は小なり。

分布　臺灣・支那・印度。

(二七) みどりすゞめ Rhyncholaba acteus Cram.

被害植物　里芋・ずいき(臺灣)。

特徵　成蟲　體翅綠色、前翅の前緣は綠褐色、中室紋は黑色、翅端は黃白色、後翅は黑褐色、黃色の一帶を具ふ、開張二寸四分内外。

幼蟲　綠色、前方は細く、第四節に大なる眼狀紋を具へ、次節には小形なる卵形紋を裝ふ、尾角は短かし。

分布　臺灣・支那・印度。

(二八) きすぢすゞめ Leucophlebia lineata Wk.

被害植物　甘蔗。

特徵　前翅は淡紅色、中央に黃色の一縱條を具へ、其兩側は暗色、後翅は淡黃褐色、開張二寸三分内外。

幼蟲　綠色、顆粒を散在し、各節の兩側に二白條を具へ、以下にあるものは細くして判然せず、尾角は短かし。

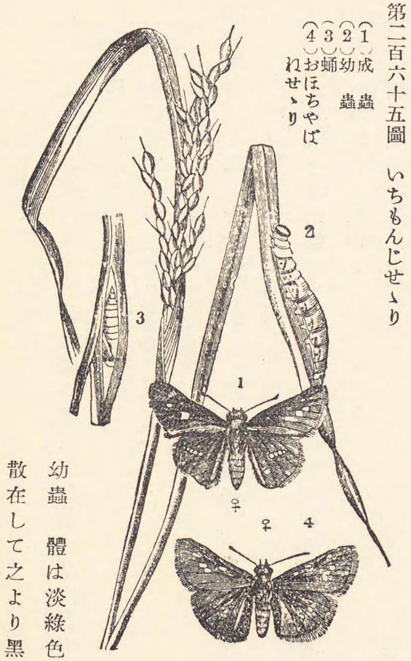
分布　本州・九州・臺灣・支那・印度。

蝶亞目 Rhopilocera.

撰蝶科 Hesperidae.

(一) いちもんじせゝり Parnara guttatus Brem. (第二百六十五圖1·2·3)

被害植物 稻竹蘆。



第二百六十五圖 いちもんじせゝり
(1)成蟲 (2)幼蟲 (3)蛹 (4)おほちやばねせゝり

特徴 成蟲 體翅黑褐、少しく綠色を帶ぶ、前翅には弧狀に並列せる八個の白色半透明紋あり、其第三室にあるもの方形にして最大なり、後翅には四個の白紋を裝ひ一列をなす、體長六分乃至七分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲 體は淡綠色にして稍々紡錘狀をなし、小黑紋散在して之より黑色の短毛を生ず、頭は大にして黃

褐、兩側に黑褐色の長短二縱線を裝ふ、體長一寸餘。

經過 東京地方にありては年二回の發生をなす、幼蟲の儘越年し、第一回の蝶は六月、第二回は八月下旬より九月中旬に現はれ、葉上に一個宛卵子を產下す、第一回の幼蟲は八月より九月に亘りて稻葉を食害し、第二回の幼蟲は普通山間にありて竹葉を食とす、幼蟲は絲を吐き葉を綴りて巢を造り、之より頭を出し食害す、成長すれば嫩葉を綴合して其內に蛹化す、廣く全國に分布し、九州にては三回、臺灣にては四五回の發生をなす。

驅除法 網を以て蝶を捕ふべし、**がゞいもいけま**、其他の花に集來するの性あり、又水田一反歩に付豫め一升の石油を注ぎ置き、大なる竹櫛を以て捲葉を梳り、幼蟲を水田に落して死滅せしむべし。

(二) おほちやばねせゝり Parnara pellucida Murr. (第二百六十五圖4)

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は頭小にして觸角少しく長く、後翅に於ける四個乃至五個の白紋は一列に並列せざることなり、體長五分五厘乃至六分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども、背線は褐色なり。

經過 同前、但し此の種は重に竹葉を食ひ、稻葉を害すること稀なり。

驅除法 同前。

小灰蝶科 Lycaenidae.

(一) うらなみしゞみ Lampides doeticus L. (第三十五圖版(1))

被害植物 いんげんなたまめ、ふぢまめ。

特徴 成蟲 雄の翅は藍紫色を呈し、外緣暗色、緣毛灰白、後翅の內緣に灰白の軟毛を密生し、後緣に二個の黑藍紋あり、尾狀の一附屬物を出だす、雌の翅は暗色、前翅の中央は紫藍色を呈し、後翅の外緣に近く灰白線あり、翅の裏面は灰色にして七個の白色波狀線あり、體長四分、開張一寸一分。

幼蟲 體は綠色、稀に褐色のものあり、背線は赤褐、兩側に濃綠の斜條を並列す、氣門線は灰白、頭は小にして褐色、躰は短大にして稍々紡錘狀に近く、背上は穹狀に膨大す、脚は小にして歩行の狀は蛞蝓(ナメクジ)に似たり、體長六分。

經過 本邦にありては年二回の發生をなす、卵子の有樣にて越年し、翌春孵化し、豆莢內に入りて其種子を食害し、老熟すれば葉若くは枝上にて蛹化す、蛹は垂蛹なり、七月上旬乃至下旬に現はる、九州地方には稀ならず、小笠原島には普通なり。

驅除法 網を以て蝶を捕ふべく、花圃を作り之を誘引するを可とす。

(二) むらさきしゞみ Arhopala japonica Murr. (第三十五圖版(2))

被害植物 血橘、樫。

特徴 成蟲 翅は黑褐、中室及び其下方の一面は紫藍色、裏面は暗褐にして光澤を帶び、中央に近く濃色の一帶を有し、外緣には濃色紋を一列に連ぬ、前翅の中室に一個後翅底に近く數個の濃色紋ありて、何れも淡色緣を有す、體長四分五厘、開張一寸。

(三) うらぎんしゞみ Curetis acuta Moor. (第三十五圖版(3))

被害植物 藤。

特徴 成蟲 雌雄により彩色及び翅形を異にす、翅は黑褐にして、雄にては中央橙紅色、雌にては青白色、但し雌にては此紋小なり、又後翅の前緣及び外緣は灰白、裏面は銀白色にして小黑點を散在す、雄にては前翅の前緣角雌の如く突出せず、體長四分五厘乃至五分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 暗綠色、頭は小にして黃褐、口部は紅褐、背線は暗綠色、亞背線は白色、各節斜走するを以て連續せず、初めの數節は膨大し、第十一節の背上には二本の管狀突起ありて其末端は暗褐、刺戟を與ふれば紫黑色にして末端白色の總毛悉く突出す、體長五、六分、(名和氏に據る)。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春一個づゝ產卵す、卵子は菊花狀をなし灰綠なり、幼蟲は黃綠にして背面銀色を帶び、老熟すれば胸部に一糸を懸け蛹化す、蛹は綠色にして、翅部淡色、胸背には**スペード**樣の灰色紋を裝ふ、成蟲は八九月頃現はれ、時に道路の馬糞に集まり、其液汁を吸收するを見る、臺灣地方にありては河床の濕地に

群集することあり、本邦にては其數多からざるを以て未だ害あるを知らず。

(四) からすしゞみ Theela w-album Knoch. (第三十五圖版(4))

被害植物 楡、槭、苹樹。

特徴 成蟲 翅は黑褐、斑紋を缺く、裏面は暗褐、前翅に近く白色の一横帶ありて第二脈の處にて少しく曲れり、後翅にはW字形の白帶を裝ひ、外緣には柿色紋を横列し、各紋の內側に黑色の半環あり、外側には一黑紋を裝ひ、更に其外側に白帶あり、體長三分五厘、開張一寸。

幼蟲 綠色、各節の兩側に白色の斜線あり、體下は淡綠色にして少しく暗褐の小斑を裝ふ、一見蛞蝓に似たる所あり、楕圓形にして黑紋を有す、頭は褐色、體長六分乃至七分に達す。

經過 蛹の有樣にて地中若くは地際に越年し、翌春五月頃現はれ、八月頃迄種々の花上に來集す、成蟲は半球狀、赤褐色の卵子を葉下に二個宛產下す、蛹は黃褐、翅鞘の部分は暗色、晩秋札幌地方にありて種々の植物に蛞蝓樣の幼蟲を見るもの多くは是れなり。

(五) みどりしゞみ Zephyrus taxila Brem. (第三十五圖版(5))

被害植物 赤楊。

特徴 成蟲 雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は黑色、緣毛は白色、雌は暗褐、或ものは前翅の中央に淡色紋を有す、種類により中室及び其下方の一紋は瑠璃色を呈することあり、又夏生の雄は瑠璃色の大紋を有す、裏面は暗灰色、前緣の外緣に近く一白帶あり、又外緣には下方擴大せる暗色の一帶あり、後翅には稍々W字形に近き白紋を裝ひ、後緣角に二個の橙黃紋あり、第二室にあるものは中央に黑點を有す、外緣に近く三條の灰白帶あり、內方の二帶は太けれども餘り判然せず、體長四分、開張九分乃至一寸一分。

經過 成蟲は六月下旬—七月上旬頃より現はれ、二匹相集まりて爭鬪するを見ること屢々なり、余は未だ幼蟲を知らずと云へども、「グレザー」氏の說によれば、既に七月より現はれ、赤楊の葉を食すと云ふ、幼蟲は綠色にして前種に酷似するもの丶如し、年二回の發生をなす、第二回は八月の中旬に現はる。

(六) おほみどりしゞみ Zephyrus orientalis Murr. (第三十五圖版(6))

被害植物 楢、楢、枹。

特徴 成蟲 雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は細くして黑色、後翅の內緣は暗褐、其緣毛は灰白、雌にありては暗褐、前翅の中央に灰色の一斜紋を裝ふ、裏面は灰色、前翅の外緣に接し第二脈に達する太き一白帶を具へ、其外側に暗色の不明帶ありて其兩側は灰白、後翅にW字形の太き白帶ありて其外側に更に三白帶を有し、一は外緣に位す、內緣角及び第二室の一紋は黃赤、後者の中央に黑紋あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲　余は未だ幼蟲を見たることなし、グレザー氏の說によれば灰色にして暗褐紋を裝ひ、各節の兩側は甚だしく突出すと云ふ。

經過　年一回の發生、六月下旬より八月頃現はれ、前種と同樣の性質を有すれども、詳細なる點に至りては未だ不明、札幌地方に極めて普通なり。

(七) めすあかみどりしゞめ Zephyrus brillantina Stgr. (第三十五圖版(7))

被害植物　槲(コナラ)・柏。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、色は少しく濃厚にして、前翅及び後翅緣は廣く黑色、後翅の尾狀突起は少しく短し、裏面は一層濃色、中室の橫脈上に暗色の短橫條ありて其兩側は白色、後翅の白帶は第七脈の處にて多くは內方に彎曲す、前翅の白帶は廣し、雌は前翅の中央に楕圓形の柿色紋を有す、體長五分、開張一寸三分乃至一寸四分。

幼蟲　銅褐色、背線は暗色、各節の接合部は淡色、各節の兩側に淡色の斜條あり、體長七八分。

經過　年一回發生、經過未だ明瞭ならざれども、成蟲は七月中旬より八月中旬に亘りて現はる、其數前者の如く多からず。

(八) うらじろしゞみ Zephyrus saphirina Stgr. (第三十五圖版(8))

被害植物　槲・柏。

特徵　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、光線の工合にて少しく紫色を帶ぶ、外

緣は黑色、後翅にありては外緣は廣く黑色、雌は全面暗色、裏面は灰白にして少しく銀色を帶ぶ、前翅の外緣に近く暗色の二橫帶あり、後翅にも亦三條の暗色帶あれども甚だ明瞭ならず、內緣角及び第二室の末端に黃紋を裝ふ、內緣角及び尾狀突起は暗色、體長四分、開張一寸一分乃至一寸二分。

經過　年一回發生、經過未だ判然せざれども、幼蟲が槲の葉を食することは確實なり、札幌地方にありて普通の種類なれども、喬木に多きを以て捕獲困難なり、七月上旬乃至中旬に現はる。

(九) みづいろをながしゞみ Zephyrus attilia Brem. (第三十五圖版(9))

被害植物　槲・柏・櫟・楡。

特徵　成蟲　翅は暗褐、緣毛は白色、後翅の外緣に細き白帶あり、其內方に五六個の白紋二列に連なり、尾狀突起は黑色にして長く、其內緣及び末端は白色、裏面は蒼白、暗褐の紋條あり、前翅の橫脈に長方形の濃色紋を具へ、其外側にも亦一帶あり、下方に至り少しく內方に屈曲す、其外側に二列の紋列ありて、內方にあるものは短くして第二室に達す、餘り判然せず、外側にあるものは判然し、第一室にある紋は大なり、尙外緣に判然せざる暗色の一帶を具ふ、後翅の中央にV字形の一帶を有し、外側に判然せざる三帶ありて、中央にあるものは紋列をなす、後緣角に二個の橙黃紋ありて、第二室にあるものは中央に黑點を有す、體長三分五厘乃至四分、開張九分乃至一寸。

幼蟲　淡綠色にして背上に黃色の紋條あり。

經過　蛹の有樣にて越年するものゝ如し、幼蟲は新芽を食す、六月上旬頃より蛹化し、六月下旬乃至七月上旬羽化す、東京地方に普通なり。

(一〇) **をながしゞみ** Zephyrus entiea Jans. (第三十五圖版(10))

被害植物　胡桃。

特徵　成蟲　體翅暗黑色、前翅の橫脈上に濃色の一紋あり、其外側は淡色、但し種類により裏面の斑紋の表面に透現することあり、後翅の尾狀突起長く、其末端は白色、裏面は白色、外緣は暗色、前翅には約七個の黑紋を裝ひ、翅底に近き二個は大なり、外緣角に近く柿色の小紋二個あり、後翅には四條の紋列ありて、前半にあるものは黑色、後半にあるものは暗灰色、內緣角は柿色にして其中央に二黑紋あり、體長四分乃至五分、開張一寸一分乃至一寸二分。

幼蟲　全體淡綠色にして判明なる斑紋を缺き、老熟すれば六七分に達す。

經過　年一回の發生、蛹の有樣にて越年するものゝ如し、成蟲は七月上旬乃至八月中旬現はる、其發生地にありては日に數十を得ること難からず、本州にては甚だ多からざれども、北海道には普通なり。

(一一) **むもんあかしゞみ** Zephyrus jonasi Jans. (第三十五圖版(11))

被害植物　槲・楢・枹。

特徵　成蟲　翅は黃赤(柿色)、雄の翅端の褐色なるものと然らざるものとあり、後翅の尾狀突起は黑色、其末端は白色、雌にては前翅廣く褐色、裏面は表面より少しく淡色、外緣に近く暗黃の一帶ありて後翅の同帶に連續す、其外側は黑褐、其外緣は淡黃、外緣には不明なる淡色の波狀線を具ふ、橫脈上に暗黃の一短線あり、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過　未だ判然せず、成蟲は八月上旬現はる、札幌地方にありては槲林に普通なり、余は未だ幼蟲を見たることなしと雖も、槲の新芽を食することは確實なり。

(一二) **あかしゞみ** Zephyrus lutea Hew. (第三十五圖版(12))

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前種に似たれども少しく淡色にして、前翅の末端は褐色、後翅の尾狀突起及び後緣角の二紋は黑褐、裏面は淡色、前翅に四條の白橫帶ありて橫脈上にある二個は短し、其外側にある二帶は平行して波狀をなす、何れも其間室は濃色、外緣にある一帶は上方に於て判然せず、下方の外側に黑條あり、外緣は濃色、後翅に三條の白帶ありて中央の二帶は平行し、外緣に近きものは波狀をなす、其外緣に黑色の半環あり、外緣は廣くして濃色、後緣角及び第二室に黑紋を具ふ、其外側に不明なる黑帶あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸三分。

經過　前種と同時に現はれ、同樣の害をなす、「ザイッ」氏の記載によれば滿洲地方にありて

は槲を食すれども、其大部は寄生蠅に侵害せられありと云ふ、東京地方には普通なれども、札幌地方にありては前種よりも少し。

(一三) **うらなみあかしゞみ** Zephyrus saepestriata Hew. (第三十五圖版(13))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、裏面に約九條の黑帶を横走するを以て容易に區別することを得べし、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過 六月中旬東京地方に普通なる種類なれども、未だ其幼蟲を見たることなし、札幌地方にありては七月中枹に普通なり。

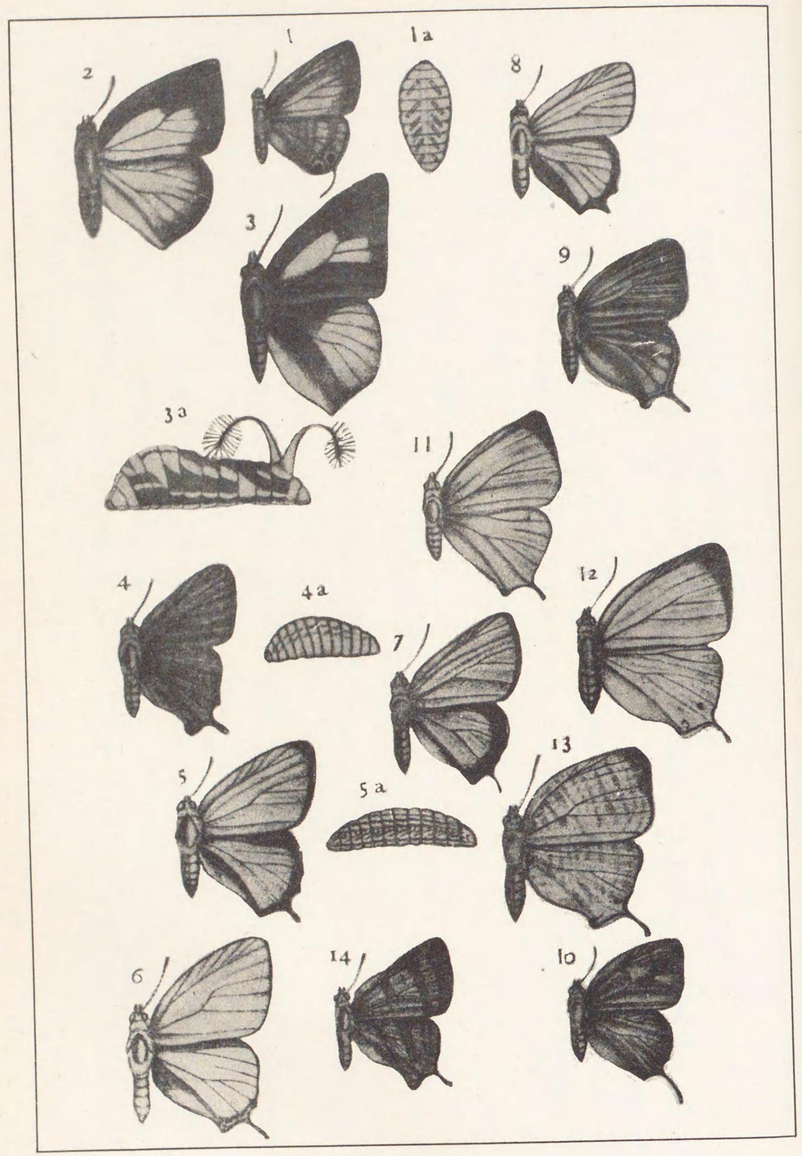
(一四) **とらふしゞみ** Deudorix (Rapala) arata Brem. (第三十五圖版(14))

被害植物 萩。

特徴 成蟲 翅は淡き黑藍色、裏面の斑紋を透視し得べし、後翅の後緣角に圓形の附屬突起ありて眼狀紋をなす、其中央は朱色、周圍は黑色、緣毛の一部は白色、尾狀突起は黑色、末端は白色、裏面は黃白、翅底及び斑紋は暗色、外緣に近く太き三帶を裝ひ、横脈上に一紋あり、後緣角は橙黃色、四個の黑紋を裝ふ、內緣に二個の黃白斜條あり、體長三分、開張一寸二分。

經過 未だ判然せざれども、蛹の有樣にて根際に越年するものゝ如し、成蟲は五月乃至六月現はれ、第二回の成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はる、後者にありては裏面の斑紋

第參拾五圖



第參拾五圖

1. Lampides boeticus L　うらなみしじみ……P.720
   a. 幼蟲
2. Arhop la j ponica Murr.　むらさきしじみ……P.720
3. Curetis acuta Moor.　うらぎんしじみ……P.721
   a. 幼蟲
4. Thecla w-album knoch.　からすしじみ……P.722
   a. 幼蟲
5. Zephyrus t xila Brem.　みどりしじみ……P.722
   a. 幼蟲
6. Zephyrus oriental's Murr.　おほみどりしじみ……P.723
7. 〃 brillantina Stgr.　めすあかみどりしじみ……P.724
8. 〃 saphirina Stgr.　うらじろしじみ……P.724
9. 〃 attilia Brem.　みづいろをながしじみ……P.725
10. 〃 enthea Jans.　をながしじみ……P.726
11. 〃 jonasi Jans.　むもんあかしじみ……P.726
12. 〃 lutea Hew.　あかしじみ……P.727
13. 〃 saepestr'ata Hew.　うらなみあかしじみ……P.728
14. Deudorix (Rapala) arata Brem.　とらふしじみ……P.728

褐色なり、之を var. tyrianthina Butl. と云ひ、幽暗なる溪流附近に普通なり、未だ其幼蟲を發見せざれども、成蟲の萩の葉に產卵するを以て見れば、其食草たるや明らかなり。

小灰蝶一般の驅除法

一、網を以て成蟲を捕ふべし、二、幼蟲は石油乳劑の二十倍液にて容易に驅除し得べし、三、秋季根邊の不要物を集めて燒棄すべし、四、花に集まる性ある蝶を誘引するには花圃を仕立つべし。

燕蛺蝶科 Erycinidae.

一 天狗蝶亞科 Libytheinae.

(一) てんぐてふ Libythea celtis Laich. var. lepita Moor (第三十六圖版(一))

被害植物 朴、李。

特徵 成蟲 翅は暗褐にして黃赤紋を裝ふ、前翅の中央に鍵形の長紋を具へ、其外側に圓形の一大紋あり、第四、第五、第六及び第七室に各一個の斑紋ありて、後三室にあるものは白色なり、前緣角の下方は著しく突出し、鉤狀に下向す、後翅の中央に大橫紋ありて內方に細まる、後緣は鋸齒狀をなす、裏面は灰褐にして斑紋は表面と同樣なれども餘り判然せず、下唇鬚甚だしく延長せるを以て「てんぐてふ」の名あり、體長六分、開張一寸五分。

幼蟲　綠色、頭は褐色若くは黃綠色、小黑紋を散在す、背線は白色、亞背線の處に黑紋を裝ふ、氣門上線は淡紅色若くは紫紅色、氣門は黑色、腹面は淡色、天鵞絨樣の短毛を密生せる爲め「きてふ」の幼蟲に酷似す、體長一寸內外。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春三月頃より現はれ、新芽に一個づゝ產卵す、八月頃より成蟲を見る、時々甚だしく發生することあり、李の葉を以て飼育するを得べしと雖も、野外にありては朴を食するのみ、蛹は初め淡綠なるも、次第に暗色となり、翅鞘緣は淡色なり。

驅除法　蝶は水邊に集まるの性あるを以て網を以て捕ふべし、蛹は綠色なれども、注意すれば發見すること難からず、幼蟲には廿倍液の石油乳劑を用ふべし。

蛺蝶科(ヒタドシテフ) Nymphalidae.

一　蛇目蝶(ジヤノメテフ)亞科 Satylinae.

(一) このまてふ Melanitis leda L. (第三十六圖版(2))

被害植物　稻、甘蔗、竹。

特徵　成蟲　翅は暗褐、前翅の第三室に大なる黑紋を具へ、其內側に黃色の弦月形紋あり、第四室に白紋ありて其內側は黑色、其上方に黃色紋あり、後翅に四個の眼狀紋を具へ、第二及び第三室にあるものは大なり、裏面は表面より少しく淡色、暗褐の小波狀線を

密布す、前翅に四個の眼狀紋を裝ひ、第三室にあるもの大なり、後翅の中央に暗褐の一帶を具へ、外緣に近く六個の眼狀紋あり、第二及び第六室にあるもの大なり、變種甚だ多く、斑紋及び形狀を異にするものあり、體長五分五厘乃至六分、開張二寸四分乃至二寸五分。

幼蟲　體は紡錘狀に近く黃綠色を呈す、背線及び亞背線は濃綠色にして判然す、腹面は淡色、頭は第一二節より大きく、黑褐にして黑條を具へ二突起を裝ふ、尾節には二本の太き刺狀突起あり、全體に短長兩種の白毛あり、體長一寸六分內外。

經過　年發生の回數は判然せず、九州地方にては年二回、臺灣にては春夏秋の三季間何時にても見得るを以て、これを推するに、少くも年四回の發生をなすものゝ如し、成蟲は禾本科植物殊に稻の葉上に一個づゝ產卵す、幼蟲は葉緣に沿うて食害し老熟すれば尾節を葉に附着し垂下して蛹化す。

(二) ひめじやのめ Mycalesis gotama Moor. (第三十六圖版(3))

被害植物　稻、竹。

特徵　成蟲　翅は暗色、中央に不明の淡色帶あり、前翅に二個の黑色蛇目狀紋あり、其周圍は黃色を呈す、而して下方にあるものは約四倍大なり、後翅の裏面に六個の眼狀紋あり、體長五分乃至六分五厘、開張一寸乃至一寸八分。

幼蟲　淡綠、多數の顆粒突起を散在す、頭は黃褐、兩側に二黑條あり、後頭の中央は黑色、

鬼角狀の二突起を出す、其前方は黑色二條の背線及び各節にある四環線は白色、尾端に葉狀の二附屬物あり「いちもんじせゝり」の幼蟲に酷似すれども葉を捲くことなし、體長一寸一分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月第二回は八月、經過未だ判然せざるも蛹の有樣にて越年するものゝ如し、蛹は垂蛹にして葉下に垂下す、初めは淡綠にして羽化前には淡黑となる、成蟲は葉に一粒づゝ產卵す、主として竹を食し、稻を害することは稀なり。

[附言] 之に酷似せるものにて「こじやのめ」(M. perdiccas HeW.) と稱するものあり、其幼蟲は同じく稻及び竹葉を食す、前種よりも少しく小形にして翅に淡色の中央帶を缺き、後翅の表面に一個、裏面に七個の眼狀紋を裝ふ、前種と混同して棲息す。

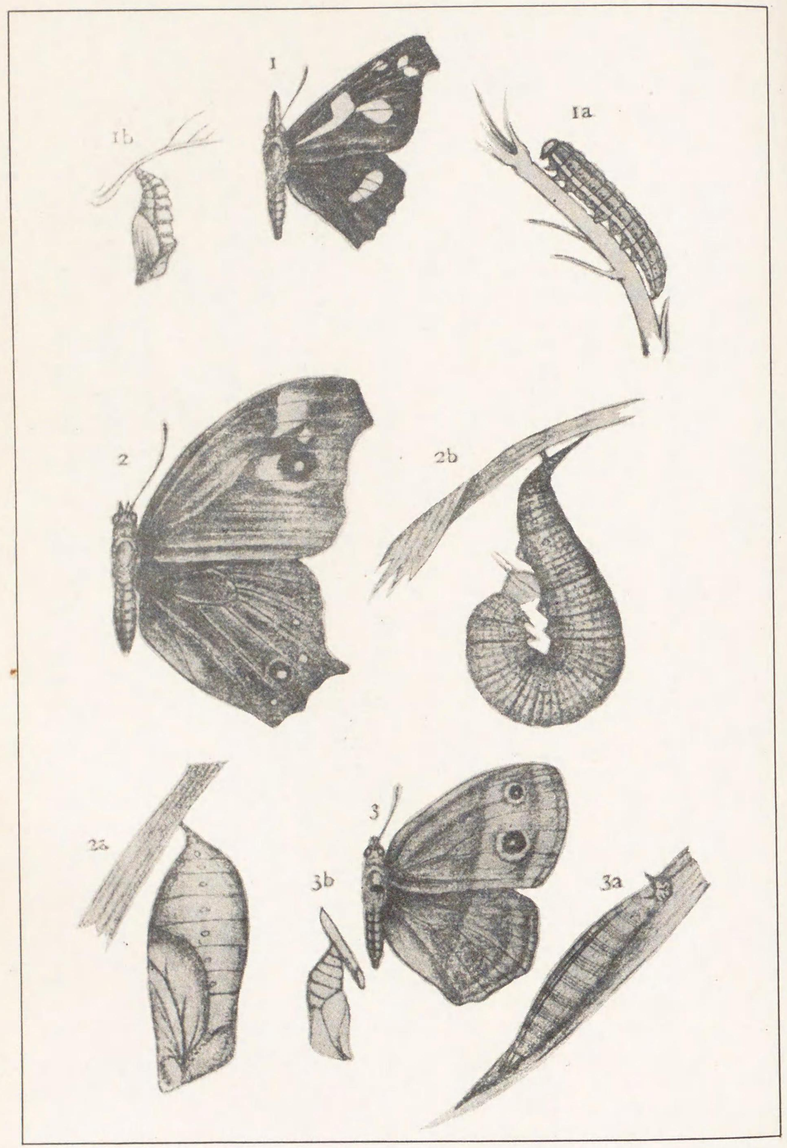
蛇目蝶一般の驅除法

一、網を以て成蟲を捕ふべし、二、蛹は葉下に垂下するものなれば注意して搜索すべし、三、幼蟲は掬網を以て捕ふべし、四、水田の場合にありては一反歩に凡一升位の石油を滴下し、其上に幼蟲を落し込むべし。

二 蛺蝶亞科 Nymphalinae.

(一) くじやくてふ Vanessa io L. (第三十七圖版(1))

第參拾六圖



第參拾六圖

1. Lioythea celtis Laich. var. lepita Moor. てんぐてふ ……P.729
a. 幼蟲 *b.* 蛹
2. Melanitis leda L. このまてふ……P.730
a. 幼蟲 *b.* 蛹
3. Mycalesis gotama Moor. ひめじやのめ ……P.731
a. 幼蟲 *b.* 蛹

被害植物 葎草蕁麻。

特徴 成蟲 翅は美麗なる朱色、前翅前緣の基部に短黃線を並列す、中室にある一紋及び其外側にある三角形の大紋は黑色、翅端に大なる孔雀紋樣の眼狀紋あり、其內方は黃色、外方は黑色にして靑藍色を混じ、中央は赤褐、上方は黑色、又中央に近く三個の靑白紋を裝ふ、尙第二及び第三室に靑白の一點あり、後翅の外緣に近く大なる孔雀紋樣の黑き眼狀紋ありて、其周圍は廣く暗灰色、中央は靑藍色、其內方に離れて大なる弦月樣の黑褐紋あり、外緣は暗褐、裏面は黑褐、黑色の小波狀線を密走し、後翅の中央には太き一波狀線あり、體長六分、開張一寸九分乃至二寸三分。

幼蟲 黑色、小白點を散在す、腹脚は黃褐、頭及び刺毛亦黑色、體長一寸五分乃至一寸七分。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春食葉に集合して產卵す、卵子は綠色にして饅頭狀に近く縱隆あり、老熟すれば食草に垂下して蛹化す、蛹は褐色にして少しく綠色を帶び、腹部に銀色紋を裝ふ、七月より九月に亘りて成蟲の發生を見る、札幌地方に普通なる種類にして葎草の葉を食害すること大なり。

(二) きべりたてば Vanessa antiopa L. (第三十七圖版(2))

被害植物 柳、白楊、樺、楡。

特徴 成蟲 翅は黑紫色、外緣は黃色、黑褐の小紋を散在す、其內側に太き黑帶ありて其中

央に藍色の楕圓紋を横列す、前翅の前緣には黃色の小紋を並列し、外緣に近く稍々大なる二黃紋あり、裏面は黑褐黑色の小波狀線を密布す、外緣は白色、黑褐の小紋を散在す、中央には黃色の一點あり、體長六分、開張二寸乃至二寸四分。

幼蟲　黑色にして白色の短毛を粗生す、刺毛は黑く、第二節にあるものは分支す、頭は黑色にして顆粒突起多し、第三節より第十二節迄各一個の黃褐紋ありて第六節乃至第八節にあるもの最も大なり、胸脚は黑色、腹脚は黃褐、體長一寸七分乃至二寸。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春葉下に產卵す、卵子は綠色楕圓形にして縱隆あり、七月より九月に亘り成蟲となりて出現す、壽命長し、札幌地方にありては甚だ普通の種類にして、往々全く柳葉を食ひ盡すことあり。

(三) ゑるたてば Vanessa l-album Esp. (第三十七圖版(3))

被害植物　柳、楡、樺、すぐり。

特徵　成蟲　翅は柿色、外緣及び斑紋は黑褐、翅端に近く白紋を裝ふ、外緣には判然せざる黃色の二波狀線あり、後翅の前緣に近く一白紋ありて第六及び第七室に跨り、其兩側は黑褐、外緣に黑褐帶ありて第三室の所にて屈折す、其外側は黃色、內側に黃色紋を列す、裏面は灰色、翅底の半部は黑褐、後翅にL字形の白紋あり、體長六分五厘乃至七分、開張二寸乃至二寸二分。

幼蟲　體は褐色、背上に二本の太き黃白縱線あり、但し各節相連續せず、兩側には黃白

の綾樣紋あり、氣門黑色、刺毛は黃色にして各數本の黑色枝を出す、脚及び腹面は淡黃褐、頭は褐色にして黃紋を散在し、分枝を有する二刺あり、體長一寸七分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉下に產卵するものゝ如きも卵子は未だ發見したることなし、幼蟲は喬木に住するを以て、其幼蟲の集合性なるや否やを知らず、老熟したる幼蟲の地上を匍匐するを見ることは屢々なり、札幌地方にありては七月中旬老熟し、八月上旬羽化す、山間に普通なる種類なれども捕獲困難なり、河畔の石上に靜止して暄を負ふもの多し。

(四) ひをどしてふ Vanessa xanthomelas Esp. (第三十七圖版(4))

被害植物　楡、朴、柳。

特徵　成蟲　翅は赤黃色、翅線は廣くして黑色、前翅の翅端に近き前緣に黃白紋を裝ひ、外緣に藍色鱗あり、後翅の中央に近く大黑紋を具ふ、外緣は暗褐色にして廣く藍色の弦月紋を連ぬ、裏面は黑褐色にして外半は色淡く、外緣に於ける青紫色の紋は相連りて條をなす、翅緣には凹凸多し、中室には一小黃紋あり、體長六分—六分五厘、開張二寸—二寸四分。

幼蟲　黑色、全面に黃色の小斑散在す、但し氣門に近きものは縱線をなせり、第四節より以下は各節に一褐紋を裝ふ、刺毛は黑色、腹脚は暗赤色、頭及び胸脚は黑色、體長一寸四分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に產卵す、卵は球形にして縱橫に溝あり、初め綠色後黑色となる、六月上旬蛹化し次で羽化す、本州には普通なれども北海道には稀なり、歐洲にありては年二回の發生をなす。

(五) きたてば Polygonia c-aureum L. (第三十七圖版(5))

被害植物　大麻、葎草。

特徵　成蟲　翅は柿色、暗黑紋を散在す、後翅の第二、第三及び第四室に黑褐の眼狀紋を具へ、其中央は靑藍色、裏面は淡黃褐色、褐色の小波狀紋多く、前翅の中央に褐色圈を有する三紋を裝ひ、後翅の中央には金色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸八分—二寸。

幼蟲　余は未だ幼蟲を見たることあらざれども「しーたてば」に酷似すと云ふ。

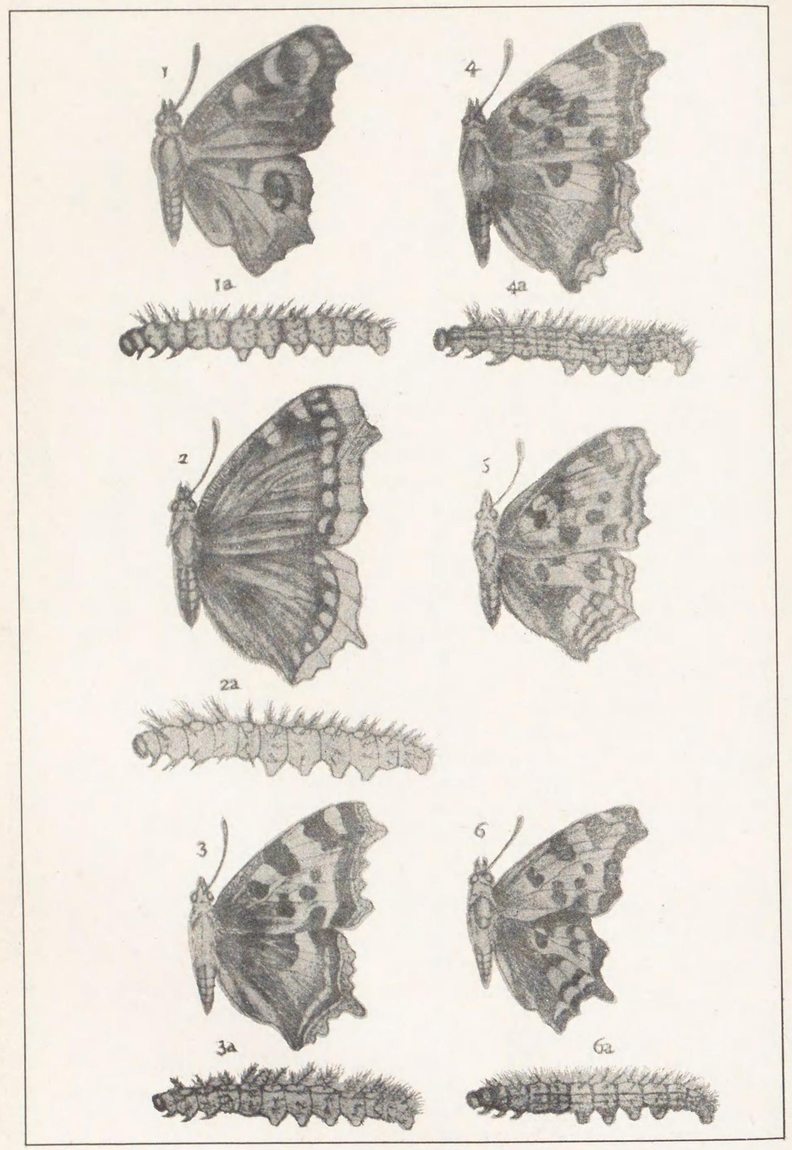
經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春新芽に集合して卵子を產卵するものゝ如し、夏日發生するものを普通種となし、秋季出づるものは變種にして之を var. pryeri Jans. と云ふ、色は淡色にして斑紋少く、裏面は暗色にしてあまり斑紋判明ならず、本州及び臺灣には普通なれども、未だ北海道に於て之を捕獲せしことなし、臺灣にありては年三回の發生をなす。

(六) しーたてば Polygonia c-album L. (第三十七圖版(6))

被害植物　黃麻、葎、麻、葎草、楡、すぐり、忍冬、榛等。

特徵　成蟲　翅は柿色、黑褐紋を散在す、前翅には約九紋を裝ひ、中室の橫脈にあるもの及

第參拾七圖



第參拾七圖

1. Vanessa io L. くじやくてふ ……P.732
a. 幼蟲
2. Vanessa antiopa L. きべりたてば……P.733
a. 幼蟲
3. Vanessa L—album Esp. ゑるたてば……P.734
a. 幼蟲
4. Vanessa xanthomelas Esp. ひをどしてふ ……P.735
a. 幼蟲
5. polygonia c—aureum L. きたてば ……P.736
6. Polygonia c—album L. しーたてば……P.736
a. 幼蟲

び其外側にあるものは大なり、外緣廣く黑褐色、後翅に三紋を裝ひ、外緣に近く二條の平行せる黑褐色の波狀帶あり、裏面は暗黃色、褐色若くは黑褐色の綾樣紋を裝ひ、後翅には白色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸六分―一寸八分。

幼蟲　初めは暗綠色、頭及び刺毛は黑色、成長すれば褐色、初めの六節は背上に於て赤黃色、殘部の各節は灰白色、刺毛は白色及び黃色、兩側にあるものは體色に同じ、頭は暗色にして刺毛ある二突起を裝ふ、體長一寸一分―一寸二分。

經過　年二回、稀に三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に產卵す、卵子は青綠色、楕圓形にして上面は平たく、縱溝あり、蛹は赤褐色にして褐紋を裝ふ、後胸背に銀色紋ありて深く凹陷せり、頭突起は平たく切斷狀に終はる、秋季發生するものは變種にして、之を var. hamigera Butl. と云ひ、外緣の凹凸更に一層深く、後翅の外緣は廣く天鵞絨樣の褐色にして其中央に五個の黃色紋を裝ふ、裏面は暗褐色なり、本邦に普通なる種類にして、晝間は楡其他櫟楢枹榊等の殼斗科植物の樹幹より出づる液汁を吸收し、黃昏路上に暄を負ひ、翅を開閉するの性あり。

（七）あかたてば Pyrameis indica Herbst. （第三十八圖版(1)）

被害植物　苧麻、黃麻、ラミー其他纖維植物。

特徵　成蟲　前翅前緣角の二分の一は黑色にして、之に數個の白紋を裝ふ、中央に柿色の大紋を具へ、其內に三個の黑紋あり、翅底及び後緣は暗褐色、後翅は暗褐色、外緣は柿色

之に黑紋の二列あり體長七分乃至八分、開張一寸七分乃至二寸。

幼蟲　灰黑色、二個の黃色背線ありて斷續す、氣門上下線は黃色にして、上線は斷續す、腹面は黃褐少しく赤色を混じ、中央に暗色の縱線を裝ふ、氣門黑色、周圍黃色各節に六個乃至七個の有枝の刺ありて、背線及び氣門上下線にあるものは黃色、他は暗色、頭黑色、白色の顆粒突起を有し、之より暗色毛を出だす、脚は黑色、體長一寸五分。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉裏に產卵す、卵は楕圓形、暗綠色にして淡色の網狀溝あり、六月中旬老熟す、蛹は灰色若くは褐色にして二列の棘狀突起を具へ、中に其金色を呈するものあり、胸背の中央に一個、兩側に各二個の稜狀突起あり、此他にも尙小突起あり、蛹は尾端を以て葉下に垂下す、第二回の幼蟲は十月中旬老熟し、次で蛹化し羽化すること前の如し、蝶は九月上旬現はれ黃昏路上に喧を負ふもの普通なり。

(八) ひめたてば Pyrameis cardui L. (第三十八圖版(2))

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども小形なり、前翅三分の一は黑褐色、後翅底の半部は暗褐、外半は柿色、三列の黑紋ありて其內方に更に一個の暗褐紋を裝ふ、前種よりも更に多き種類なり、體長六分乃至七分、開張一寸九分。

幼蟲　暗褐色、背線黑色、亞背線黃色にして斷續す、氣門下線は太くして黃色、疣狀をなす、氣門の後方に各一個の黃紋あり、腹面は淡赤褐色、白色の短毛を粗生す、各節の刺は前種に似たれども黃色、第二節及び氣門上に於ける刺は暗黑なり、頭黑色、顆粒狀の突起を具へ之より白毛を生ず、體長一寸四五分。

經過　同前、卵子は鷄卵形にして綠色を呈し、縱隆條を有す。

(九) こむらさき Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff. (第三十八圖版(3))

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　翅は黑褐色、中室は柿色、之に四個の黑紋あり、第二室に柿色の二紋を具へ、外側にあるものは其中央に黑褐紋を裝ふ、尙各室に二個若くは三個の柿色紋を有す、後翅の中央に柿色をなせるく字形の橫帶を具へ、外緣には柿色の紋列あり、第二室にある一紋の中央は黑色、雄は光線の工合により美麗の紫色を現はす、雌は紫色を帶ぶることなし、體長七分—八分、開張二寸—二寸三分、原種は略々同樣の斑紋を有すれども其色澤は灰白色なり。

幼蟲　體は綠色、黃色の顆粒突起を散在す、頭の前端に角狀の二大突起を裝ひ、末端は黑色なり、初めの四節に二條の黃色縱線あり、第六節より第十節迄各節の兩側に黃色の斜條あり、各節の接合部は黃色、尾端の突起は赤黃、腹部及び脚は少しく青色を帶ぶ、頭は綠色、老熟すれば一寸三四分に達す。

經過　年一回發生し、幼蟲の有樣にて越年す、翌春潛伏處より出で新芽を食害す、五月下旬

乃至六月上旬蛹化し、二週間を經て羽化す、卵子は一個づゝ葉下に產下せらるゝものにして、綠色若くは黃綠色をなし、圓柱形にして縱隆あり、蛹は淡綠色にして各節の接合部は黃色なり、成蟲は七月中旬頃より現はれ、櫟、解其他楡の如き樹幹より出づる液汁を吸收す、早朝道路の馬糞若くは牛糞上に靜止し、其液汁を吸收することあり、晝間は高く飛翔し時々下り來るを以て、これを待ちて捕獲し得べし、本邦何れの地にも普通なり。

(一〇) おほむらさき Sasakia (Euripus) charonda Hew. (第三十八圖版(4))

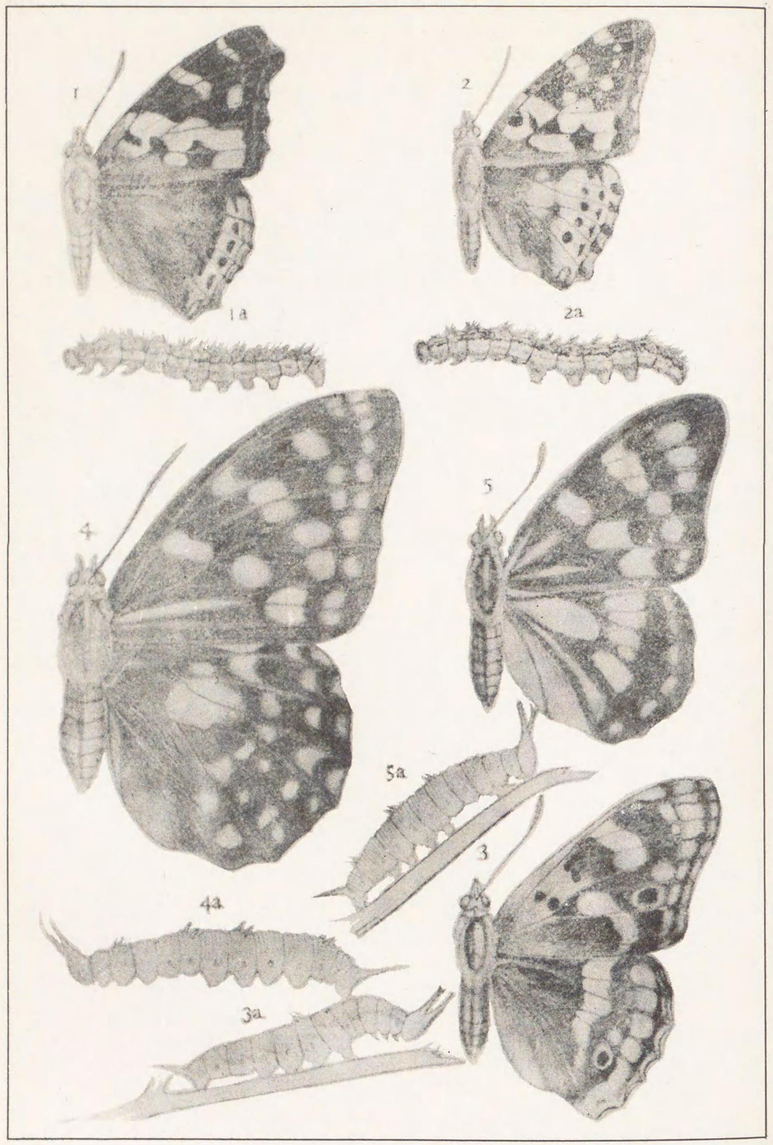
被害植物 朴楡。

特徵 成蟲 翅は黑褐色にして白色及び黃色の大紋を散在す、雄にては翅底の大半紫藍色にして其上に白色の斑紋あり、雌雄ともに後翅の內緣角に紅赤紋を裝ふ、雌にては翅の裏面帶綠黃色なれども、雄にては銀色を帶びたる部分あり、體長一寸一分—一寸五分、開張二寸五分—三寸五分。

幼蟲 體は綠色、黃白色の小顆粒紋散在し、白毛を裝ふ、頭及び尾節に二個の角狀突起ありて頭部にあるものは大なり、尙第二、第五、第七及び第十節に各二個の突起あり、老熟すれば體長二寸餘に達す。

經過 年一回の發生、前種に同じく幼蟲の狀態にて樹幹の空隙若くは落葉下に越年す、六月乃至七月中旬に蛹化し、蝶は七月中旬より八月中旬迄目擊し得べし、常に高く飛翔

第參拾八圖



第參拾八圖

1. Pyram is indica H rbst. あかたてば ……P 737
   a, 幼蟲
2. Pyrameis cardui L. ひめたてば ……P.738
   a. 幼蟲
3. Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff. こむらさき ……P.739
   a. 幼蟲
4. Sasakia (Euripus) charonda Hew. おほむらさき ……P.740
   a. 幼蟲
5. Diagora (Hestina) japonica Feld. ごまだらてふ ……P.741
   a. 幼蟲

すれども、時々槲楡其他殼斗科植物より流出する樹液を吸收せんとして來るを以て捕獲し得べし、卵は球狀にして稍々球狀を呈し、網狀溝あり、常に數十相集合して枝若くは葉裏に產附せらる、九月頃より幼蟲を見得べし、蛹は綠色にして側扁、頭部に一個の角狀突起あり、體長一寸五分。

［附言］拙著千蟲圖解第四卷百四十七頁に此の幼蟲は竹を食すと記したれども誤なるを以て玆に訂正す。

（一一）**ごまだらてふ** Diagora (Hestina) japonica Feld.（第三十八圖版⑤）

被害植物 朴、楡、柳。

特徵 成蟲 翅は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、前翅に三列の淡青白紋橫列し、內方にあるものは四個にして大、中列に五個、外列に三個あり、翅底に二三條の白線を縱走す、後翅の中室中央の橫紋列及び內緣は淡青白、尙外緣にも白色の小紋列あり、體長七分—八分、開張二寸三分—二寸六分。

幼蟲 綠色にして「こむらさき」の幼蟲に酷似すれども、頭部に於ける角狀突起は長く、上方三分の二は黑色にして其末端に至り二分す、尙第七節の背上には二個の後方に向へる黃色の棘狀突起あり、第五及び第十節の背上にも亦小突起あり、體長一寸三四分。

經過 年二回乃至三回の發生をなす、幼蟲の有樣にて樹枝上に越年し、翌春新芽を食す、第

一期の成蟲は五月下旬第二期は七月下旬乃至八月中旬、第三期は九月中旬より十月上旬、北海道及び東北地方にありては二回の發生にして第一期は七月上旬、第二期は八月下旬乃至九月上旬なり、臺灣にては發生回數更に多かるべし、卵は綠色にして球形、葉裏に產下せらる、蛹は垂蛹にして樹枝其他葉裏に垂下す、淡綠にして側扁、頭に二個の角狀突起あり、各節の兩側に白斜條を裝ひ、全面に白粉あり、長さ一寸一分、北海道にありては柳及び楡をも食すれども、本州にありては單に朴を食す。

(一二) ふたすぢてふ Neptis coenobita Stoll (Neptes lucilla F.) var. magnata Rühl. (第三十九圖版(1))

被害植物 こごめばな(珍珠花)、えぞはぎ。

特徵 成蟲 翅は黑褐色、二條の白帶あり、第一は中室にありて細く、三線と一線とよりなり前後翅を貫く、中央帶は廣くして七紋より成り、前翅の五紋に連續す、前緣角に近く三白紋あり、前翅裏面の中室には數個の白紋を裝ひ、後翅の外緣に近く弦月形の白紋列あり、體長五分—六分、開張一寸五分—一寸八分。

幼蟲 赤褐色、背線は暗色、第二、第三、第五及び第十節の背上に各二個の褐色栓狀突起あり、又各節の兩側に暗色の斜條あり、淡色線によりて限界せらる、氣門上線は黃色、腹面は淡色黃色の小紋を散在す、頭は黑褐色、小黃斑あり、體長一寸三四分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春六月乃至七月蛹化し、次で羽化す、蝶は飛翔すること緩漫なるが故に、花上に於て捕獲すること容易なり、蛹は淡褐色、背上に於

ける龍骨樣の突起は高し、兩側には褐色の綾樣紋を具へ、橫皺多し、翅鞘の部分は甚だしく突出す、長さ五分五厘、札幌地方に普通なる種類なり。

(一三) こみすぢ Neptis hylas L. (Neptis aceris F.) var. intermedia Pryer. (第三十九圖版(2))

被害植物 萩。

特徵 成蟲 翅は黑褐色、前後兩翅を貫く三條の白帶あり、第一は中室にありて二分せられ、第二は後翅の三分の一の處を斜走し、前翅の白紋に連續す、第三は後翅の三分の二の處にありて六個の白紋列より成る、第二及び第三帶の間並に外緣に近く判然せざる灰色の一橫帶あり、體長四分—五分、開張一寸四分—一寸八分。

幼蟲 初めは褐色、判然せざる疣狀突起を具へ、頭に二角狀突起あり、第三齡後は體に三雙の栓狀突起(第二、第三及び第十一節)を生ず、其中前方にある二雙は棘狀をなし、後方にあるものは後方に向ふ、第三節にあるもの最も大なり、第五節に二個の肉狀突起あり、背線は白色、第三節より(第六、七)に於ては脚の處迄延長す、第十一節に跨りて鞍樣の白色若くは灰綠色の斑紋あり、此斑紋の兩側に暗色の斜條あり、頭は褐色、下方廣く、上方小にして二突起を裝ひ、之に剛毛あり、體長一寸三四分。

經過 年二回の發生、第一回は五六月、第二回は七八月、第二回のものは第一回のものより翅帶廣し、稍々老熟したる幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化しついで羽化す、蛹は灰黃色にして形前種に酷似すれども、背上に銀色紋を裝ひ、頭に角狀突起あり、蛹期二週間、

卵子は葉下に一個づゝ產下せられ、綠色にして、指冠形をなし、六角形の小室を以て蔽はれ、八日乃至十日間にて孵化す、本邦何れの地方にも普通なり。

(一四) おほいちもんじ Limenitis populi L. (第三十九圖版(3))

被害植物 白楊柳。

特徵 成蟲 翅は暗褐色にして少しく青色を帶ぶ、白紋及び白帶を裝ふ、前翅の中室に一白紋あり、各室に一個若くは二個の白紋あり、外緣には判然せざる暗色の二橫帶を並行し、其內側に柿色の橫線を有することあり、後翅の中央に一白帶を裝ひ、其外方に柿色紋を橫列し、各其前後に暗色紋を列す、外緣に判然せざる暗色の一帶あり、裏面は柿色、內緣及び外緣は淡き暗綠色、體長七分—八分、開張二寸五分—二寸八分。

幼蟲 綠色、第四第六第八及び第九節は殆ど暗褐色、第五節及び第七節の背上に綠色の二紋ありて小白點を散在す、各節の背上に一雙の疣狀突起ありて短黑毛を生じ、第一節にあるもの最も大なり、頭は前方赤褐色、兩側黑色、二突起を具へ、更に少しく縊れたる二個の黃環あり、體長一寸七八分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年す、幼蟲は梢上にありて葉を筒狀に捲き、翌春新芽を食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、蛹は黃色にして褐色の雲狀紋と黑色の小紋を裝ふ、頭及び胸部に瘤狀突起を具へ、翅鞘は大にして突出し、第一腹部には黃褐の斧狀突起あり、體長七分、成蟲は七月中旬乃至八月下旬現はる、北海道に普通なる種類

にして特に北見地方にありては數十を得ること難からず、多くは雨後道路の水を吸收せんとして來り、平時は河畔の石上に靜止す。

蛺蝶亞科一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、但し蝶を捕ふるには豫め花圃を設け置き花上に來るものを捕ふべし、又穀斗科植物の樹幹より滲出する液汁を吸收するを以て、此種の樹木に注意すべし、又此等の木に豫め糖液を塗抹し置き、之に誘引して捕ふるも便法なり、糖液には醋酒其他香氣あるものを混ずるを宜しとす、牛酪其他馬糞牛糞等に集まるの性あるを以て注意すべし、又雌雄何れにても可なるが囮を用ひて誘殺すべし。

二、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、特に幼時は三十倍液にても容易に驅除し得べし、又粗布にて手袋を造り、之を以て幼蟲を捻り殺すべし。

三、時々葉下を檢し蛹を搜索して殺すべし、蛹は食葉下に垂下するを常とす。

粉蝶科 Pieridae.

(一) もんしろてふ Pieris rapae L. (第三十九圖版(4))

被害植物 蘿蔔、蕪菁、蔓菁、蔬菜、其他十字花科植物。

特徵 成蟲 體は黑色、翅白色、前翅底の半部及び前緣は灰白、翅端及び稍々中央にある二

紋は黑色、後翅の前緣にも亦一黑紋あり、裏面は淡黃、後翅の前緣は黃色、雄にては前翅中央の二黑紋甚だしく判然せず、時に全く之を缺くものあり、體長六分—六分五厘、開張一寸八分乃至二寸一分。

幼蟲　綠色、背線、氣門線及び氣門上線は黃色、但し氣門線は斷續せり、氣門は黑色、腹面は黃綠、頭は綠褐、全面に無數の小褐紋散在し、之より黑色及び白色の短毛を密生す、體長一寸三四分。

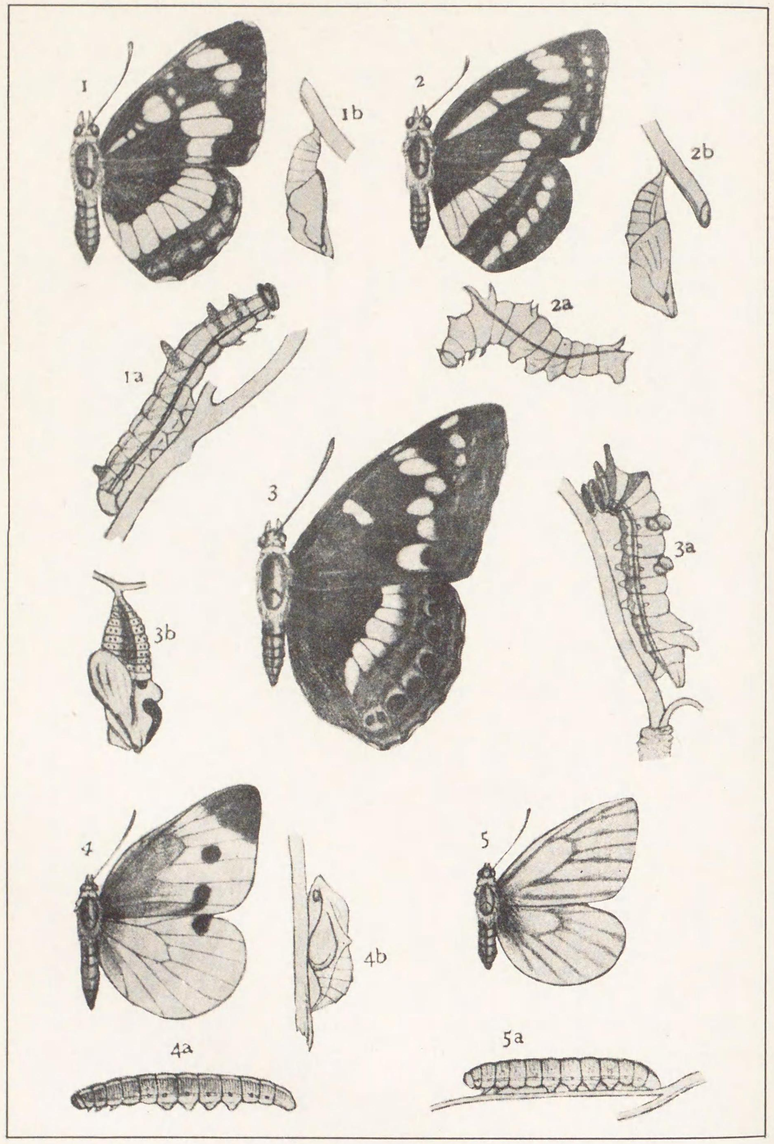
經過　年二回若くは三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹にして、灰黃綠褐若くは暗褐の諸色あり、三條の黃線あるを常とす、又體には黑褐の小紋を散在す、羽化前は白臘色を帶ぶ、頭には楔狀の突起を具へ、胸背の中央には縱隆あり、翌春四五月頃羽化し、黃色の卵子を一個宛葉下に產附す、數日に亘りて產卵するの性あり、卵子は約二週間を經て孵化す、隨つて幼蟲の出づる時期一樣ならず、第一回の蛹は普通葉下にあれども、第二回の幼蟲は老熟すれば籬垣、板塀、軒下等に隱所を求めて蛹化し越年す。

驅除法　網を以て蝶を捕獲すべし、此の種は黃昏菜圃附近の叢中に集まるの性あり、花園を作り之を集めて捕ふるも亦一法なり、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、除蟲菊の粉末に四十倍の木灰を混じ撒布するも亦大効あり。

(二) すぢぐろてふ　Pieris napi L. (第三十九圖版(5))

被害植物　同前。

第參拾九圖



第參拾九圖

1. Neptis coenobita Stoll. lucillaF.)var. magnata Rühl.ふたすぢてふ…P.742
   a. 幼蟲　*b.*蛹
2. Neptis hylas L.(aceris F. var. interm dia Pryer.　こみすぢ……P.743
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
3. Limenitis populi L.　おほいちもんじ ……P.744
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
4. Pieris rapae L.　もんしろてふ ……P.745
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
5. Pieris napi L.　すぢぐろてふ ……P.746
   a. 幼蟲

特徴 成蟲 翅白色、前緣及び翅脈の一部は灰黑、前緣角第一室及び第三室にある各一紋は暗黑、但し種類により此等の紋を缺くものあり、後翅は前緣に一暗黑紋を裝ひ、第三乃至第六脈の末端は暗黑體長五分乃至七分、開張一寸三分乃至二寸。

幼蟲 少しく褐色を帶びたる綠色、兩側は少しく淡色、氣門線は黃色、氣門黑色、赤黃の周緣を具へ、全體に白色及び黑色の小點を散在し、短毛を密生す、前種に酷似す。

經過 前種に酷似す卵子は黃色なれども少しく綠色を帶び、蛹は稍々大なる黑紋を散在し、翅鞘緣は黃色を帶び、頭及び胸背突起の稍々大なる等は重要なる異點なり。

驅除法 同前。

(三) えぞしろてふ Aporia crataegi L. (第二百六十六圖)

被害植物 苹樹、山樝(サンザシ)(稀に梨、梅、海棠)。

特徴 成蟲 翅は白色、翅脈、外緣及び翅底は黑色、灰白毛を密生し、觸角の末端は黃白、體長八分、開張二寸三分乃至二寸六分。

幼蟲 背線及び亞背線は黑褐色にして少しく紫色を帶ぶ、頭、第一節及び尾節の硬皮板、氣門、脚及び其外側の瘤起は黑色、白色の長毛を密生し、背上にて黃褐の短毛あり、體長一寸二分乃至一寸四分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて枯葉の中に越年す、翌春巢より出でゝ新芽を食害し、六月上旬に至りて蛹化す、蛹は黃白、黑紋及び黃紋を散在す、氣門線は黃色、常に數個相